

社会福祉法人山口市社会福祉協議会

令和5年度事業報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

国は、令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけを5類に移行し、これにより、感染対策を個人の判断に委ねる等コロナ対策の方向転換を行いました。

3年余り続いたコロナ禍の影響は、生活不安の増大や社会のつながりの希薄化を背景に、孤独死、虐待、ひきこもりなど見守りが必要な人の福祉課題をさらに顕在化させました。

本会では、こうした課題解決に向けて、事業推進のための指針である「第4次山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」の年次計画に沿って、地域共生社会の実現に向けた地域福祉活動を展開しました。

その取組みとして、生活支援コーディネーター(第1層及び第2層)を配置し、生活課題の拾い上げを行うとともに、相談支援体制の拠点となるやまぐち「まちの福祉相談室」(通称：ふくまる相談室)を、本所・北部支所地域福祉課内及び山口市川西地域包括支援センターと山口市川西第2地域包括支援センターに設置し多様な相談にあたりました。

生活困窮世帯に対しては、山口県社会福祉協議会やパーソナル・サポートセンターやまぐちと連携しながら通常の生活福祉資金貸付業務の中で経済的な支援を行い、また、身寄りのない高齢者や精神上的障がいのある方等の支援については、成年後見制度の機能を強化するための「成年後見制度利用促進事業(持続可能な権利擁護支援モデル事業)」の一部を山口市から受託し、山口市権利擁護支援検討ワーキンググループの運営を通して、仕組みづくりを進めました。

令和5年6月末から7月にかけての大雨による山口市で発生した災害では、7月3日から31日までの20日間、災害ボランティアセンターを立ち上げ、23件のニーズ要請に応えました。その間、協定団体を中心に延べ113名の方に災害ボランティアとしてご協力をいただきました。今後も協定団体や地区社会福祉協議会、山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会など関係機関との連携を密にして、災害に強い地域づくりを目指します。

なお、介護保険関連事業所及び障がい者関連事業所においては、令和4年度に策定した法人全体の事業継続計画(BCP)を基に、事業所ごとに事業継続計画を作成し緊急事態発生時の対応方法や優先業務を明記しました。

「第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画」では、各事業の過去5年間の実績、成果と課題及び改善点、費用対効果を基に事務事業評価を行い、本会の主力事業を構築するとともに、利用度の低い事業や他機関に移行でき、住民に影響の少ない11の事業について終了することを決定しました。特に、閉所を決定した南部居宅介護支援事業所及び南部訪問介護事業所については、利用者の承諾とケース移管を丁寧に進めてまいります。

築40年の社会福祉センターしらさぎ会館では、老朽化に伴い、エレベーターをリニューアルする改修工事を行い、安心・安全に利用できる施設の整備を行いました。

今後も「第4次山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」及び「第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画」を軸に、各事業の進行管理を確実にを行い、地域共生社会の実現に向けた地域福祉活動を展開します。

重点事業

●「福祉ビジョン2020」がめざす「ともに生きる豊かな地域社会」の実現

1 「第4次山口市地域福祉活動計画」の推進

- (1) 地区社会福祉協議会活動の支援と協働
- (2) 地域福祉を推進する人材の育成と専門職等のネットワークの構築
- (3) 見守り訪問活動及び地域支え合い活動の推進
- (4) 地域子育て支援機能の充実
- (5) 社会福祉法人の地域公益活動の支援と協働
- (6) 持続可能な権利擁護支援事業の構築及び推進
- (7) 法律相談や貸付相談及び重層的支援体制整備事業の推進
- (8) 介護保険法関連事業及び障害者総合支援法に基づくサービス事業の推進

2 「第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画」の策定

◇基盤強化計画推進室の設置による計画の推進及び進行管理

- (1) 組織強化と効率的な組織運営<組織>
 - ① 組織体制の見直し
 - ② 業務の効率化
 - ③ 情報管理・発信能力の強化
 - ④ 内部管理体制の整備強化
- (2) 人材の確保・育成<人材>
 - ⑤ 職員の資質及び専門性の向上
 - ⑥ 職場環境の整備
- (3) 安定的な財政運営<財政>
 - ⑦ 民間財源の確保と効率的運用
 - ⑧ 公費財源の確保と効率的運用
 - ⑨ 事業収入の確保と効率的運用
 - ⑩ 安定的な財政運営のための仕組みづくり
- (4) 効率的な法人運営

重点事業Ⅰ

「第4次山口市地域福祉活動計画」の推進(令和5年度～令和9年度)

1 「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」の実行

この度、山口市と本会が策定した「第4次山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」は、令和5年度から令和9年度の5箇年の計画となります。

今回の計画は、社会情勢の変化や国等の動向、今までの計画の成果を踏まえ、市民や地域、福祉関係機関など地域福祉に関わるすべての人々と協働し、国全体で進められている「地域共生社会」の実現を目指し、重層的支援体制整備事業と一体的に取りながら本計画を推進します。

本会は、3つの基本目標（基本目標1「地域福祉を支えるひとづくり」、基本目標2「ともに見守り、支え合う地域づくり」、基本目標3「誰もが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり」）を念頭におき、地域のみならず関係機関等と連携を取りながら本計画を推進します。

また、「地域福祉推進協議会」にて、活動目標ごとに取組みの進行管理を行うとともに、市民の視点からの評価、検証を行い、その結果に基づき必要な見直し等も進めます。

【山口市地域福祉活動計画の実行(1年次の主な取り組み)】

基本目標1 地域福祉を支えるひとづくり

活動目標1 地域福祉活動の普及・啓発及び活動支援

活動目標2 地域福祉の担い手の育成・参加促進

活動目標3 福祉教育の推進

基本目標2 とともに見守り、支え合う地域づくり

活動目標1 地域交流の場づくり

活動目標2 地域の支え合い活動の推進

活動目標3 安全安心に暮らせる防災防犯体制づくり

基本目標3 誰もが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり

活動目標1 地域福祉の基盤づくりとネットワーク強化

活動目標2 権利擁護のための支援の充実

活動目標3 地域の生活課題の発見・把握と解決の仕組みづくり

活動目標4 包括的支援体制の構築

※**主要事業**のほとんどが、本計画の中に含まれます。

主要事業

1 地区社会福祉協議会活動の支援と協働

(1) 小地域福祉活動計画策定及び実行委員会の開催

* 受託事業

事業名	地区社協名	会議回数
第1次小地域福祉活動計画の策定	全地区実施済み	—
第2次小地域福祉活動計画の策定	全地区実施済み	—
第3次小地域福祉活動計画の策定 (令和6年度～令和10年度) ※ 座談会等を開催し、第3次計画を策定する	柚野	4
第4次小地域福祉活動計画の策定 (令和6年度～令和10年度) ※ 座談会等を開催し、第4次計画を策定する	大歳	5
	名田島	3
第5次小地域福祉活動計画の策定 (令和6年度～令和10年度) ※ 座談会等を開催し、第5次計画を策定する	白石	3
	宮野	7
	秋穂二島	5
第2次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和2年度～令和6年度)	小郡	3
	阿知須	3
第2次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和3年度～令和7年度)	秋穂	2
	阿東	3
第3次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和2年度～令和6年度)	湯田	3
	平川	4
第3次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和3年度～令和7年度)	大内	3
	串	2

事業名	地区社協名	会議回数
第3次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和4年度～令和8年度)	出雲	3
	八坂	2
第3次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和5年度～令和9年度)	島地	3
第4次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和2年度～令和6年度)	嘉川	3
第4次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和3年度～令和7年度)	大殿	3
	鑄銭司	2
第4次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和4年度～令和8年度)	仁保	1
	佐山	1
第4次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和5年度～令和9年度)	吉敷	4
	陶	3
第5次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和5年度～令和9年度)	小鯖	2

《成果と課題》

「小地域福祉活動計画」の策定に着手した地区は、現行計画の中で取り組んできた5年間の各事業を総点検する機会となった。

また、その他の地区で実施された「小地域福祉活動計画実行委員会」は、現行小地域福祉活動計画の進行管理(進捗状況の確認)の場や地域づくり計画等との調整を行う場として実施した地区が多くあった。

なお、地域により、人口の減少や高齢化により、担い手の減少により、集いの場の解散や立ち上げの難しさ等が出てきている。

また、令和4年度に策定した山口市福祉活動計画・山口市地域福祉活動計画について、概要版等を活用し実行委員会や策定委員会等で情報提供及び説明を行った。

(2) 山口市地区社会福祉協議会連絡会の運営支援

1. 会議・研修テーマ(目標)

各地区社協の代表者が集い、相互の情報交換と研修を行うことで、各地区の取り組みや課題を共有し、それぞれの小地域福祉活動につなげるとともに、山口市の地域福祉活動の発展に資する。

2. 会議・研修報告

会議・研修名	開催時期	内 容	対象者	会 場	当番地区
連絡会	6月5日(月) 午前9時30分～	1. 役員選任(改選期に伴うもの) 2. 令和4年度事業報告 3. 令和5年度事業計画 4. 市社協各担当課からの事業説明(マイクロバス等運行事業など) 5. 地区敬老行事対象者名簿の配付	地区社協会長	県総合保健会館	(南部)
研修会	8月29日(火) 午後1時30分～	1. 事務連絡(市社協事業(共同募金関連・つながりを絶やさない事業の変更点・マイクロバス等運行事業)) 2. テーマ「多機関との連携～山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会(公益協)の取り組みについて」事例発表 梅光苑 濱村室長 宮野地区社協 三好顧問 3. 情報交換会(地区社協と社会福祉法人との連携状況と連携して地域課題で取り組めること)	地区社協会長 事務局長・事務局員	維新みらいふ スタジアム会議室	(北部)
情報交換会	12月6日(水) 午後4時～	山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会役員と山口市地区社会福祉協議会役員の情報交換会の開催について	地区社協連役員	湯田地域交流センター	—
連絡会	令和6年 3月21日(木) 午後1時30分～	1. 令和6年度地区社協連絡協議会事業計画(案) 2. 令和6年度市社協事業計画(案)	地区社協会長	県総合保健会館	—

役員会実施日 第1回5月17日(水)・第2回7月18日(火)・第3回11月10日(金)
第4回令和6年1月29日(月) 全て本所会議室にて実施

《成果と課題》

市内25地区社会福祉協議会会長をもって組織する「山口市地区社会福祉協議会連絡会」が平成28年12月14日に発足され7年目となる。研修会では、多機関との連携を掲げ、地域にある社会資源と今後、地域福祉課題に取り組むべく第一歩の研修と情報交換ができた。また、本会事業の進め方等について、役員会を中心に協議ができています。

今後の課題として、研修で学んだ内容を地域性に考慮して、地域で活かすにはどのようにすべきかという仕掛けが重要になってきている。

2 地域福祉を推進する人材の育成と専門職等ネットワークの構築

(1) 福祉の輪づくり運動関係者及び福祉員研修会の開催

開催日	10月31日(火)
会場	山口県総合保健会館
参加者数	180名
内容	<p>【講演】【テーマ】 「見守り訪問活動」について～小地域福祉活動の事例から～</p> <p>【講師】山口県立大学社会福祉学部 名誉教授 草平 武志 氏 【事例発表者】湯田地区社会福祉協議会 会長 増本 好夫 氏 嘉川地区福祉員協議会 副会長 大林 和美 氏 徳地地区福祉員協議会 会長 野村 新一郎氏</p>

《成果と課題》

今回は、『「見守り訪問活動」について～小地域福祉活動の事例から～』と題して講演を行っていただいた。福祉員改選1年目の年であり、他地区ではどのような見守り活動を実施しているかを発表していただくことによって、日頃の活動の参考になったという感想があった。また、事例発表者は、様々な立場にある方たちを選定し、あらゆる視点からの活動について発表していただいた。今年度は、昨年同様に福祉員、民生委員、地区社会福祉協議会関係者、地域包括支援センター関係者に周知し、参加者を募った。さらに、担い手不足が問題にあがる中、様々な方が見守りできるようにするために、介護支援専門員(ケアマネジャー)や企業ボランティアにも参加を募った。

(2) 山口市地域住民グループ支援事業の推進 * 受託事業

○事業内容: 地域において高齢者の生きがいと社会参加を促すとともに、社会的孤立感の解消、自立生活の助長及び要介護状態になることの予防を目的とするふれあい・いきいきサロン等の自主活動グループや山口市高齢者生きがいセンターの管理運営団体に対して支援を行った。

○ 補助金交付内容

【地域住民グループ】 全22箇所

グループ	運営費支援		会場費支援
	新規	2年目	
ふれあい・いきいきサロン	1箇所	0箇所	14箇所
サロン以外のグループ	2箇所	0箇所	5箇所
合計	3箇所	0箇所	19箇所

【高齢者生きがいセンター】 全4箇所

No.	地区	センター名
1	大内	大内の館
2	宮野	宮野やすらぎの里
3	鑄銭司	鑄銭司生きがいセンター
4	名田島	いきいきやかた

《成果と課題》

地域住民グループは、新しく活動を開始されるグループが3箇所あり、引き続き継続されるグループにも会場費、運営費の補助等を行った。活動を開始されようとするグループから補助金申請の相談を数件受けたが、補助金交付に至らなかったケースもあった。今後も活動についての広報紙への掲載や、民生委員・児童委員及び福祉員、地区社協等の会合にて説明、PRをする場を設けていきたい。

(3) ふれあい・いきいきサロンの推進

○事業内容:ひとり暮らし高齢者をはじめ、地域に住んでいる方々が生活に寂しさを感じたり、地域の中で孤立したり、家に閉じこもることがないように地域の中で楽しく過ごせる場をつくる活動を推進する。

○登録サロン数:243箇所

○新規登録サロン:1箇所

○ふれあい・いきいきサロンレクリエーション講習会 実施状況

・実施回数:全17回実施

・延参加者 159名

・講習会の内容:つまみ細工ブローチ作り、サロンでできる小物づくり、感染対策について～きちんと知っている?感染対策のこと～、探してみよう自分の健康～運動・食事・社会参加～、“羊毛フェルト”の良さを使って〇〇〇を作りましょ♡、熱中症予防とハーブソルト作り、クラフトハンドの小物入れづくり、笑いヨガ、銭太鼓(2回)、サロンでできる自分に合った運動づくり、折り紙、寒い冬を元気に乗り切ろう!～おススメのストレッチと温活レシピ～、植物のクラフトづくり、セルフ整体とセルフリンパで健康づくり、健康寿命を延ばそう!～健腸長寿の方法～、新しいリハビリ運動～体が全身から変わることを実感しよう～

○ふれあい・いきいきサロン講師派遣事業(サロンお助け隊) 実施状況

・登録講師62(個人・団体) ・派遣実績:140回

○ふれあい・いきいきサロン器材貸出 実施状況

・貸出実績 274件

○子育てサロン交流会の開催

①開催日:11月14日(火)

②会 場:山口県総合保健会館

③内 容:講演「子育て支援に役立つ遊び」

講師 社会福祉法人たんぽぽ会子育て支援センターたんぽぽひろば 山本真理子 氏
グループワーク

④参加者:19名

○ふれあい・いきいきサロン交流会の開催

①開催日:11月14日(火)

②会 場:山口県総合保健会館

③内 容:サロンの活動紹介(小鱈地区)友和会

グループワーク 『みんなで話してみませんか～それぞれのサロン活動～』

④参加者:75名

《成果と課題》

本年度は新規に登録されるサロンや立ち上げられるサロンがあり、また現在立ち上げを検討されている地域も複数あり、相談も受けている。今後も、地域の中にサロンが増えていくことを目指し、民生委員・児童委員及び福祉員、地区社協等の会合にて説明、PRをする場を設けていきたい。また、現在活動しているサロンにも、サロン活動を持続的に行うことができるよう支援を行っていく。

交流会では、今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられて初めての交流会となったが、午前中に子育てサロン交流会、午後に分れあい・いきいきサロン交流会として開催した。

ふれあい・いきいきサロン器材貸出事業については、身体を使う器材の人気の高かった。本会保有貸出器材の写真をホームページに掲載し、ゲーム等器材の貸出の促進につながるように努めた。また、地区社会福祉協議会主催のサロン交流会等で器材の紹介や指導を行い、サロンへ器材の周知や利用促進を行った。

講師派遣事業では、健康づくりのための運動や講座を行う講師や音楽や演芸等鑑賞できる活動を行う講師が人気を博した。楽器演奏等音楽活動を行う講師の登録が増えた一方、活動を中止される講師もおられ、新しい人材の発掘が課題である。

(4) 福祉の種まきリーディング事業の推進 * 受託事業

事業内容：地区社会福祉協議会、ボランティアグループ、福祉団体等と協力して、地域住民が気軽に地域福祉活動に参加できる事業として実施し、地域に福祉活動の芽を育てることを目的とする。

No	地区	事業区分／事業名	実施団体名	実施日	実施場所
1	大殿	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 大殿地区サロン交流会	大殿地区社会福祉協議会	12月11日(月)	大殿地域交流センター
2	白石	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業	白石地区社会福祉協議会	11月10日(金)	白石地域交流センター
3	仁保	交流の場づくり／高齢者・子育てサロン支援(お試しサロン)事業	仁保地区社会福祉協議会	5月19日(金) 6月16日(金) 9月15日(金) 10月20日(金) 11月17日(金) 令和6年 3月15日(金)	野上公民館
4	仁保	交流の場づくり／高齢者・子育てサロン支援(お試しサロン)事業	仁保地区社会福祉協議会	6月21日(水) 7月20日(木) 8月17日(木) 9月21日(木) 10月19日(木) 11月16日(木) 令和6年 1月18日(木) 2月15日(木) 3月21日(木)	深野公民館
5	仁保	交流の場づくり／高齢者・子育てサロン支援(お試しサロン)事業	仁保地区社会福祉協議会	7月14日(金) 9月15日(金) 11月17日(金) 令和6年 3月15日(金)	東園集会所

No	地区	事業区分／事業名	実施団体名	実施日	実施場所
6	小 鯖	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業	小鯖地区社会福祉協議会	令和6年 2月7日(水)	小鯖地域交流センター
7	小 鯖	課題対応／地域課題解決実践事業	小鯖地区社会福祉協議会	10月11日(水) 10月27日(水) 11月24日(金) 12月11日(月) 令和6年 1月31日(水)	高齢者生きがいセンター正田の館 大殿地域交流センター
8	大 内	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 大内地区サロン交流会	大内地区社会福祉協議会	10月12日(木)	大内地域交流センター
9	宮 野	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 宮野地区サロン運営連絡協議会	宮野地区社会福祉協議会	令和6年 2月27日(火)	宮野地域交流センター
10	宮 野	災害ボランティア／「避難行動要支援等」の避難訓練事業 高齢者等要援護者のためのブロック避難計画運営支援事業	宮野地区社会福祉協議会	令和6年 2月18日(日)	宮野地区県立大学避難所(厚生棟・体育館)
11	宮 野	課題対応／地域課題解決実践事業 福祉機器の貸出し事業	宮野地区社会福祉協議会	令和6年 3月25日(月)	宮野地区内保管所(フードバンク倉庫)
12	平 川	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 ふれあい・いきいきサロン連絡会	平川地区社会福祉協議会	10月30日(月)	平川地域交流センター
13	大 歳	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 いきいき・サロン交流会	大歳地区社会福祉協議会	10月13日(金)	下関市豊北町角島夢岬
14	陶	課題対応／地域課題解決実践事業	陶地区社会福祉協議会	8月21日(月)	陶地域交流センター
15	陶	課題対応／地域課題解決実践事業	陶地区社会福祉協議会	11月11日(土)	陶地区内北コース
16	秋穂二島	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 ふれあい・いきいきサロン連絡会	秋穂二島地区社会福祉協議会	6月27日(火)	二島地域交流センター
17	秋穂二島	課題対応／地域課題解決実践事業	秋穂二島地区社会福祉協議会	9月28日(木)	二島地域交流センター
18	秋穂二島	課題対応／地域課題解決実践事業	秋穂二島地区社会福祉協議会	令和6年 2月13日(火)	二島地域交流センター
19	佐 山	福祉教育／学校と地域の福祉教育協働事業	佐山小学校	令和6年 3月	佐山小学校
20	小 郡	福祉教育／学校と地域の福祉教育協働事業	小郡地区社会福祉協議会	各学期に1回 (年3回)	小郡地域3小学校各家庭数

No	地 区	事業区分／事業名	実施団体名	実施日	実施場所
21	小 郡	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 小郡地区サロン代表者会議	小郡地区社会福祉協議会	令和6年 3月8日(金)	山口市社会福祉協議会南部支所 2階
22	小 郡	災害ボランティア／「避難行動要支援等」の避難訓練事業〔災害ボランティア養成事業も可〕 小郡地区災害ボランティアセンター研修会	小郡地区社会福祉協議会	令和6年 2月20日(火)	山口市小郡ふれあいセンター
23	秋 穂	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業	秋穂地区社会福祉協議会	12月15日(金)	秋穂総合支所
24	柚 野	福祉教育／学校と地域の福祉教育協働事業	柚野地区社会福祉協議会	令和6年 3月5日(火)	柚木小学校体育館
25	阿 東	災害ボランティア／「避難行動要支援者等」の避難訓練事業〔災害ボランティア養成事業も可〕	阿東地区社会福祉協議会	7月21日(金)	阿東地域交流センター

《成果と課題》

新型コロナウイルス感染症が第5類となり、事業を再開実施されているところが増えてきた。また、本事業の周知を地区社協に今まで以上に周知させるために、地域福祉課地区担当職員等による地区への周知を徹底させたい。

(5) 地域活性化推進事業の推進

地域活性化推進事業は、本会が旧支部ごとに築いてきた地域の特性を活かした地域福祉活動を引継ぎ、心豊かな地域づくりの実現を図るものである。

1) 阿知須地域活性化事業の実施

○あじす元気ハウスの管理運営

- ・事業内容: 阿知須地域の旧商店街の空き地に建設した「あじす元気ハウス」の管理運営を行い、地域での交流を促進する。
- ・実施箇所: 山口市阿知須4226番地(寺河内区)
- ・組 織: 阿知須出張所内に元気ハウス運営委員会を設置し運営を行う。
- ・提供サービス
 - * ぼらんていあショップの運営(毎月10日市開店)
 - * ふれあい祭り 11月12日(日)開催(A、B棟を終日開放)
 - * ひなもん祭り 令和6年2月8日(月)～12日(月)開催(A、B棟を終日開放)
 - * 地域住民に開放(趣味の会、同窓会、自治会定例会、自主グループの各種研修会など)
 - * 障害のある方、その家族を対象とした憩いの場の開設(地域活動支援センターやまぐち事業)
- ・利用人員 A棟 217名(前年度0名)

B棟 1,641名(前年度436名)

C棟 令和4年度から山口市川西第2地域包括支援センター事業所に移行する。

《成果と課題》

阿知須地域に「元気ハウス」があることが浸透してきており、コロナ渦が収束し活用状況も増加している。

隣接地に100年前に山口銀行の前身である百十銀行だった古民家をリニューアルし、誰もが自由に立ち寄れるコミュニティスペースをNPO法人が福祉の駅あじす「百十カフェ」としてオープンされたことから、相乗効果として、今後も高齢者、障がい者、子どもなど誰もが、総合的な支援を手軽に利用でき、地域住民も主体的に運営に参画する総合循環型事業の取り組みを地域に周知し、理解を深めながら地域に根差した拠点として展開している。

2) 徳地地域活性化事業の実施

<19地区福祉部会の活動の充実・強化>

- ・事業内容:徳地地区には、福祉員を中心に民生委員・児童委員、自治会長等で編成された福祉部会が19地区に設置され、運営支援を運営主体である徳地5地区社会福祉協議会や徳地地区社会福祉協議会連絡協議会と連携して行っている。
「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を目的に、福祉部会員による情報共有やふれあい会(高齢者を中心とした地域交流行事)の開催等が行なわれている。
- ・支援内容 ①地区福祉部会への会議出席及び活動支援
②地区福祉部会への補助金交付
③各地区ふれあい会等への参加及び企画補助
- ・各地区福祉部会(19地区毎)の開催実績
開催数:52回開催

<各地区福祉部会の地域福祉活動実績等>

部会名	開催日	内 容	参加者数
柚木	12月9日(土)	第1回ふれあい会(老人クラブとの合同旅行)	18名
	令和6年3月5日(火)	第2回ふれあい会(ペタンク)	10名
釣山	10月5日(木)	第1回ふれあい会(ポッチャ・交流会)【野谷部会と共同開催】	10名
	令和6年3月21日(木)	第2回ふれあい会(ポッチャ・交流会)【野谷部会と共同開催】	11名
野谷	10月5日(木)	第1回ふれあい会(ポッチャ・交流会)【釣山部会と共同開催】	9名
	令和6年2月3日(土)	友愛訪問活動(節分豆、可燃ごみ袋配布)	全戸
	令和6年3月21日(木)	第2回ふれあい会(ポッチャ・交流会)【釣山部会と共同開催】	11名
八坂	7月18日(火)	第1回ふれあい会(健康講座)	27名
	11月21日(火)	第2回ふれあい会(転倒予防講座)	36名
	令和6年3月12日(火)	第3回ふれあい会(ペタンク)	34名
船路		未実施	
引谷	7月	友愛訪問活動(ゴミ袋配布)	全戸
	11月9日(木)	第1回ふれあい会(健康講座)	23名
三谷	10月22日(日)	第1回ふれあい会(体操・ゲーム)	16名

部会名	開催日	内 容	参加者数
	令和6年3月24日(日)	第2回ふれあい会(親睦旅行)	19名
深谷	7月	友愛訪問活動(物品配布)	全戸
小古祖	年 間	百歳体操の支援	利用者
	8月13日(日)	盆踊りへの協力	55名
	12月23日(土)	友愛訪問活動(70歳以上の方を対象)	91名
	2月3日(土)	節分祭への協力	37名
関・才谷・ 伏野・須路・ 中村	11月16日(木)	第1回ふれあい会(小旅行)	20名
堀・ 庄方	11月7日(火)	第1回ふれあい会(ヤクルト健康教室)	15名
	令和6年3月12日(火)	第2回ふれあい会(小旅行)	24名
伊賀地	令和5年12月	百歳体操活動支援(血压計購入)	
岸見	10月28日(土)	第1回ふれあい会(防犯防災講座、ペタンク)	31名
	令和6年2月25日(日)	友愛訪問活動(75歳以上の独居の方へひな祭りお菓子配布)	
島地	11月22日(水)	第1回ふれあい会(小旅行)	18名
	令和6年3月27日(水)	第2回ふれあい会(スカットボール、健康相談)	20名
藤木	11月7日(火)	第1回ふれあい会(小旅行)	16名
	令和6年2月29日(木)	第2回ふれあい会(健康体操、健康講座)	32名
上村	10月26日(金)	第1回ふれあい会(小旅行)	30名
山畑	11月15日(水)	第1回ふれあい会(音楽体操)	22名
	令和6年3月13日(水)	第2回ふれあい会(小旅行)	18名
鯖河内	11月7日(火)	第1回ふれあい会(音楽体操)	22名
	令和6年2月27日(火)	第2回ふれあい会(ヤクルト健康講座、スカットボール・ソフトカーリング)	21名
串	11月16日(木)	第1回ふれあい会(介護保険講座)	25名
	令和6年2月8日(木)	第2回ふれあい会(健康講座、スカットボール)	20名

《成果と課題》

今年から「徳地地区福祉員協議会」が立ち上がったことにより、各地区の部会間での情報交換をする場が新たにできた。また、福祉部会が主催で開催される地域交流活動である「ふれあい会」についても新型コロナウイルスの影響で開催を控えていた福祉部会の多くが、感染症状の位置づけ変更に伴い、ふれあい会の開催を再開された。

ただ地域全体の高齢化に伴い、ふれあい会の参加者の減少や担い手の負担等により、ふれあい会の開催が難しくなり、地域全体の友愛訪問等をされる部会も出てきた。

19地区福祉部会が一律の活動というのは難しくなり、活動内容に地区ごとに違いが出てくるのが今後予想される。そのため、部会活動の実施主体である地区社協や徳地地区社会福祉協議会連絡協議会とも今後の活動や支援の在り方について協議し、活動充実の一助となるよう努めていきたい。

3) 阿東地域活性化事業の実施

○祭壇等備品の貸出事業

- ・事業内容：祭壇等の貸し出しを希望される御家庭に対して、無償で運搬、設置、撤収をする。
- ・貸出件数：祭壇 5件（仏式 4件、神式 1件）
鯨幕 0件 紅白幕 0件

《成果と課題》

無償で祭壇を運搬、設置、撤収等して貸し出しを行うこの事業は、阿東地域では旧阿東町時代より広く知られて来た事業である。

しかしながら、現在とも地域内の人口減少・高齢化が一層進んでおり、自治会等での助け合いによる葬儀は困難な状況に至っているとともに、地域内に民間の葬祭会場が整備されたことから、多くの方々が葬祭会場を利用しての葬儀に移行されている。よって、本会の祭壇利用者は激減していることから、事業の継続について検討し、令和5年度をもって終了とした。

(6) 地域福祉の担い手の育成

1) 福祉員研修会の開催

(1) 新任福祉員研修会の開催

- 目的 地域福祉活動（福祉の輪づくり運動）の推進にあたり、福祉員としての基礎知識を習得することを目的に研修会を開催する。
- 開催日 5月30日（火）
- 会場 山口県総合保健会館 2階 多目的ホール
- 参加対象 新任福祉員（委嘱を受けて1年以内の福祉員又は希望者）：参加者148名
- 参加方法 会場参加

2) 山口市福祉員連絡協議会の設置及び運営

- 目的：各地区の福祉員代表者で構成し、福祉員活動の推進と情報交換を行うことを目的に開催する。

月 日	内 容	会 場
5月25日(木)	山口市福祉員連絡協議会（第1回） ・事業報告、事業計画等について	維新公園みらいふ スタジアム
5月30日(火)	新任福祉員研修会 参加者：148名	山口県総合保健会館
8月24日(木)	山口市福祉員連絡協議会（第2回） ・輪づくり運動関係者及び福祉員研修会について ・山口市福祉員連絡協議会研修等について ・福祉員活動ガイドブック第6版の作成について	維新公園みらいふ スタジアム
10月20日(金)	社会福祉功労者等表彰状・感謝状贈呈式	山口県総合保健会館
10月27日(金)	山口県総合社会福祉大会	下松市（スターピア くだまつ）

10月31日(火)	山口市福祉の輪づくり運動関係者及び福祉員研修会 参加者：180名 【内容】「見守り訪問活動」について ～小地域福祉活動の事例から～ 【講師】 山口県立大学 名誉教授 草平 武志 氏 【事例発表者】 湯田地区社会福祉協議会会長 増本 好夫 氏 嘉川地区福祉員協議会副会長 大林 和美 氏 徳地地区福祉員協議会会長 野村 新一郎氏	山口県総合保健会館
12月13日(水)	山口市福祉員連絡協議会研修会 【視察】 就労支援事業所フィオーレ NPO 法人ふらっとコミュニティひより 参加者：10名	
令和6年 2月28日(水)	山口市福祉員連絡協議会（第3回） ・事業報告、事業計画 ・新任福祉員研修会等について	維新公園みらいふ スタジアム
令和6年 3月～	退任者・新任福祉員の名簿の提出、委嘱状・門標・ ガイドブック等の配付、ボランティア活動保険の加入	

○内 容 「福祉員活動」について 発表者：山口市社会福祉協議会地域福祉課職員
 「福祉員の心得」 発表者：山口市福祉員連絡協議会長

《成果と課題》

改選後の初年度であり、福祉員の約半数が新任福祉員となった。そのため、新任研修会の出席数が昨年度よりも多く、山口市福祉の輪づくり運動関係者及び福祉員研修会の内容は、『「見守り訪問活動」について～小地域福祉活動の事例から～』という題目で、福祉員活動の中心となる見守りについて講演、事例発表をしていただいた。

また、これまで新型コロナウイルス感染症の影響で開催できていなかった行事などが徐々に再開してきた。昨年度同様、定期的に連絡会議(各地区の福祉員連絡協議会代表者同士の情報交換)を開催し、福祉員の活動上の課題等を話し合い、情報共有に努め、諸機関と連携して地域課題に取り組んだ。

(7) 有償在宅福祉サービス事業の推進

1) 有償在宅福祉サービス事業の実施

○事業内容:誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを目的に、高齢者や障がいを持っている方等が様々な理由で日常生活上の家事及び介護等で困っている時、その負担を少しでも和らげるために福祉に理解をもった地域の方々(協力会員)に訪問してもらい、身の回りのお手伝いをしていただく事業である。

利用会員	協力会員	賛助会員
91名(内令和5年度登録3名)	70名(内令和5年度登録3名)	22名・18団体

○サービスの内容の内訳

内 容	件数	内 容	件数	内 容	件数
食事の支度・後片付け	2	介助	0	保育	0
住居等の掃除・整理・補修	479	話し相手	112	その他	37
衣類の洗濯・補修	27	通院介助	13	合 計	720
生活必需品等の買物	50	代筆・朗読	0		

○地域福祉課広報紙「結～YOU～」の発行:5回

《成果と課題》

初回相談件数は32件(新規利用会員は3名)であった。平成28年10月から山口市で介護予防・日常生活支援総合事業が始まり、要介護認定でのサービス利用の流れが変わってきたこともあり、要支援1・2認定の方からの相談が増加している。利用者のニーズに対して専門的な対応が必要となる相談も増えている。本会としては、サービスを提供するだけでなく相談者に必要なサービスを見極め、他機関との連携を密に図ることも重要である。

2) 有償在宅福祉サービス事業一般公開講座の開催

○事業目的:協力会員の資質向上及び新規人材獲得、人材養成を図ることを目的に開催する。

○会 場:南部支所

○受講者:8名

○内 容

開催日	内容	講 師
11月1日(水)	健康管理について	株式会社ヤクルト山陽

3) 有償在宅福祉サービス事業担い手養成講座の開催

○事業目的:人材養成(有償在宅福祉サービス事業協力会員の養成)を図ることを目的に開催する。

○会 場:南部支所

○受講者:10名

○内 容

開催日	内容・講師
令和6年2月9日(金)	テーマ : 「掃除と傾聴について」 講 師: ニチイケアセンター山口 前田 京一 氏

《成果と課題》

有償在宅福祉サービス事業の課題となっている担い手(協力会員)不足を解消するため、養成講座を開催している。市社協だよりや福祉員定例会などで周知し、一般参加者もおられ、今年度は協力会員3名の新規加入があった。今後ますます利用ニーズが増えることを想定し、本事業についてより広く周知ができるよう地域へ働きかけ、現協力会員の資質の向上と新たな会員の獲得につなげていくことが最重要課題である。また、今年度からは利用料が1時間当たり800円となった。今後も適切な事業運営を行っていくために、必要な協議、検討を行っていく。

(8) 生活支援・介護予防体制整備事業の推進

1) 生活支援コーディネーターの設置

* 受託事業

○目的: 山口市社会福祉協議会に1名の第1層生活支援コーディネーター、各地域包括センターに1名の第2層コーディネーターを配置し、高齢者の生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取り組みの推進を行うため、既存の地域資源等を把握し、地域のニーズにあった生活支援サービスが行われるように、地域に不足するサービスの創出やサービスの担い手の養成、関係者間の情報共有やサービス提供主体間の連携体制づくりなどのネットワーク構築を進める。

○事業内容

①地域組織からのニーズ把握に関すること

・2層生活支援コーディネーター及び市社協地区担当職員と地区社会福祉協議会を訪問し、地域課題や地域が求めている活動の担い手等について聞き取りを実施した。また、各地区の小地域福祉活動計画実行委員会、民生委員児童委員協議会、福祉員協議会等の会議に出席し、生活支援コーディネーターの周知や情報の高齢者の生活課題や取り組みの情報収集をするとともに、支え合いの取り組み事例の情報提供等を行った。

○訪問地区 25地区

○地域の会議への出席 随時(小地域福祉活動計画策定委員会、実行委員会等)

○自立支援型地域ケア会議への出席

②不足する生活支援サービスの把握・調整・創出に関すること

・連絡定例会、エリア別会議の開催、各地区の話し合いの場等への出席により、現状把握と対策についての協議を行った。

③地域資源の把握と見える化に関すること

・ワンドライブ(社会資源情報等保存先)の更新及び一覧表とチラシ、ホームページのリンク付けを行った。

④ネットワーク構築に関すること(令和4年度から市高齢福祉課が招集)

・基幹型地域包括支援センター、1層、2層の協議の場を設定し、事業推進における課題や方法等を検討・共有した。

○全体会議・連絡定例会 24回

○エリア別会議 48回

⑤介護予防・生活支援サポーターと生活支援サービスとのマッチングに関すること

・平成31年度から調整業務が2層に移管された。

⑥協議体の開催に関すること

・令和5年度地域支え合い推進会議(第1層協議体)を毎月1回開催。支え合いの仕組みづくりを行っている4団体から事例発表を聞き、今後の推進について、意見交換を行った。なお、当日の事例等はビデオで録画し、ワンドライブ内で視聴できるようにしている。

2) 介護予防・生活支援サポーター養成講座の開催

* 受託事業

・高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らし続けられるように、地域での支え合い体制づくりを目指して、地域における住民等における介護予防や生活支援の取組の担い手となる人材の養成を目的に講座を開催している。今年度は介護予防の担い手確保に目的を絞り、養成講座を1日のみで実施した。その受講者から次年度以降の活動等を希望された19名と中央包括2層生活支援コーディネーターが協議しながら、介護予防の取組を進めていくこととした。

日時:令和6年2月21日(水)午後1時30分～午後4時 受講者 35名

会場:湯田地域交流センター2階 大研修室

内容:①やりがい いきがい しょうがい ボランティア

②人生100年時代の介護予防

③あったらよい介護予防の取組をテーマにグループワーク

《成果と課題》

受講後、19名の方が継続しての活動や研修の案内がほしいとのアンケート結果から、その名簿を中央包括生活支援2層コーディネーター及び基幹型包括と共有し、次の展開につなげることとした。

各地域包括支援センターに第2層生活支援コーディネーターの配置から4年が経過し、各地域の会合やつどいの場に参加されるようになり、より地域の社会資源、現状・課題等の情報把握や地域への働きかけができるようになった。今後も2層との協働により、各地区で高齢者の生活支援について理解を深めていきたい。

(9) その他の生活支援・介護予防関連事業の推進

1) マイクロバス運行事業の実施

○事業内容:各地区にマイクロバスの無料貸出し又は民間バス借り上げ費用の一部助成をすることにより、高齢者の交流及び福祉関係団体の活動の促進を図る。

○今年度の運行実績

地区	マイクロバス (件)	民間バス (件)	福祉員協議会の利用の有無と種類	備考
大殿	5	0	マイクロバス	
白石	6	3	なし	
湯田	7	2	マイクロバス	
仁保	1	0	なし	
小鯖	4	1	なし	
大内	9	5	民間バス	
宮野	7	0	マイクロバス	
吉敷	7	2	マイクロバス	
平川	6	1	民間バス	
大歳	6	2	なし	
陶	2	2	なし	
鑄銭司	2	0	なし	
名田島	2	0	なし	
秋穂二島	1	0	なし	
嘉川	4	1	マイクロバス	
佐山	3	0	マイクロバス	
小郡	6	2	マイクロバス	

地 区	マイクロバス (件)	民間バス (件)	福祉員協議会の利用の有無と種類	備考
秋 穂	4	1	なし	
阿知須	0	0	なし	
出 雲	0	1	なし	
八 坂	0	1	なし	
島 地	2	1	なし	
串	0	1	なし	
柚 野	0	1	なし	
阿 東	4	2	なし	
その他	1	0	—	山口市福祉員連絡協議会
合 計	8 9	2 9	9	

《成果と課題》

令和元年度3月より新型コロナウイルスによる感染防止のため、運行を中止にしていた本事業を令和4年9月より再開し、本年度は5月から運行している。本事業を利用団体も増え、高齢者等の閉じこもりや介護予防に効果があった。今後、物価や人件費等の高騰が予想されるが、バス事業所等と協議し、負担金の現状維持を図りたい。

2) チェアキャブの貸出

○事業内容: 身体に障がいがあるため社会参加や外出が困難な方に、車いすのまま乗車できる車両の貸出を行う。運転は家族または知人が行う。

○チェアキャブの貸出

配置場所	件数	配置場所	件数	配置場所	件数
本所・北部支所	55	阿知須出張所	2	南部支所	72
徳地出張所	4	阿東出張所	1	秋穂出張所	4
				合計	138

《成果と課題》

チェアキャブは、在宅の車いす使用者の方々の遠方への外出や、通院時等に貸出を行い、喜ばれている。南部支所での利用が多く、通院目的の利用が多い。車いすの貸出の際に、併せて福祉車両の紹介や福祉員定例会でも事業説明し、周知した。各支所・出張で利用件数に差があり、車両の維持費がかかることから、令和6年度から車両配置を減らす予定である。

3) 福祉機器リサイクル事業の実施

* 受託事業

○事業内容: 車いす、介護用ベッド、ポータブルトイレ、歩行器などの福祉機器を無料で貸出す。(介護用ベッドは費用がかかる)

機器の種類	貸出件数	保有台数	機器の種類	貸出件数	保有台数
電動式ベッド	1	1	杖	17	26
歩行器	26	21	松葉杖	5	19
車いす	216	137	スロープ	2	7

機器の種類	貸出件数	保有台数	機器の種類	貸出件数	保有台数
介護テーブル	2	3	ポータブルトイレ	47	21
シャワーチェア	19	18	浴槽台	3	5
介助バー	0	1	バスボード	1	3
手押し車	6	10	その他(マット・たっ ちあっぷ等)	10	15
浴槽用手すり	5	6	合計	360	293

《成果と課題》

福祉機器の貸出についての相談は例年多くあり、必要に応じて貸出や情報提供を行った。特に車いす、ポータブルトイレの貸出についての相談が多かった。情報提供は市社協だより、市社協ホームページや福祉員定例会などで行った。昨年度から引き続き、山口刑務所にポータブルトイレ等の消毒作業を行っていただいた。基本的には、在宅利用を目的とした貸し出しを行っているが、緊急性を伴う場合は施設入居者(介護保険上在宅扱いの施設含む)への貸し出しも1箇月は可としている。要綱に則って貸し出すが、利用者の状況に応じて、組織で協議したうえで対応する。

4) 移送サービスの実施

* 受託事業

合併前に、山口陸運支局の許可により、地域限定の移送サービス事業として行っている。

地域	利用件数	登録台数
小郡	0	0
阿知須	3	1
阿東	0	1
合計	3	2

《成果と課題》

利用者は、車いす等のままで通院が必要な方が大半を占めている。地域によっては、民間介護タクシーの利用の増加等で利用者が減少傾向にあり、運転手(担い手)不足も課題である。

山口市と協議した結果、小郡地区では、本事業を進めることで、民間企業の圧迫になる可能性があるとのこと。また、阿東地区では、協力会員(運転手)を募ることが難しい状況である。そのため、小郡および阿東での移送サービス事業は令和5年度をもって廃止となる。また、阿知須地区は利用者がある間は継続とする。

(10) ボランティア活動の推進

1) ボランティアグループの活動支援

- 保険受付件数:基本タイプ4,156名、天災・地震補償タイプ155名、特定感染症重点タイプ133名
- ※大規模災害特例含む

2) ボランティア活動保険の掛金補助

- 補助団体数50団体

3) ボランティア活動に関する連絡調整

- 事業内容:ボランティアに関する相談について、必要な情報の提供や関係機関への連絡調整を行う。
- 相談件数:41件(個人13件、ボランティア団体9件、行政・関係機関7件、企業2件、その他10件)

○内 容:派遣依頼10件、活動紹介11件、その他20件

4) 山口市ボランティアセンターの活用

○山口ボランティアセンター 利用者数:668名(月平均56名)

利用団体:8団体

○小郡ボランティアセンター 利用者数:695名(月平均57名)

利用団体:4団体

5) ボランティア活動器材の貸出

○貸出件数:9件

6) ボランティア情報紙の発行

○発行回数:年5回

ふれあい・いきいきサロン、有償在宅福祉サービスの広報紙を統合し、地域福祉課広報紙「結～YOU～」として発行した。

7) 使用済み切手の収集

○毎月第2・4木曜日の午後から市ボランティアセンターで、使用済み切手の整理をボランティアが行っている。整理した切手は、切手収集家に送り換金され、ボランティア基金に積み立てている。

現会員の高齢化に伴い、参加者が減少傾向であるため、新規会員の獲得が今後の課題である。

8) 意志疎通支援事業の推進

○体験講座の開催

<手話講座>※山口手話友の会、小郡手話友の会との共催

山口

日 時:①7月12日(水) 午後6時30分～8時

→災害ボランティアの対応で中止

②9月13日(水)午後6時～7時30分

場 所:しらさぎ会館

参加者: ②16名

講 師:山口手話友の会 会員

小郡

日 時:①11月6日(月)午前10時～11時30分

②11月24日(金)午後7時～8時30分

場 所:① 山口市社会福祉協議会南部支所

② 小郡地域交流センター

参加者:①9名

②5名

講 師:小郡手話友の会 会員

<要約筆記講座>※山口市要約筆記サークルやまびことの共催

日 時:5月20日(土)午前9時30分～正午
場 所:しらさぎ会館
参加者:7名
講 師:山口市要約筆記サークルやまびこ 会員

<点訳講座>※点訳「のぼらの会」、点訳すぎなの会との共催

日 時:①5月20日(土) 午後2時～4時
②5月27日(土)午後2時～4時
③6月3日(土) 午後2時～4時
④6月10日(土) 午後2時～4時
場 所:しらさぎ会館
参加者:①9名
②11名
③8名
④10名
講 師:点訳「のぼらの会」、点訳すぎなの会 会員

<音声訳公開講座・体験会>

朗読グループまごころの会と共催
日 時:9月28日(木)午後1時～3時30分
場 所:大殿地域交流センター
参加者:3名(市内の音声訳ボランティアグループ、朗読ボランティアグループなど)
講 師:古川百代氏
内 容:音声訳の基本と実技

音声訳グループみずの会と共催

日 時:11月9日(木)午後1時～2時30分
場 所:しらさぎ会館
参加者:30名(市内外の音声訳ボランティアグループ、朗読ボランティアグループなど含む)
講 師:フリーアナウンサー 藤本玖美子氏
内 容:音声表現の基礎

音声訳ボランティア小郡やまびこの会との共催

日 時:11月21日(火)午前10時30分～11時30分
場 所:小郡ボランティアセンター
参加者:2名
講 師:音声訳ボランティア小郡やまびこの会 会員
内 容:音声訳体験

<子ども手話体験講座>※ゆびの会との共催

日 時:①7月25日(火) 午前10時～正午

②8月1日(火) 午前10時～正午

場 所 山口ボランティアセンター

参加者:①6名

②3名

講 師:ゆびの会 会員

<子どもボランティア講座>※点訳「のぼらの会」、山口盲ろう者友の会中部支部との共催

日 時:①7月26日(水) 午前10時～正午 車いす体験

→参加人数が少数だったので中止

②8月2日(水) 午前10時～正午 点字体験

③8月9日(水) 午前10時～正午 盲ろう者体験

→台風6号のため、8月23日(水)10時～12時に変更

場 所 山口ボランティアセンター

参加者:②8名

③8名

講 師:②点訳「のぼらの会」 会員

③山口盲ろう者友の会中部 会員

○関係ボランティア団体の会議

<市内点訳グループ情報交換会>

日 時:①8月21日(月)午前10時30分～正午

②令和6年3月11日(月)午後1時30分～3時

場 所:①、②南部支所

参加者:点訳のぼらの会、点訳すぎなの会、小郡点訳サークルてんとう虫、点訳コムニオの会

山口市障がい福祉課、山口市社会福祉協議会地域福祉課

内 容:福祉体験学習について、意思疎通支援普及啓発事業について

<点訳・音声訳グループ情報交換会>

日 時:12月20日(水)午後1時30分～3時

場 所:南部支所

参加者:点訳のぼらの会、点訳すぎなの会、小郡点訳サークルてんとう虫、点訳コムニオの会

音声訳グループみずの会、朗読グループまごころの会、小郡やまびこの会、愛メイト

山口市障がい福祉課、山口市社会福祉協議会地域福祉課

内 容:情報交換(今後の講座について等)、市社協、市との意見交換

《成果と課題》

コロナ禍が明けたことで、ボランティア活動に対する連絡調整が増えた。特に敬老会のシーズンに施設側からボランティアに来て欲しいという相談が複数県寄せられた。個人からの相談も今後増加すると見込まれるが、施設・団体からの依頼もコロナ前へ回復しつつある。

また、今年度も市ボランティア連絡協議会の加入グループと協働で一般・子ども向けに体験講座を開催し、参加者が講座後、ボランティアグループに加入された。このように、啓発も含めて既存グループと一緒になっ

て、人材発掘に努めていきたい。

他方団体の高齢化に伴い解散や担い手不足の話もよく耳にするようになっている。コロナ禍が明けたとはいえ、前の形に戻すのか、新しく変えて行くか、様々な選択肢がある。他の事業と組み合わせるなど、今後も様々な関連機関と連携し、情報収集に努め、ボランティア活動のマッチングを行っていきたい。

(11) ボランティア(ひとづくり)養成講座の開催

1) ひきこもり支援公開講座の開催

山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会が主催する研修会において、ひきこもりに関する現状や支援をテーマとした一般公開講座の開催を支援した。

- 主 催:山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会
- 目 的:ひきこもりについての正しい理解と普及啓発に努める。
- 開催日:令和6年2月27日(火) 午後1時30分～午後4時
- 参加者:35名(一般参加者5名)

《成果と課題》

今年度の一般公開講座は、山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会の研修会において「ひきこもりについて理解し、かかわりや支援を考える」をテーマとして開催した。

講演の中で、ひきこもりの支援には時間がかかることやエネルギーが必要なこと、家族を主とする周囲の適切なサポートや働きかけが必要といった話があった。また、本人等の話を聴くことの大切さについて話があり、「まず、話を聴くことが支援の第一歩」等の意見があり、現状を整理し、支援の谷間にいる人たちについて考える機会になった。

2) 山口市災害ボランティア研修会の開催

- 目 的:地域における防災意識の向上と新しい行動様式を踏まえた災害ボランティアの養成
- 開催日:令和6年1月17日(水)
- 会 場:山口県総合保健会館
- 対 象:災害ボランティア登録者、災害時支援協定締結団体、地区社協
民生委員・児童委員、福祉員、介護支援専門員、一般住民等
- 報告:令和5年災害ボランティアセンター開設について
- 演 題:「大切なひとを守るための防災」～近年の気象災害から考える～
講師:坂本京子氏
- 参加者:179名

《成果と課題》

本研修会は、「防災とボランティア週間」の事業として開催し、山口市の災害ボランティア登録者及び登録団体、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、福祉員、介護支援専門員等広く呼びかけて行った。

今回は、会場参加のみで開催した。冒頭、元日に発生した能登半島地震により犠牲になられた方へ黙祷を捧げた。義援金募金箱を設置し、約3万円集まった。

今年度は6月30日からの大雨災害で、災害ボランティアセンターを立ち上げたことから、職員より報告を行った。その後、講師の坂本氏から、大雨や地震等近年の気象災害からどのように身を守るべきか、地域でのつながりの大切さや、防災の考え方として、日常と非日常の壁を取り除く“フェーズフリー”の考えに転換していく必要性など市社協としても参考になる部分が多かった。

災害に対する関心が高まっている今、今後も市民の一人一人が災害を自分のこととして捉えられるような内容を検討し、開催していきたい。

3) 「災害時における協力に関する協定」に関する会議の開催

本会は、平成21年度に小鯖地区、平成25年度に阿東地区にて、災害ボランティアセンターを設置したが、本会だけの運営では限界があった。このため、他機関と協定を結び、災害が発生した場合のセンターの機能強化に努めることにした。平成30年度5月に、山口市職員労働組合といのちを守る防災危機管理協会と協定を結び、当年度2月に本会議を開催。その後は、本会議を令和元年度から災害が発生しやすい時期前の5月に顔を合わせて情報交換・共有等を目的に開催している。令和元年度12月に山口青年会議所と結び本会議に参加して頂いている。また、令和5年度12月に山口ライオンズクラブ、山口西京ライオンズクラブ及び山口中央ライオンズクラブと協定を結んだ。

○開催日：令和5年5月8日(月)

○会場：山口市福祉センター

○参加者：山口市職員労働組合1名、いのちを守る防災危機管理協会3名、山口青年会議所2名

《成果と課題》

本会議で、顔を合わせて協議し、緊急時の連絡先も交換したことにより、下記山口市災害ボランティアセンターの運営が過去と比べ、円滑にできた。しかし、災害の規模によっては運営面において、毎日協定団体の援助が得られないこと等が予想され、引き続き本会議にて情報交換・共有や本会内での話し合いが必要不可欠である。

4) 山口市災害ボランティアセンターの設置・運営

○事業内容 令和5年6月30日に発生した豪雨災害に伴い、山口市災害ボランティアセンターの設置運営を行った。

○開設期間 令和5年7月3日～7月31日

○設置場所 山口市社会福祉協議会本所・北部支所 地域福祉課内

「大歳現地拠点」は、山口市大歳地域交流センター駐車場内に設置(7月3日から7日の5日間)

○実績 活動者数 ～延べ113名

ニーズ対応件数 ～延べ23件(大歳・小郡・平川・吉敷・嘉川地区)

活動内容 家財の搬出、床下の泥だし、瓦礫の運搬、家具の移動など

《成果と課題》

平成21年小鯖と平成25年阿東での災害ボランティアセンター設置の経験とマニュアルを基に運営を行った。運営未経験の職員も多い中、過去の災害ボランティアセンター運営に携わった職員を中心に運営を行った。

今回、災害ボランティアは一般に公募せず、本会と関係のある協定団体や地区社協、地区民生委員児童委員協議会、地区福祉員協議会、山口市社会福祉法人公益活動推進協議会、ボランティア団体等を中心に活動した。

ニーズについては、家具・家財の運び出しの内容が多かった。また、災害が発生した翌日が快晴の日曜日であったことから、住民同士で対応しているところも多く、過去の災害と比べると、ニーズ件数も少なかった。

後日、県社協、市、協定団体と反省会を行い、運営についての改善点や意見をいただき、協議を行った。

今後は感染症への対応や、県社協がサイボウズ社のキントーンを導入したこともあり、現在の紙中心の運営から、ICTを使った運営に変わりつつ今、現在のマニュアルも改訂が必要になってくる。

災害は、いつ、どこで発生するか分からないので、定期的にシミュレーションや研修会を行い、いつでも対応出来るように準備しておくことが重要である。

※今年度の能登半島地震の被災地への派遣として、本会職員の1名を3月27日～4月2日まで能登町へ派遣した。

(12) 福祉教育の推進

1) 福祉教育事業の企画・実施

○小・中学生等の福祉体験学習への協力及び体験用具の貸出

・車いす、高齢者疑似体験、点字、ガイドヘルプ、手話等

・各小・中学校に福祉教育に取り組むため、福祉教育・福祉体験学習プログラムを活用しながら、ユニバーサルデザインの啓発用(福祉教育)DVDの活用も行った。

・小学校・・・21校　・中学校・・・ 2校　・その他・・・ 12件

・体験用具等貸出

車椅子・・・23件　　高齢者疑似体験・・・ 20件　　点字盤・・・ 12件

白杖・・・ 18件　　ユニバーサルデザイングッズ・・・ 5件　　福祉教育 DVD・・・ 12件

2) 福祉体験学習研修会の開催

○地区福祉員協議会等で依頼があった際に福祉体験学習を実施した。

3) 福祉教育推進協力校の指定

* 受託事業

○目的:次代を担う小・中学生を対象として、福祉の心を育て社会福祉への理解と関心を高め、社会奉仕、助け合い、社会連帯の精神を育成するとともに児童・生徒を通じて家庭や地域で福祉の心を育める総合的教育の啓発、体験、実践、研究を行うことを目的として福祉教育推進協力校の指定を年次的に推進する。

○協力校数: 小学校 9校、中学校 3校

(令和5年度指定校 大殿小、白石小、大歳小、平川小、嘉川小、鑄銭司小、大海小、阿知須小、井関小、潟上中、阿東中、阿東東中)

○指定期間:2年(令和4年度～)、1年(令和5年度～)

○協力校の活動:それぞれの地域の実情に合わせ、地域住民、ボランティア、社会福祉協議会の協力を得て、

下記の活動を実施

- (1)福祉体験学習
- (2)福祉講演会、映画会、展示会等による福祉意識の啓発
- (3)社会福祉、地域の福祉課題についての調査研究活動
- (4)地域社会で生活している高齢者、障がい者などに対する実践活動や地域内の社会福祉関係・団体等の交流会
- (5)社会福祉施設等への訪問、体験活動及びボランティア活動
- (6)社会福祉関係行事等への参加
- (7)福祉関係紙、学区新聞等の配布、広報活動
- (8)家庭、地域社会への啓発活動
- (9)災害時における地域の福祉課題を学ぶ活動
- (10)福祉に関する制度・サービスについて学ぶ学習活動

(11)その他目標達成のために必要な活動

- 市社協の役割 (1)福祉体験の助言及び指導
(2)活動に関する相談、情報提供、活動の場コーディネート
(3)助成金の交付
- 助成基準 1年につき3万円(上限)

大殿小学校

- 事業内容
1. 車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、点字体験、手話体験
 2. バリアフリーについての講話
 3. 障害者スポーツ「ポッチャ」体験等

白石小学校

- 事業内容
1. 手話体験学習
 2. 聴覚過敏をもつ児童の安心感を高めるための備品を購入等

大歳小学校

- 事業内容
1. 高齢者疑似体験、車いす体験、点字体験
 2. 福祉に関する書籍の購入、校内新聞作成
 3. ポッチャ体験、クップ体験等

平川小学校

- 事業内容
1. 福祉講演会
 2. 福祉に関する本の活用等

嘉川小学校

- 事業内容
1. 車いす体験、高齢者疑似体験、点字体験、手話体験
 2. 福祉学習に関する書籍の購入

鑄銭司小学校

- 事業内容
1. 車いす体験、アイマスク体験
 2. 福祉学習に関する書籍の購入

大海小学校

- 事業内容
1. アイマスク体験、車いす体験、点字体験
 2. 視覚障害者の方の講演会
 3. 書籍の購入等

阿知須小学校

- 事業内容
1. アイマスク体験
 2. 食育の方との交流会
 3. 点字の学習
 4. 車いす体験
 5. パラスポーツ体験等

井関小学校

- 事業内容
1. 手話体験
 2. 点字体験
 3. アイマスク体験

4. 盲導犬についての学習

潟上中学校

- 事業内容
1. 車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験
 2. 人権参観日に講演会の実施
 3. 幼児ふれあい体験
 4. 福祉施設にて職場体験等

阿東中学校

- 事業内容
1. 高齢者疑似体験
 2. 車いすバスケットボールの選手による講演
 3. 書籍の購入等

阿東東中学校

- 事業内容
1. 車いす体験
 2. 防災アドバイザーを招いての学習会
 3. 介護についての学習
 4. 福祉、防災に関する書籍の購入等

4) 福祉教育推進協力校の情報交換会の開催

* 受託事業

平成22年度・23年度指定福祉教育推進協力校(平川小学校、鑄銭司小学校、阿東中学校)と
平成23年度・24年度指定福祉教育推進協力校(大殿小学校、白石小学校、潟上中学校)、
平成24年度・25年度指定福祉教育推進協力校(小鯖小学校、小郡小学校、阿東東中学校)、
平成25年度・26年度指定福祉教育推進協力校(島地小学校、さくら小学校、川西中学校、仁保中学校)、
平成26・27年度指定福祉教育推進協力校(佐山小学校、八坂小学校、宮野中学校、徳地中学校)、
平成27・28年度指定福祉教育推進協力校(大内小学校・興進小学校・小郡南小学校、湯田中学校)、
平成28・29年度指定福祉教育推進協力校(名田島小学校・中央小学校・白石中学校・小郡中学校)、
平成29・30年度指定福祉教育推進協力校(湯田小学校、二島小学校、大殿中学校、大内中学校)、
平成30・31年度指定福祉教育推進協力校(大内南小学校、秋穂小学校、平川中学校、秋穂中学校)
令和元年・2年度指定福祉教育推進協力校(良城小学校、仁保小学校、生雲小学校、阿知須中学校)
令和2・3年度指定福祉教育推進協力校(宮野小学校・陶小学校・徳佐小学校・二島中学校)
令和3・4年度指定福祉教育推進協力校(柚野木小学校・串小学校・上郷小学校・鴻南中学校)
令和4・5年度指定福祉教育推進協力校(大歳小学校・嘉川小学校・阿知須小学校・井関小学校)
の計50校を対象に案内をし、3年ぶりに対面での情報交換を行った。
令和5年度はすべての小学校、中学校を対象に案内をし、点訳グループ、盲人の方を講師に招き、その後参加された先生方とグループに別れ情報交換を行った。

(13) 企業の社会貢献活動の推進

1) 企業の社会貢献活動の支援

○企業ボランティア活動促進モデル事業所の推薦
株式会社大隅タクシーを推薦したが、今回認定に至らなかった。

3 見守り訪問活動及び地域支え合い活動の推進

(1) 小地区見守り訪問活動の推進 * 受託事業

○事業内容:ひとり暮らし高齢者等の安否確認のため、自治会(町内)または民生委員・児童委員担当地区ごとに見守り訪問グループを結成し、要援護者を地域で見守るという主旨で友愛訪問活動を実施する。

地区名	見守り訪問対象者数	グループ数	地区名	見守り訪問対象者数	グループ数
大殿	152	38	鑄銭司	148	18
白石	229	54	名田島	28	13
湯田	583	11	秋穂二島	57	57
仁保	81	9	嘉川	125	25
小鯖	129	31	佐山	90	90
大内	785	40	小郡	291	46
宮野	204	150	秋穂	113	21
吉敷	187	22	阿知須	101	13
平川	303	32	徳地	129	57
大歳	385	28	阿東	177	5
陶	61	15	合計	4,358	775

《成果と課題》

山口市の高齢化率は高まっているが、ひとり暮らしの高齢者や高齢の二人暮らし世帯の対象者はあまり増えていない現状がある。しかし、高齢者を対象とした安否確認を中心とする友愛訪問は、悪質な業者等にだまされることを未然に防ぐことや、認知症等で孤立させないためにも地域で関わるが大変重要になってきている。

今年度は民生委員・児童委員と福祉員が改選され新任の方が多かったため、見守り訪問活動についての現状をお知らせし、これまで取り組んでこられた基本の話を変えてしていく必要があり、そのツールとして、「小地区見守り訪問活動について」のDVD等を活用してきた。ただ、何度も見ている方も徐々に増えていくため、2～3年目の方にあわせて新たに作成することを検討するのをも一つと考える。

また、活動する際の知識として、各地区で研修会を実施し、高齢者の異変に気づくための情報共有も見守り活動の一環となっている。市内において要援護者をグループで支援するこの活動も徐々に浸透し、グループでの見守り活動の方法が重要になっているが、若い人の支援が少ないこと、依頼できる支援者がいないところや支援者自身も高齢である等グループ全体について対策を検討する必要がある。

地域の見守りの担い手を増やす働きかけや包括支援センターや生活支援コーディネーターとも連携し、地域の支え合い活動につなげていく働きかけも必要と考える。

地区名	日時	主な内容	参加者
大殿	7月18日(火)午前10時～正午	・小地区見守り訪問活動の現状と課題 ・グループワーク「事例検討」	56
白石	7月21日(金) 午前10時～午前11時40分	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 ・事例発表及びグループワーク「事例検討」	28

地区名	日 時	主な内容	参加者
湯 田	5月31日(水) 午前9時30分～午後3時30分	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 (DVD 視聴) ・事例及びグループワーク(町内ごとに情報交換)	79
仁 保	①6月1日(木) 午前10時～午前11時 ②6月23日(金)午後7時～ 午後9時	①友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 事例検討 ②見守り及びマイプラン説明 見守りマップの更新	①13 ②16
小 鯖	7月5日(水)午後1時30分～ 午後3時	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 ・グループワーク「見守り訪問活動の現状と課題」	54
大 内	8月26日(土) 午前9時～午前11時	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 ・グループワーク「災害時等地域支え合いマップ 更新作業」	97
宮 野	4月2日(日) 午前10時～午後12時30分	・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 (DVD 視聴) ・災害時要援護者避難支援プラン等について ・グループワーク 対象者の把握(民生委員・児童 委員と福祉員の個別協議)	71
吉 敷	①5月10日(水) 午後1時30分～午後2時30分 ②10月20日(金) 午後1時30分～午後4時	①②友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 ・グループワーク「見守り訪問活動の現状と課題」 ②事例発表	①44 ②64
平 川	①7月1日(土) 午前10時～午前11時30分 ②12月2日(土) 午前10時～午前11時30分	①②友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 ・事例発表 ・グループワーク「地域支え合いマップ」と「そのま とめ」の更新及び情報交換	①78 ②80
大 歳	①7月12日(水) 午後6時30分～ ②7月18日(火) 午後6時30分～ ③7月19日(水) 午後6時30分～	・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 (DVD 視聴) ・包括支援センターからのお知らせ ・グループワーク(民生委員・児童委員と福祉員 の個別協議)	①②③ 98
陶	6月21日(水) 午後1時30分～午後3時	・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 (DVD 視聴) ・事例発表 ・グループワーク(民生委員・児童委員と福祉員 の個別協議)	28
鑄銭司	7月29日(土) 午前9時30分～午前11時30分	・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 ・グループワーク「見守り訪問活動の現状と課題 について」	30
名田島	6月1日(木) 午後7時～午後8時30分	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 ・グループワーク「災害時等地域支え合いマップ 更新作業」	80

地区名	日 時	主な内容	参加者
秋 穂 二 島	7月28日(金) 13時30分～15時30分	・あいサポーター研修会(障がい者対応) ・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 ・グループワーク「地域支え合いマップ」の更新及び情報交換	38
嘉 川	6月28日(水) 10時～11時40分	・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明(DVD 視聴) ・事例発表「見守り訪問活動の連携について」 ・グループワーク「見守り訪問活動の現状と課題」 見守り対象者の確認、グループ員一覧表作成	66
小 郡	①6月19日(月) 13時30分～15時 ②6月28日(水) 10時～11時30分 ③6月30日(金) 13時30分～15時	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明(DVD 視聴) ・事例発表 ・グループワーク「見守り訪問活動の現状と課題」	①②③ 107
秋 穂	7月14日(金) 13時30分～15時30分	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明(DVD 視聴) ・グループワーク「地域支え合いマップ」の更新及び情報交換	55
島 地	4月27日(木) 10時～11時	・友愛訪問活動について	29
柚 野	5月23日(火) 9時30分～10時30分	・見守り訪問活動の現状と課題ほか	17
串	11月17日(金) 9時30分～正午	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明(DVD 視聴) ・講話「電話詐欺から身を守る」 ・グループワーク情報交換(見守り対象者の確認)	20

《成果と課題》

見守り訪問グループ員研修会は、研修メニューの中から地区社協の選択により実施された。市内20地区社協で開催され、本会職員も同席して研修会の企画、運営の支援を行った。見守り訪問活動につながる活動として、高齢者のサロンや百歳体操などの集いの場やふれあい型給食などの活動が見守りにつながることを改めて、周知した。

また、悪質業者の訪問販売などによる被害の防止方法を周知することなど見守り訪問活動の重要な役割を担う内容の研修会を今後実施していくことが重要である。

(2) ふれあい型給食サービス事業の推進

* 受託事業

1) ふれあい型給食サービス事業の実施

○事業内容:概ね65歳以上のひとり暮らしの高齢者、75歳以上の高齢者のみの世帯、単身の障がい者世帯で給食を必要とし、かつ地域との交流が必要な方に月1回、見守り活動を兼ねて地域のボランティアがお弁当を届ける。

- 利用人員 884名
- 延利用人員 8,743名
- 実施地区:12地区
- 実施頻度:月1回(昼食または夕食)

地区	実施回数	利用対象者	対象人員	延利用者数 (R5.4~R6.3)	調理会場
大殿	月1回(夕食) 第1水曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者等	27名	273名	太陽堂旅館
白石	月1回(夕食) 第2火曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者 ・75歳以上の高齢者のみの世帯 ・単身の身体障害者	193名	1,867名	いちやなぎ
大内	月1回(昼食) 第2・第3木曜日	・70歳以上のひとり暮らし高齢者	134名	1,344名	大内地域交流センター
宮野	月1回(昼食) 第1木曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者等 ・身体障害者等	107名	1,084名	ふしの学園
吉敷	月1回(夕食) 第3木曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者等	57名	483名	吉敷地域交流センター (自主調理と委託調理を混ぜている)
平川	月1回(夕食) 第2火・水曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者等	63名	676名	山口あかり園
陶	月1回(昼食) 第2水曜日	・70歳以上のひとり暮らし高齢者もしくは夫婦が高齢者同士	44名	480名	温泉ホーム日吉台
鑄銭司	月1回(昼食) 第4火曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者 ・75歳以上の高齢者のみの世帯 ・単身の身体障害者	48名	378名	まるしょう鑄銭司店
名田島	月1回(夕食) 第3火曜日	・70歳以上のひとり暮らし高齢者 ・78歳以上の高齢者のみの世帯	29名	337名	まるしょう鑄銭司店
秋穂二島	月1回(昼食) 第1火曜日	・70歳以上のひとり暮らし高齢者等 ・75歳以上の高齢者のみの世帯	39名	421名	山口秋穂園
嘉川	月1回(夕食) 第3水曜日	・75歳以上のひとり暮らし高齢者 ・80歳以上の高齢者夫婦	99名	962名	温泉ホーム日吉台
佐山	月1回(昼食) 第4水曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者等	44名	438名	佐山地域交流センター

2) 給食サービス関係者食品衛生(食中毒対策)研修会の開催

○事業内容:ふれあい型給食サービス事業の食中毒予防対策として、本会の主催による給食サービス関係者食品衛生(食中毒対策)研修会を開催する。

開催日	5月26日(金)
会場	山口県総合保健会館
参加者数	35名

3) ふれあい型給食サービス事業実施地区交流会の開催

○事業内容:ふれあい型給食サービス事業の実施地区を対象とした交流会を2年に1回開催する。
次回開催年は令和6年度である。

《成果と課題》

本事業は、配食者が見守り訪問活動の一環として利用対象者の安否確認をすること、配食をきっかけに地域交流を促進し、地域のつながりが形成されることを目的としている。

令和5年5月から湯田地区が事業廃止となり、現在12地区が事業を実施している。

新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類移行になったことから、今年度は特に制限なく各事業で事業を実施されている。

今年度は5月に給食サービス関係者食品衛生(食中毒対策)研修会を開催した。

物価高騰の社会情勢から一食あたり委託料の値上げが望まれること、ボランティアの高齢化や不足といった課題があげられる。

令和6年度は事業実施地区情報交換会が開催されることから、各地区の状況をふまえながら事業を実施したい。

4 地域子育て支援機能の充実

(1) 児童福祉事業の推進

1) 山口市山口児童館の運営 * 指定管理事業

事業	名称	内容	時期・回数	対象・人数	成果と課題
自由 来館	施設開放	遊戯室、児童遊園を開放し、子どもの遊び等の活動場所とするとともに、保護者の交流場所とする。	通年 開館日291日 ※臨時休館2日 (うち豪雨1日・館内清掃1日)	乳児・幼児・ 児童・その他 16,547名	備品の老朽化が激しく、計画的な入れ替えが必要である。
	HAPPYスペース	2階図書室を小・中・高校生に自習室として開放。	午前9時～ 午後4時30分	小・中・高生 413名	特に中・高生の利用が多く、静かな環境で集中して学習に取り組む様子があった。
	プール開放	夏休みに児童遊園のプールを開放し、水遊びの場所とする。	7月20・21・26・ 27・28日 8月2・3・4日 計8回	幼児・児童 120名 保護者71名 計191名	職員による監視により怪我や事故なく実施できた。悪天候により2回中止
連続 講座	やんちゃクラブ	親子の遊びや活動を通じた居場所づくり、仲間づくり。(子育て相談を含む)	木曜日/月3回 程度 午前10時～ 午前11時 28 回	0歳～ 未就園児	月ごとの申し込みでたくさんの親子の活動の場を提供することができた。
	がらくたらんど	工作や絵画活動、集団遊びを通じた人間関係づくり。(子育て相談を含む)	月2回水曜日 午後3:45分～ 午後4:45分 20回	小1～小3 13名	通年の活動を行うことができた。
単独 講座	ぶれい☆メイト	大学生との工作や、レクリエーション活動。	月1回土曜日 (4月～6月) 午後1時30分～ 午後3時30分 (3回実施)	3歳～小6 57名 保護者29名 大学生80名 計166名	大学生と工作やレクリエーション・自由な遊びを通して交流を行った。
	ももたろうクラブ	活動を通して子どもから高齢者まで多世代の交流を行う。	不定期 (1回実施)	3歳～小6 17名 保護者16名 計33名	しめ縄作りを通して多世代の交流を行った。
	ひよっこり講座	様々な制作や遊びの体験活動。 作物の苗植えや収穫。	不定期 (3回実施)	乳幼児・小学 生 32名 保護者16名 計48名	立体プラ板作りやプール遊びを実施できた。さつまいもの収穫を楽しんだ。
	特別講座	専門講師による講座	不定期 (2回実施)	小学生 41名	萩焼のお皿作りやサイエンスショーを見て、科学工作をした。
	おはなしライブラリー	読み聞かせ、ペープサート、人形劇、エプロンシアター等	年10回不定期 (9回実施)	乳幼児・児 童・保護者 227名	児童館職員による紙芝居、パネルシアターを実施できた。
	プラレールの日	広いお部屋でプラレールで自由に遊ぶ	不定期 (9回計画5回実施)	乳幼児・児 童・保護者 166名	土曜日の開催はとても人気だった。来年度も継続していきたい。

事業	名称	内容	時期・回数	対象・人数	成果と課題
	移動児童館	制作やレクリエーション	不定期	内容から設定	未実施
行事	おはなしラリー	山口学芸大学学生・山口 BBS 会による様々な手法のお話会	7月15日(土) 午後1時30分～ 午後3時30分	乳幼児・児童・保護者 31名 大学生17名	今回で4回目となる行事。ラリー形式で4つのお話を楽しんだ。
	ゲームラリー	施設内での様々なゲーム活動。	9月16日(土) 午後1時30分～ 午後3時30分	3歳～小6 30名 保護者22名 中高生4名 計56名	施設内の10個のゲームをクリアし得点を競って楽しんだ。中高生ボランティアも参加してくれた。
	運動会	大学生企画による運動会。一つの競技は、高校生が企画。	10月21日(土) 午後1時30分～ 午後3時30分	3歳～小6 26名 保護者22名 大学生30名 高校生7名 計85名	大学生企画の競技を行い、家族で楽しむことができた。高校生も企画・参加した。
	舞台芸術公演	劇団員の方による演劇鑑賞・ワークショップ	9月30日(土) 午前10時～ 午前11時30分	乳幼児・児童・保護者・大学生 43名	幼児には少し内容は難しいが、動きやワークショップを家族で楽しむことができた。
	秋祭り	各種ゲーム、飲食コーナーでの体験活動。ダンボール迷路の委託設置。	11月18日(土) 午後1時30分～ 午後3時30分	3歳～小6 34名 保護者23名 大学生10名 計67名	大学生の協力を得ながらお店やゲームの充実を図った。
	クリスマス会	音楽や劇の鑑賞、ゲームなど。	12月9日(土) 午後1時30分～ 午後3時30分	3歳～小6 37名 保護者25名 大学生17名 計79名	大学生による出し物や劇などとても好評だった。

《成果と課題》

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、コロナ禍前に近い規模で行事を行うことができた。今後も社会情勢をみつつ、行事の維持や拡大を行っていききたい。

運動会やクリスマス会は、大学生(山口 BBS 会)が主に企画し実施。コロナ禍を経て育成が課題となっている。次年度も課題を踏まえながら、より良い行事を行いたい。

プラレールの寄贈の呼びかけによりたくさんのプラレールが集まったため、プラレールの日を開催し、広い部屋で自由に遊べるようにした。土曜日の開催は、特に人気が高く、今後も行っていききたい。

未就園児親子が参加するやんちゃクラブを年間通じての申し込みではなく、月ごとの申し込みで開催した。たくさんの親子の参加があり、特に低年齢児(1～2歳)の親子の居場所づくりの必要性を再認識した。

NPO法人あっとの運営する『あっと児童クラブ』が施設内に入り、月1回のミーティングを行うことで情報共有・問題提起・解決に繋げることができた。今後も職員の連携・危機管理等を行いながら双方がよりよく利用できる方法を考えていく必要がある。

遊具や設備の劣化による撤去・修繕は今後も必要であり、利用する子ども達の安全を第一に考えていききたい。

秋穂コミュニティセンターの運営

* 指定管理事業

○事業内容: 山口市より委託を受けた山口市秋穂コミュニティセンターの適正な管理運営を行い、センターとして地域住民と密接な連携を保ちながら、児童の健全育成に努める。

令和5年度 秋穂コミュニティセンター事業報告			
月	主な行事		会議、定例会、その他
4	2(日)~9(日)	さくらウィーク	囲碁将棋定例会 8回 29名 ひまわり会(自彊術) 4回36名 職員会議(本所) 5名
	6(木)	あそびのコーナー (館のみ開催) 16名	
	15(土)	みて!さがして! 串山ハイキング 中止 (交流センター共催)	
5	13(土)	フラワーアレンジメント教室 17名	囲碁将棋定例会 7回 24名 ひまわり会(自彊術) 3回 28名
	23(火)	出前児童館「歌・ダンス」 19名 (大海なかよし学級)	
6	18(日)	わくわくランド「スタンプあそび」 27名	囲碁将棋定例会 8回 31名 ひまわり会(自彊術) 5回46名 職員会議(山口市・本所) 8名
	29(土)	夏休み工作教室 「パタパタを作って遊ぼう」 18名	
7	29(土)	夏休み工作教室 「パタパタを作って遊ぼう」 18名	囲碁将棋定例会 8回 29名 ひまわり会(自彊術) 4回 34名 団体利用 12名
	25(金)	第3回にこにこコンサート 91名	
8	25(金)	第3回にこにこコンサート 91名	囲碁将棋定例会 8回 40名 ひまわり会(自彊術) 団体利用 8名
	30(水)	出前児童館「防災教室」 36名 (秋穂児童にこにこ学級)	
9	9(土)	にこにこキッズ 5名	囲碁将棋定例会 8回 31名 ひまわり会(自彊術)2回20名 職員会議(本所) 5名
	24(日)	第96回囲碁大会 17名	
10	22(日)	あいおコミまつり 159名 劇団演劇街鑑賞(児童劇巡回事業)	囲碁将棋定例会 7回 29名 ひまわり会(自彊術) 4回 38名 団体利用 42名 職員会議(本所) 5名
	12(日)・26(日)	からだリフレッシュ講座①・② 延べ24名	
11	12(日)・26(日)	からだリフレッシュ講座①・② 延べ24名	囲碁将棋定例会 ひまわり会(自彊術) 団体利用 8名
	3(日)	わくわくランド 「ミニクリスマス会」 22名	
	9(日)	木の葉木の実リースづくり 13名	
12	3(日)	わくわくランド 「ミニクリスマス会」 22名	囲碁将棋定例会 8回 30名 ひまわり会(自彊術) 3回 22名 団体利用 16名 職員会議(本所) 5名
	17(日)	工作教室「ミニ門松作り」 36名	

令和5年度 秋穂コミュニティセンター事業報告			
月	主な行事		会議、定例会、その他
R6年 1	18(木)	運営委員会 13名	囲碁将棋定例会 8回 34名
	28(日)	第97回新春囲碁大会 18名	ひまわり会(自彊術) 3回 33名
2	18(日)	わくわくらんど 9名	囲碁将棋定例会 7回 29名 ひまわり会(自彊術) 5回 46名 団体利用 10名
3	10日(日)	にこにこハイキング 15名	囲碁将棋定例会 7回 29名 ひまわり会(自彊術) 5回 46名 団体利用 173名

○その他の事業

図書の貸し出し・防災啓発活動(防災教室/年1回・避難訓練/月1回)

【成果と課題】

新型コロナウイルスが5類に引き下げられ、行事への参加人数や土日の来館者数が増加していった。しかし夏休みの平日利用は猛暑のため、子どもだけでの来館が難しく利用が少なかった。

台風のため土砂災害の危険性があり1日休館になったが、市との連携が出来ていなく対応に戸惑った。その後、市と協議し休館時の緊急連絡先等の調整を行った。

交通の便が悪く土日は習い事のある子どもが多いため、引き続き集客に苦慮している。

未就学児親子・小学生の居場所づくりとして「わくわくらんど」・「にこにこキッズ」を開催したが、広く周知されていないため、今後発信方法を検討したい。来年度は形態を変えて実施する予定。また狭い地域で似たような講座やイベントがあるため、時期によっては集客が困難な場合がある。

春と秋2回、初めて「まつり」を開催したが、地域社会と子どもとの繋がりを提供するコミュニティセンターとしての役割を果たすことができた。

3)放課後児童クラブの運営

* 受託事業 * 指定管理事業

①小郡児童クラブ事業(小学校1～6年の学童保育) * 指定管理事業

○事業内容: 小学校放課後、家庭に保護者がいない児童に遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。

・放課後児童クラブ事業の円滑な運営(支援員42名+補助員19名)

(夏期休業期間に非常勤支援員5名、シルバー人材センター8名増員)

登録学童 290名(5学級)

開設日数	ひまわり学級	292日開設(土曜日48日)	登録学童 58名 (3月末53名)
開設日数	ひまわり第2学級	292日開設(土曜日48日)	登録学童 54名 (3月末53名)
開設日数	ひまわり第3学級	292日開設(土曜日48日)	登録学童 60名 (3月末47名)
開設日数	はちのこ学級	294日開設(土曜日50日)	登録学童 60名 (3月末59名)
開設日数	はちのこ第2学級	294日開設(土曜日50日)	登録学童 50名 (3月末48名)

各種事業

月	日	曜日	事業内容
4	1 20	土 木	・保育開始 ・小郡小学校挨拶(はちのこ・はちのこ第2学級) ・上郷小学校挨拶(ひまわり・ひまわり第2・ひまわり第3学級)
7	20	木	・小郡小学校との連絡会(はちのこ・はちのこ第2学級) ・上郷小学校との連絡会(ひまわり・ひまわり第2・ひまわり第3学級) 学級毎に担任の先生と調整後、実施
11	19	日	・令和6年度小郡小・上郷小学校区放課後児童クラブ入級説明会
令和6年 3	9 16 31	土 土 日	・学級別保護者説明会(はちのこ・はちのこ第2学級) ・学級別保護者説明会(ひまわり・ひまわり第2・ひまわり第3学級) ・保育終了

【職員の研修関係】

- 5月～6月 放課後児童支援員認定資格研修
- 6月21日(水) 教育支援員等研修会
- 7月13日(木) 放課後児童クラブ支援員新人研修会
- 9月21日(木) 第1回児童クラブ代表者会議
- 2月15日(木) 山口市こども未来課巡回訪問研修
- 2月16日(金) 児童クラブ支援員及び補助員全体研修
- 3月5日(火)・7日(木) 放課後児童健全育成関係職員等中堅者研修会
- 3月8日(金) 第2回放課後児童クラブ代表者会議
- その他研修会(南部支所衛生委員会等)

《成果と課題》

共働き世帯、核家族世帯、ひとり親世帯など本事業の利用を希望される世帯が増えており、放課後、子どもが安心して過ごせる生活の場を提供できるよう支援員、保護者、小学校、地域が連携した学級運営に努めている。今年度も小郡小学校区は通年の待機児童が多く、長期休業期間のみの利用希望もあったが、令和6年度からはちのこ第3学級新設のため待機児童の解消が見込まれる。

また、引き続き小学校や地域と連携し、児童の安心・安全を見守っていく。

②秋穂児童クラブ事業(小学校1～6年の学童保育) *指定管理事業

○事業内容: 小学校放課後、家庭に保護者がいない児童に遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。

・児童クラブ事業の円滑な運営(児童厚生員2名+支援員11名+補助員2名)

開設日数 秋穂児童にこにこ学級 289日開設(土曜日45日) 登録学童 48名(3月末40名)

開設日数 大海なかよし学級 288日開設(土曜日50日) 登録学童 37名(3月末34名)

各種事業

月	日	曜日	事業内容
4	3	月	・保育開始(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
	11	火	・入級式(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
			・作成活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)

5	22, 23 29	月、火 月	・作成活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・運動会振替休日(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
6	19	月	・作成活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・さつま芋の苗植え(秋穂児童にこにこ学級) ・参観日振替休日 防災訓練(大海なかよし学級)
7	13,14	木、金	・夏季休業前保護者会(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・作成活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・大掃除(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
8	31	木	・水遊び(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・制作活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・防災訓練(秋穂児童にこにこ学級)
9	15 27 22	金 水 金	・作成活動 ・夏祭り(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・にこにこコンサート参加(秋穂児童にこにこ学級) ・火災訓練(秋穂児童にこにこ学級)
10	26	木	・ハロウィン制作 ・ハロウィンパーティー(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
11	1 17	水 金	・芋ほり(秋穂児童にこにこ学級) ・制作活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・児童クラブ合同利用説明会(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
12	21 28	木 木	・クリスマス制作(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・クリスマス会(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・大掃除
R6年1月	18	金	・制作活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・運営委員会開催
2	2	土	・節分行事(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・制作活動
3	4, 15	木、金	・新年度保護者会(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
	26	火	・お別れ会(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)

【職員の研修関係】

- ・山口市児童クラブ支援員全体研修会 ・山口市南部ブロック研修会 ・新人支援員研修会
- ・放課後児童支援員認定資格研修会 ・児童館長、児童厚生員等研修会
- ・放課後児童健全育成関係職員等中堅者職員研修会

《成果と課題》

放課後、子どもが安心して過ごせる生活の場を提供できるよう支援員、保護者、小学校、地域が連携した学級運営に努めている。共働き世帯、核家族世帯、1人親世帯など、本事業の利用を希望される世帯が増えている。

開所時間延長事業の利用者が多く、登録児童の4割弱が利用している。

学童内における行事、制作等は、子ども達が何に興味があるのかりサーチし少しでも子ども達が楽しめるような内容のものを考え実践した。

その結果、子ども達も新しいことに取り組んだ喜びと、達成感を味わうことができ、次は何をしたいのか伝えてくるようになった。常に向上心を持ち続け、現状に満足しないように心掛けたい。

③阿知須児童クラブ事業(小学校1～6年の学童保育) *受託事業* 指定管理事業

○事業内容: 小学校放課後、家庭に保護者がいない児童に遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。

・児童クラブ事業の円滑な運営: 支援員(嘱託)3名+支援員・補助員31名

(学年始め休業期間に補助員6名増員)

登録学童183名(3学級合計)

開設日数 おひさまクラブ1 293日開設(土曜日49日) 登録学童 57名 (3月末54名)長期保育0名

開設日数 おひさまクラブ2 293日開設(土曜日49日) 登録学童 69名 (3月末65名)長期保育0名

開設日数 井関にこにこクラブ 292日開設(土曜日48日) 登録学童65名 (3月末59名)

各種事業

月	日	曜日	事業内容
4	1	土	・保育開始
5	25・26	木・金	・阿知須中学生職場体験受け入れ(3カ所)
6	7	水	・芋の苗付け(井関にこにこクラブ)
	8	木	・巡回訪問(おひさまクラブ1)延期
	28	水	・学校引き渡し訓練に参加(井関にこにこクラブ)
	20	火	・巡回訪問(おひさまクラブ2)
7	4	火	・巡回訪問(おひさまクラブ1)
	21	金	・避難訓練(おひさまクラブ1・2)
	24	月	・かき氷(おひさまクラブ2)
	25	火	・フラワーアレンジメント教室(おひさまクラブ2)
	27	木	・水遊び(おひさまクラブ2) ・かき氷(おひさまクラブ1) ・グッティ工作教室(井関にこにこクラブ)
8	1	火	・水でっぼうあそび(おひさまクラブ1) ・フラワーアレンジメント(おひさまクラブ2)
	2	水	・「おはなしきらきら」本の読み聞かせ(おひさまクラブ1・2)
	3	木	・「おはなしきらきら」本の読み聞かせ(井関にこにこクラブ) ・巡回訪問(おひさまクラブ1・2) ・ネイチャーゲーム(おひさまクラブ2)
	5	土	・発表会(井関にこにこクラブ)
	7	月	・水でっぼうあそび(おひさまクラブ1) ・かき氷(おひさまクラブ2)
	8	火	・かき氷(おひさまクラブ1) ・昔の遊び教室(井関にこにこクラブ)
	10	木	・交通安全教室(井関にこにこクラブ)
	17	木	・昔遊び(おひさまクラブ1)
	18	金	・かき氷(おひさまクラブ2)
	21	月	・水でっぼう遊び(おひさまクラブ1・2) ・けん玉認定(井関にこにこクラブ)
	22	火	・フラワーアレンジメント(おひさまクラブ1)
	23	水	・ネイチャーゲーム(おひさまクラブ1)

月	日	曜日	事業内容
8	25	金	・昔のあそび(おひさまクラブ2) お楽しみ会(井関にこにこクラブ) ・バルーンアート・お店屋さん(おひさまクラブ1・2) ・カレーの日・ビンゴ(おひさまクラブ1・2)
	29	火	
	30	水	
	31	木	
	夏休み期間を通して 習字、折り紙(ミニオン製作)、プラ板作り、ビーズ製作		
10	11	水	・芋ほり
11	2	木	・焼き芋大会(井関にこにこクラブ) ・巡回訪問(おひさまクラブ1) ・巡回訪問(おひさまクラブ2)
	13	月	
	17	金	
12	19	火	・クリスマス会(おひさまクラブ1・2) ・巡回訪問(おひさまクラブ1)
	2	木	
	1		
令和6年 3	4	土	・発表会(井関にこにこクラブ) ・新年度説明会(おひさまクラブ1・2) ・お店屋さん(おひさまクラブ1・2) ・カレーの日(おひさまクラブ1・2) ・おわかれ会(井関にこにこクラブ) ・お楽しみ会・お店屋さん(おひさまクラブ1・2)
	8	金	
	19	火	
	26	火	
	29	金	

※毎月・けん玉教室(井関にこにこ)・学校運営協議会(井関にこにこ)

毎月支援員会議(おひさま1・2・井関にこにこ)

[職員の研修関係]

- ・放課後児童健全育成関係職員等初任者研修会・放課後児童支援員認定資格研修・児童クラブ代表者会議
- ・放課後児童健全育成関係職員等資質向上研修会・放課後児童健全育成関係職員等中堅者研修会
- ・教育支援員研修会・子育て情報交換会・青少年健全育成市民会議阿知須支部総会・小学校と懇談会
- ・巡回後研修会・コドモン研修会・嘱託職員研修会

<成果と課題>

コロナウイルス感染症も落ち着いてきました。行事も少しずつ増え、地域の方々と子どもたちの交流の場作りも活発になりました。学校との連携も密になりつつあります。コドモンの導入もあり、戸惑うこともありましたが、スムーズに移行できました。令和6年度は学校・地域と密に連携し、子どもたちの育成に一層関わってきたいと思えます。しかしながら、子どもたちの人数も増えており、支援員の人数は余裕がない状態が続いています。支援員の確保が課題です。

④徳地児童クラブ事業(小学校1～6年の学童保育) *受託事業

○事業内容: 小学校放課後、家庭に保護者がいない児童に遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。

- ・放課後児童クラブ事業の円滑な運営(支援員9名、補助員1名)

登録学童 41名(3学級)

開設日数 出雲児童クラブ 248日開設(土曜日 6日) 登録学童 16名

開設日数 八坂児童クラブ 260日開設(土曜日19日) 登録学童 13名

開設日数 島地児童クラブ 250日開設(土曜日 8日) 登録学童 12名

月	日	事業内容
4	1	・保育開始
5		・こどもの日のお祝い(島地)
7	20	・ミニお楽しみ会(島地)
8		・セーフティーセミナー(島地) ・ナンプレ、風船バレー(出雲) ・夏休み5・7・5俳句(出雲)
10		・風船バレーボール大会(出雲)
12	22	・お楽しみ会(島地) ・クリスマス会(出雲・八坂)
令和6, 1	5	・新年お楽しみ会(八坂) ・鏡開き(出雲)
2	3	・節分(豆まき)(出雲・八坂・島地) ・バレンタインデー(出雲・八坂・島地) ・スピード大会(出雲)
3	3	・おひなさま(島地) ・入級説明会(出雲・八坂・島地) ・お楽しみ会(島地) ・お別れ会(出雲・八坂・島地)

《成果と課題》

放課後、子どもが安心して過ごせる生活の場を提供できるよう支援員、補助員、保護者、小学校、地域間で連携した学級運営に努めている。入級児童数は減少傾向であり、約5割が開所時間延長事業を利用して

いる。
新型コロナウイルス感染症法の位置づけが5類となり、児童のマスク着用は学校の対応のとおり各児童に委ねることになったが、床・机の除菌、手洗いの励行、アルコール消毒の設置、支援員等のマスク着用は従来どおり感染症対策に努めている。

八坂児童クラブは、小学校敷地内にある建物(旧寄宿舍)の一部を利用しているが、施設が老朽化し防災の面から不安である。

また、島地児童クラブの懸案事項であった駐車場から児童クラブへの通路を照らす照明施設の設置について、山口市子ども未来課に設置をしていただいた。

⑤阿東児童クラブ事業(小学校1～6年の学童保育) * 受託事業 * 指定管理事業

○事業内容: 小学校の放課後や土曜日、学校の長期休業中に、家庭に保護者がいない児童に遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。

徳佐児童クラブ : 開設日数 245日開設(内土曜日 1日) 登録学童 6名

さくら児童クラブ : 開設日数 253日開設(内土曜日 9日) 登録学童 16名

月	日	行事内容
11	18	阿東地区児童クラブ入級説明会

《成果と課題》

共働き世帯、ひとり親世帯などの本事業の利用を希望される世帯に対して、小学校の放課後、児童が安心して過ごせる生活の場を提供できるよう支援員・補助員、保護者、小学校、地域間で連携した児童クラブ学級運営に努めている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止措置が緩和、廃止されつつあった中でも、引き続き消毒、検温、手洗い、換気等の基本的感染症防止対策を鋭意継続的に行って児童クラブ運営をしたところである。

今後も、在級児童たちができるだけ安心安全に過ごせるよう配慮した運営に心掛ける。

⑥放課後児童クラブ運営会議

○事業内容：児童クラブ事業推進室が平成31年4月に本会の運営する児童クラブの課題に取り組むため設置された。その課題解決を行う場として放課後児童クラブ運営会議が設置された。

今年度は以下のとおり協議し、課題解決に取り組み、共通認識を図った。

○年間開催回数 6回

開催日	協議内容
4月25日(火)	1.今年度の室の体制について 2.放課後児童クラブ事業調整シートについて 3.会議報告 4.予算・決算について 5.コロナ費について 6.年度協定書について 7.30分前ルールの確認について 8.今後のコロナ対応について 9.Wi-Fi、タブレットの対応について 10.その他
6月27日(火)	1.コロナ費について 2.おやつ代について 3.長期休暇における職員採用に面接方法について 4.70歳以上の雇用について 5.スマート大臣について 6.報告事項
8月29日(火)	1.コロナ費について 2.物品購入伺いについて、職員の給与について 3.緊急時の対応について(緊急連絡網等) 4.巡回訪問について(現状把握について) 5.大学生バイト斡旋の件(山口大学、山口県立大学)
10月17日(火)	1.児童クラブ職員の労働条件通知書、名札について 2.巡回訪問について(現状把握について) 3.上半期決算について 4.事務事業評価シートの結果について 5.その他
12月26日(火)	1.事故報告起案のまわし方について 2.有給休暇の取得とクロシオンの申請について 3.新型コロナウイルス感染症5類以降における各学級の取り組みについて 4.巡回訪問報告

開催日	協議内容
	5.児童クラブ嘱託職員の情報交換会について 6.その他
令和6年 2月9日(金)	1.積雪時の対応について 2.巡回訪問報告後の市役所への相談について 3.事業報告について 4.令和6年度スポーツ安全保険の加入について 5.放課後児童クラブ事業調整シートについて 6.コドモンについて

《成果と課題》

5地区の児童クラブの現状を把握し、昨年度に引き続き、本事業の課題とその対応をまとめた事業調整シートをもとに調整できる項目は協議し解決を図った。事業調整シートの項目は、ほぼ解決できたため、児童クラブ推進室は閉室とするが、次年度からも引き続き、各クラブの運営上、情報共有は必要なため本運営会議は継続していく。

4) 子育てサロンの推進

ふれあい・いきいきサロンの子育てサロンは、現在の登録数が8サロンある。令和2・3年度は高齢者サロンと合同で交流会を開催したが、今年度も、令和4年度のように子育てサロンの担い手同士の交流を目的に交流会を行い、主任児童委員の参加を募ったこともあり、活発な意見交換ができた。また、今年度より、開催案内の範囲を広げ、子育てサロン関係者以外にも、主任児童委員や地域子育て支援拠点施設関係者等の参加もあり、子育てに関わる様々な団体が交流できる機会となった。

(2) 母子・寡婦・父子家庭福祉事業の推進

・山口市母子寡婦福祉連合会への支援

5 社会福祉法人の地域公益活動の支援と協働

平成30年3月13日に「山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会」の設立総会を行い、同年度から同協議会の取組みをスタートさせた。本会は同協議会の事務局を担っており、市内の社会福祉法人が連携・協働して、地域公益活動に取組み、制度の狭間の福祉課題の解決に向けた協議と仕組みづくりを推進している

年月	役員及び理事	加入法人全体	各エリア部会他
令和5年 4月	20日(木) 監査会監事2名 25日(火) 第1回役員会 ・理事6名出席 ・総会について他		
5月		19日(金) 総会 ・17法人30名出席 記念講演 長谷川教授	19日(金) 第1回北部エリア部会
6月			6日(火) 第2回種をまきますプロジェクト会議 8日(木) 第1回南部エリア部会 19日(月) 第1回中央部エリア部会
7月	11日(火) 第2回役員会 ・理事5名出席 ・研修会について他		
8月		18日(金) 第1回全体研修会 ・16法人28名出席 ・「地区社協活動について」	18日(金) 第2回北部エリア部会 28日(月) 華を栄せましょプロジェクト会議
9月			12日(火) 第3回種をまきますプロジェクト会議
10月	16日(月) 第3回役員会 ・理事5名出席 ・第2回全体研修会について 他		5日(木) 第2回中央部エリア部会 22日(日) 中央部エリア部会 親子バスツアー講師
11月		20日(月) 第2回全体研修会 ・17法人32名出席 ・「各法人で行っている公益活動について」	20日(月) 第3回北部エリア部会
12月	6日(木) 山口市地区社会福祉協議会連絡会役員との情報交換会		18日(月) 第2回南部エリア部会 19日(火) 第4回種をまきますプロジェクト会議

年月	役員及び理事	加入法人全体	各エリア部会他
令和6年 1月	23日(火) 第4回役員会 ・理事5名出席 ・次年度事業計画(案)他		
2月		27日(火)第3回全体研修会 ・15法人37名出席 ・「ひきこもりについて」	22日(木) 第3回南部エリア部会 27日(火) 華を栄せましょプロジェクト協議 第4回北部エリア部会
3月	18日(月) 第5回役員会 ・理事6名出席		8日(金) 第3回中央エリア部会 13日(水) 第5回種をまきますプロジェクト会議

《成果と課題》

令和3年度から中学校の学習指導要領改訂により、介護の授業が導入されるにあたり、市介護保険課から委託事業として、「介護体験事業」を受託し、令和5年度は市内9中学校に対し、7法人の職員が講師として、講義と体験学習を実施した。また、同様に小学校へも加入法人が中心になり、22校に対し、8法人が講師として福祉教育を実施している。今後、大規模校の実施や障がいや児童等の他分野まで広げていくのが、課題となる。

また、ひきこもりや生活困窮者、刑余者等の取り組みについては、プロジェクトチームを立ち上げ、パーソナルサポートセンターの協力により、令和4年度末から試験的に受け入れを実施し、令和5年度はひきこもり経験者2名を受け入れた。ここ数年の課題となっていた広報については、プロジェクトチームを立ち上げ、市社協ホームページ内にページを立ち上げた。

事業の検討及び実施する主体として、各エリア部会で各部会長を中心に事業実施に向けた協議を重ねる中で、法人間のネットワークづくりや情報交換につながっている。

今後の課題は、令和6年度から1法人の加入が決まっているが更なる新規加入法人の増加、予算確保、事業としては特に災害時の福祉避難所の受け入れ地域団体との連携(地区社協等)等、社会福祉法人の事業活動の更なる周知啓発など多岐にわたる。

6 持続可能な権利擁護支援事業の構築及び推進

(1) 日常生活自立支援事業及び法人成年後見事業の推進

1) 日常生活自立支援事業の実施

認知症、知的障がいや精神障がい等の理由により、判断能力が十分でない方々の生活を支援する日常生活自立支援事業は、開始以来24年6箇月が経過し、本会が事業推進を担っている。

○新規相談件数

類型	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
件数	11	5	8	10	34

○延べ相談及び援助件数

類型	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
件数	799	1,027	1,388	298	3,512

○新規契約件数

類型	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
件数	3	5	4	2	14

○解約件数

類型	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
件数	4	1	10	2	17

○解約理由

理由	成年後見	施設管理	本人管理	親族管理	本人死亡	その他	合計
件数	1	0	3	1	10	2	17

○利用者数

類型	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
合計	42	49	56	13	160

○研修並びに会議等

- ・研修会講師派遣 11月 2日 第1回市町社会福祉協議会日常生活自立支援事業 専門員会議
- ・推進員・生活支援員合同研修会 0回
- ・県社協現物調査 令和5年10月2日 本所北部支所、南部支所、阿東出張所

○生活支援員人数 9名（実活動人数9名）

《成果と課題》

新規契約件数は昨年度から17件減少し14件であった。昨年度と同様、利用者の判断能力の低下などの状況を踏まえて適宜成年後見制度への移行支援を実施し、解約件数17件の内1件が成年後見制度へつながった。今後も事業利用者の思いを大切にしつつ、関係機関と円滑に連携を図り適切な支援に努める。

一方で、事業利用者が自身で契約したスマホなどによるキャッシュレス決済（クレジットカード、電子マネー）で収支バランスが崩れることもあり、支援する上での課題となっている。

2) 法人成年後見事業の実施

平成25年度に山口家庭裁判所へ登録申請を行い、法人後見人等候補者名簿への登録が平成26年度6月に完了した。令和6年3月末現在で8件を受任(4件終了)している。

○法人成年後見受任状況

No.	性別	受任時期	類型	申立人	生活場所	備考
1	男性	平成27年1月審判	後見	親族(子)	在宅	終了
2	女性	平成27年3月審判	後見	山口市長	施設	終了
3	女性	平成28年7月審判	後見	山口市長	病院	受任中
4	男性	平成30年9月審判	後見	後見人	在宅	終了
5	女性	令和2年9月審判	後見	山口市長	在宅	終了
6	女性	令和3年12月審判	後見	山口市長	病院	受任中
7	男性	令和4年2月審判	後見	家庭裁判所	施設	受任中
8	女性	令和4年3月審判	保佐	本人	在宅	受任中

《成果と課題》

本会としては法人成年後見の受任を開始して9年が経過し、山口市は成年後見制度利用促進基本計画を策定し、本格的に権利擁護のネットワークが構築されることが期待される。そのような中、日常生活自立支援事業利用者の中で成年後見制度へ1件移行した。本会の受任件数は0件であったが、今後は計画的に受任を検討し、両制度を適切に利用できる仕組みづくりを進めていく。

(2) 権利擁護のための円滑な意思決定支援の仕組みの構築

1) 山口市権利擁護支援検討ワーキンググループの運営

令和5年度から国の補助事業である持続可能な権利擁護支援モデル事業を山口市が実施するにあたり、その一部を本会が受託した。

同事業では、権利擁護支援のニーズが高まると考えられる「身寄りのない市民」を対象者として想定し、多様な主体がそれぞれの特性を活かして役割分担・連携することで、山口市の実情に合わせた、持続可能な権利擁護支援の仕組みの構築を目指すため、ワーキンググループを5回実施した。

回	開催日	協議内容
第1回	5月30日(火)	○議事 1. 持続可能な権利擁護支援モデル事業について 2. 「身寄りがいない人」に対する支援の課題に関するアンケートの内容について
第2回	7月20日(木)	○議事 1. 「身寄りがいない人」に対する支援の課題に関するアンケート調査結果について 2. 今後のワーキンググループの進め方について
第3回	9月26日(火)	○議事 1. 身元保証人に求められる役割と具体的な対応について
第4回	11月17日(金)	○議事 1. 日常生活支援サービスについて(簡易な金銭管理等) 2. 死後に関する事務について 3. 民間の身元保証について

回	開催日	協議内容
第5回	令和6年 1月31日(水)	○議事 1. 事業概要について(再確認) 2. 先進事例について 3. 山口市版モデル事業(案)について

《成果と課題》

身寄りがない方の現状や課題についてアンケート調査結果をもとに、ワーキンググループでの協議を重ねた。本年度は身元保証や死後に関する事務などの制度が活用しにくい課題もあるなかで、まずは「簡易な金銭管理を通じ、地域社会における意思決定を支援する取組」の仕組みづくりを検討することになった。来年度には山口市版の仕組みづくりについて協議を行うことと、事業の担い手についての検討も急務である。

7 法律相談や貸付相談及び重層的支援体制整備事業の推進

(1) 生活相談事業の効果的・効率的な運営

1) 法律相談の実施

○相談日 : 毎月第1水曜日(北部支所エリア)と第3水曜日(南部支所エリア)

○相談時間: 午後1時30分から午後3時30分まで(1日4件:1件30分以内)

相談事項		件数	相談事項		件数
家事	離婚	4	不動産	土地建物登記請求	3
	遺言相続・遺産分割	26		賃貸借・売買紛争	6
	その他	2		境界・相隣関係の紛争	2
損害賠償請求		3		土地・建物明渡	1
債権・債務		6		不動産売買	2
労働		0		その他	3
その他		12		合計	70

《成果と課題》

市民の抱える法律的諸問題に、弁護士による専門的な立場から指導・助言が行われた。

本年度は、予定していた全24回全ての開催を実施することが出来た。相談件数は増加した。

2) お元気コールの実施

○事業内容: ひとり暮らし高齢者の希望者に対し、電話による声の訪問を実施

○実施頻度: 利用者に応じて週1回・月2回・月1回の実施

○利用者数: 7世帯(開始件数0、休止件数0、廃止件数3)

《成果と課題》

定期的な声の訪問により、利用者の「安全・安否の確認」や「健康状態の確認」、「精神的ケア」を図るとともに、通話中に発見した福祉ニーズ(困りごと)を関係機関へ繋ぐことで、問題の早期解決に役立っている。

利用者減少に伴い、広報紙にて周知啓発を実施。問い合わせが増加傾向にある。

緊急時対応等についても関係機関と協議する必要がある。

(2) 各種資金の貸付相談窓口の開設

他機関から借り入れが困難な失業者世帯や低所得者世帯、障がい者世帯、高齢者世帯を対象に総合支援資金や教育支援資金等の生活福祉資金貸付制度及び法外援護資金について、相談対応と貸付等を行った。

各種資金の貸付相談窓口		相談件数	貸付決定件数
1	生活福祉資金貸付 (総合支援資金・福祉資金・教育支援資金・不動産担保型生活資金・臨時特例つなぎ資金)	498	53
2	不良債権の督促指導(面接及び督促)	0	0
3	法外援護資金の貸付	91	25
4	食糧支援の実施	19	19
5	高額介護サービス費つなぎ資金貸付	0	0
6	生活安定対策資金の貸付	0	0
7	その他	178	0
合 計		786	97

※(償還指導): 山口県社会福祉協議会の貸付金については、山口県社会福祉協議会より直接郵送等で償還指導している。本会の法外援護資金については、本会より郵送にて償還指導している。

○研修並びに会議等

- 研修会講師派遣 6月29日 山口市 生活福祉資金制度及び関係機関との連携について
7月 4日 平川民児協 生活福祉資金の説明
12月 8日 阿知須民児協 生活福祉資金の説明

《成果と課題》

本年度は、生活困窮世帯からの相談や新型コロナウイルス感染症対策の特例緊急小口資金等のフォローアップを中心に延べ786件の相談と97件の貸付件数があった。資金の貸付に限らず、必要に応じて食糧等の現物支給も実施した。

今後も、生活困窮者自立支援事業実施機関をはじめとして関係機関と連携を密にし、具体的な支援を行い、生活困窮者の自立促進を図っていく。

《事業内容の変更》

1 高額介護サービス費つなぎ資金貸付事業の事務を市へ返還

平成27年度から山口市介護保険から委託を受け、事業を実施してきたが、事業主管課の山口市介護保険課の窓口を始め、市内各地に相談窓口が設置されている影響等もあり、相談件数、貸付件数ともに無きに等しい状態が5年間続いたため、本会の事業スリム化の観点から今年度をもって山口市へ事業を返還する運びとなった。

2 生活安定対策資金の受付停止

山口県社会福祉協議会からの委託を受け、山口県独自の事業として事業を実施してきたが、全国で実施されている生活福祉資金貸付事業のサービス拡充に伴い、年々利用実績が低下。延滞利子も生活福祉資金と比べかなり高額であり、本会としても市民に向けて案内しづらい状況である。生活福祉資金と内容が重なっている部分が多くあり、生活福祉資金のみでの相談対応が十分に可能なことから、本会としては、令和5年度をもって生活安定資金の受付は終了することとした。

(3) 歳末たすけあい配分金の効果的運用

(単位:円)

No.	配分対象又は事業名	算出基準	件数	配分額
1	当年度末に児童養護施設を就職・進学等で退所する児童	1名当たり 上限70,000円	5名	350,000
2	市社協登録子育てサロン	1サロン 上限15,000円	5サロン	73,570
3	地域住民のつながりを構築するための活動・行事(地区社協)		22地区社協	1,407,723
4	ひとり親(母子父子等)世帯で、満18歳未満の子どもがいる非課税世帯	世帯当り 10,000円	68世帯	680,000
5	障害者手帳を所持している非課税世帯	世帯当り 10,000円	167世帯	1,670,000
6	要介護3・4・5の認定を受けている方がいる非課税世帯	世帯当り 10,000円	19世帯	190,000
7	生活困窮世帯	世帯当り 10,000円 世帯員1名増ごとに 3,000円加算	115世帯	1,915,000
8	あったか相談会(生活困窮者等相談会)	会場費・食料支援 相談件数	83件 27件	299,712
9	罹災世帯	全壊(全焼)・半壊(半 焼)1件当り 20,000円	72件	1,440,000
10	地域と交流授業を行う児童福祉施設や障がい児通所施設等	上限40,000円	5施設	170,000
11	地区社協広報支援事業	地区社協だより発行 1回分 (上限40,000円)	22地区社協	810,685
12	市社協広報啓発	社協だより発行の一部	4回	860,000
13	歳末活動費	消耗品費・通信運搬費		318,636
14	令和6年度地域福祉活動事業費			679,991
	合計			10,865,317

《成果と課題》

事業内容や配分対象者などは、地域課題に沿った活用しやすいものであるか、山口市共同募金委員会審査委員会や運営委員会、本会の共同募金担当者会議などで協議を行い、毎年内容の見直しを行っている。今年度は、昨年度の巡回訪問時に各地区社会福祉協議会から出た意見を取り入れ、「地域のつながりを構築するための活動・行事」について、前年度の歳末たすけあい募金の実績をもとに各地区の事業費の上限額を設定し、活用しやすい要綱に変更した。また、「山口県令和5年6月30日からの大雨災害」の発生により、例年よりも多くの罹災世帯へ生活再建の応援を目的として助成した。

今後の課題として、歳末たすけあい募金の目標額に達しなかった場合の対策(配分事業の優先順位の想定)等を検討していく必要がある。令和6年度も引き続き配分事業を見直し、地域課題解決につながるものであるか内容を精査していく。

(4) 福祉総合相談事業機能及び周知の強化

令和5年度から地域福祉課(本所・北部支所)では、従来、本会で行っている福祉総合相談の機能及び周知の強化のため、やまぐち「まちの福祉相談室」を山口市と連携して取り組んでいる。また、川西地域包括支援センター及び川西第2地域包括支援センターにおいては、山口市より、やまぐち「まちの福祉相談室」を受託し、相談体制の充実を図っている。

相談件数

項目	内容	市社協	川西地域包括支援センター	川西地域第2包括支援センター	合計
相談者	本人	62	42	77	181
	家族	0	29	9	38
	地域	0	1	12	13
	関係機関等	24	31	10	65
	計	86	103	108	297
相談方法	来所	9	19	9	37
	電話	72	49	75	196
	訪問	5	14	18	37
	その他	0	7	4	11
	計	86	89	106	281
相談内容	仕事探し・就職について	0	8	10	18
	資金の貸付について	4	1	0	5
	こころの問題に関すること	3	2	48	53
	介護に関すること	2	22	3	27
	家族関係・人間関係	0	11	45	56
	収入・生活費のこと	5	27	16	48
	税金や公共料金等の支払について	2	1	2	5
	住まいについて	16	14	17	47
	食べるものがない	9	0	6	15
	子育てに関すること	0	2	1	3
	地域との関係について	0	0	2	2
	債務について	0	1	0	1
	病気や健康に関すること	3	19	19	41
	家計全般に関すること	0	11	4	15
	ひきこもり・不登校	0	10	6	16
DV・虐待について	0	2	0	2	

項目	内容	市社協	川西地域包括 支援センター	川西地第2包括支 援センター	合計
相談内容	その他	58	24	14	96
	計	102	155	193	450
	相談実件数	16	30	23	69
	相談延べ件数	86	89	106	281

《成果と課題》

令和5年度からの新規事業であり、地区社協、地区民児協、地区福祉員協議会等へ周知を行った。本人からの相談が多く、対応困難ケースに関しては市地域福祉課と連携し情報共有や対応ができた。相談ケースは高齢者関係だけでなく、子ども関係や生活困窮に関わることなど多岐にわたっており、多くの関係機関と連携しながら対応していくことが大切であると改めて感じた。次年度も、様々な機関と個人情報を守りつつ連携を図っていきたい。

8 介護保険法関連事業及び障害者総合支援法に基づくサービス事業の推進

(1) 高齢者福祉の推進

1) 介護サービス相談員派遣事業の実施

* 受託事業

○介護サービス相談員派遣等事業内容

介護サービス相談員が介護サービス提供事業所等に出向いて、利用者またはその家族から介護サービスに関する不安や不満、疑問等を聞き苦情申し立てなどに至る前に、サービス提供事業所と利用者との間の橋渡し役として問題の改善やサービスの質向上、利用者の自立した日常生活の実現を図ることを目的としている。

○実施対象の介護サービス

①施設サービス： 介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院

②居宅サービス： (介護予防) 特定施設入居者生活介護
通所介護、(介護予防) 通所リハビリテーション
(介護予防) 短期入所生活介護、(介護予防) 短期入所療養介護

③地域密着型サービス： 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

(介護予防) 認知症対応型通所介護

地域密着型通所介護

総合事業通所型サービス

(介護予防) 小規模多機能型居宅介護

地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

④特定施設入居者 有料老人ホーム(介護付き・住宅型)

生活介護： サービス付き高齢者向け住宅

○事業実施範囲と実施事業所数

山口市内の事業所 111箇所 (令和4年度は94箇所)

○事業実施結果

〈介護相談内容〉

内 容	件数	内 容	件数
入所・退所・利用料金	3	その他のサービス	7
設備・備品	3	介護保険料	0
食事・嗜好	8	利用料	1
トイレ・排泄	3	給付内容	3
入浴・清潔	2	その他の介護保険	5
趣味・娯楽	12	医療保険制度	0
人間関係・プライバシー	5	老人福祉制度	0
施設・職員の対応	11	老人保健制度	0
健康・医療・リハビリ	55	病気・健康管理	0
移動・送迎	1	家族問題	5
安全管理	0	その他	4
拘束	0	合 計	128

内 容	件数
気付き	51
実相談数	126
利用者数	3,302

《成果と課題》

119事業所訪問の予定をしていたが、コロナ感染症で5事業所、事業所閉鎖で3事業所が中止になり111事業所実施した。そのうち介護保険外の有料施設は3事業所であった。

特に9月からは、事業所職員のコロナクラスターが増え、事業所訪問のみならず日程確認もしにくくなった。相談者は126名で件数は128件。昨年と比べると14件増えた。相談内容は、健康・医療・リハビリに関する内容が圧倒的に多かった。

次年度訪問予定事業所は116事業所(有料施設は3事業所)の予定である。

課題としては、引続き介護サービス相談員の健康管理を徹底し、予定件数を実施することである。

前年度の相談者や気になった点の改善点やサービスでの変化を含めて細かく観察し、実益ある報告書を作成し、介護サービス相談員派遣事業の必要性を感じてもらえることも必要である。

実施時間が短時間で、利用者と一緒に食事をしないのが定着し、そのうえ利用者が高齢化しており、いかに利用者の声や相談を拾って事業所に届けるかなど課題は多いが、介護サービス相談員としての資質を向上させ、各事業所との良好な関係性を保てるよう努力していきたい。介護保険以外の有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅にも周知していく。

2) 居宅介護支援事業の実施

1. 南部指定居宅介護支援事業所

月	ケアプラン(件数)		月	ケアプラン(件数)	
	介護保険	介護予防		介護保険	介護予防
4	110件	0件	10	105件	0件
5	111件	0件	11	105件	0件
6	110件	0件	12	104件	0件
7	107件	0件	令和6年1	98件	0件
8	108件	0件	2	99件	0件
9	105件	0件	3	97件	0件
			合 計	1,259件	0件

《成果と課題》

居宅介護支援事業は、制度当初から収益のする事業ではなく、制度改正が行われるたびに、運営が難しくなっていた。また、新たな人材確保が困難なことから、社協の基盤強化計画での事業評価の中で、事業の存続についての検討がなされ、令和6年度をもって本事業を廃止する運びとなった。次年度は、利用者、家族の意向を確認して、他事業所への引継ぎを順次行っていく予定である。

②あとう居宅介護支援事業所

月	ケアプラン(件数)		月	ケアプラン(件数)	
	介護保険	介護予防		介護保険	介護予防
4	121件	0件	10	121件	0件
5	123件	0件	11	118件	0件
6	118件	0件	12	123件	0件
7	112件	0件	令和6年1	110件	0件
8	110件	0件	2	113件	0件
9	119件	0件	3	120件	0件
			合計	1408件	0件

《成果と課題》

5月に新型コロナウイルス感染症の第5類移行後も引き続きマスクの着用や手洗いを続け、感染症対策を行い利用者への支援を行ってきた。夏場に利用者の数が減ったが、おおむね前年度と大きな変化はなく推移している。

今年度は山口市から運営指導とケアプラン点検を受けた。運営指導ではおおむね良好と評価を受けた。ケアプラン点検は指摘される部分も多かったように思うが、その助言を活かして利用者本人に寄り添ったプランの作成に努めたい。正規職員が主任ケアマネジャーの研修を終えたので、これから地域の課題にも取り組んでいく。

③ 訪問介護事業の実施

○サービス利用者数

	サービス内容				
	延べ利用者数	身体介護	身体生活介護	生活援助	総合支援事業
阿東	404名	1,309時間	2,232時間	868.75時間	122名
南部	498名	2,227時間	663時間	709時間	244名
合計	902名	3,536時間	2,895時間	1577.75時間	366名

《成果と課題》

昨年度と比べ、全体的には利用者数・介護の提供時間ともに減少している。

南部訪問介護事業所では、職員数の減少が続き、且つ職員の高齢化等に伴い訪問依頼があっても受け入れが困難な状況が続いており、今年度、基盤強化計画の事業評価を行う中で、令和6年度をもって本事業を廃止する運びとなった。

あとう訪問介護事業所は、職員数の減少で受け入れ可能な時間数が減少した。

また、新型コロナウイルス感染症が5類になったが、以前と同様の感染予防を行い、業務において影響は無かった。令和6年度は職員一人一人が資質の向上を図り、質の高い支援が出来るよう努める。

4) 訪問看護事業の実施

○対象地域 阿東地域

月	介護保険		介護予防		医療保険	
	利用者	訪問回数	利用者	訪問回数	利用者	訪問回数
4	49名	192回	12名	46回	13名	101回
5	46名	222回	13名	53回	14名	106回
6	51名	256回	13名	52回	14名	94回
7	45名	207回	15名	55回	14名	80回
8	46名	236回	11名	38回	13名	94回
9	48名	245回	11名	39回	15名	95回
10	52名	260回	8名	31回	15名	87回
11	49名	260回	10名	34回	13名	53回
12	48名	178回	11名	43回	13名	76回
令和6年1	40名	165回	11名	36回	13名	72回
2	44名	176回	14名	47回	13名	82回
3	44名	173回	13名	44回	12名	90回
合計	562名	2570回	142名	518回	162名	1030回

《成果と課題》

本年度は非常勤看護師1名が正規職員となり、常勤2名、非常勤5名の7名体制でサービスを行った。昨年と比べ、全体的に利用者、訪問回数ともに減少した。内訳としては、介護予防、介護保険は利用者、訪問回数ともに減少し、逆に医療保険は利用者、訪問回数ともに増加したが、点滴・処置等の一時的な指示での訪問や、終末期の利用者のため短期間の利用が多かった。

今年度は新規利用者も多かったが、短期間の訪問や入院、入所でサービスの終了となるケースも多く、年間を通しての利用者・訪問回数の増加にはならなかった。

緊急時対応を希望されている利用者も多く、訪問看護のニーズは高い。住み慣れた自宅で安心して過ごすことができるように支援するためにも、職員一人一人のスキルアップを図り、在宅医療ニーズ等の増加に対応できるようにしたい。

5) 山口市川西地域包括支援センターの運営

* 受託事業

1 ネットワークの構築

① 包括ケア会議出席状況

出席回数

個別ケア会議	1回	
地域別ケア会議	1回	
住民主体会議	17回	
地域包括支援センター連絡会議	12回	
ネットワーク構築のための会議	24回	
内訳	(1)民生委員・児童委員協議会	14回
	(2)福祉員会	0回
	(3)地域密着型サービス運営推進会議	2回
	(4)居宅部会等介護支援専門員関係	6回
	(5)地区社会福祉協議会理事会等	2回

2 総合相談・支援業務

総合相談への対応状況(業務区分のその他を除く)		(件数)	・相談内容	(延件数)
電話	実件数	184件	介護予防	112件
	延件数	649件	生活支援	384件
来所	実件数	154件	虐待	14件
	延件数	185件	認知症	93件
訪問	実件数	53件	介護保険	442件
	延件数	258件	閉じこもり	2件
文書・Eメール	実件数	0件	緩和ケア	23件
	延件数	5件	総合事業	5件
その他	実件数	5件	障害者自立支援	0件
	延件数	22件	その他	131件
合計	実件数	396件	合計	1,206件
	延件数	1,119件		
夜間・土・日・休日		57件		

3 権利擁護業務

・権利擁護への対応

地域福祉権利擁護事業に向けての支援	0件
成年後見制度利用に向けての支援	3件
消費者被害に対する支援	0件
措置入所に対する支援	0件

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 (延件数)

介護支援専門員への個別相談	17件
---------------	-----

5 介護予防業務実施状況 (実件数)

介護予防出張講座	5件
----------	----

6 指定介護予防支援業務

介護予防支援業務

予防給付プラン作成件数

(件数)

(開催数)

年間給付管理件数	2,630件
新規作成件数	86件

サービス担当者会議	224回
-----------	------

* 介護予防支援業務に関する研修会への協力

7 その他 (実施回数)

広報活動(地域包括支援センターに関するPR等)	23回
-------------------------	-----

8 認知症地域支援推進員

■認知症対応力向上のための支援

介護支援専門員からの相談、支援	2回
認知症カフェとの連携	7回
地域団体との連携(認知症啓発等)	3回
キャラバンメイトとの連携	2回
オレンジサポーターとの連携	1回

■認知症予防・普及啓発 (実施回数)

認知症サポーター養成講座	3回
介護予防講座、調整	2回
図書館等公共施設との連携	6回
福祉用具事業所との連携	6回
放課後児童クラブとの連携	2回

■相談支援・支援体制構築

相談への対応状況(業務区分のその他を除く)		(件数)
電話	実件数	55件
	延件数	119件
来所	実件数	32件
	延件数	47件
訪問	実件数	38件
	延件数	57件
その他	実件数	2件

広報活動(認知症地域支援推進員に関するPR)	6回
------------------------	----

9 生活支援コーディネーター(第2層)

■地域組織からのニーズ把握の実績

主催者団体名	内容 (聞き取り方法・参加会議名等)	内訳		
		訪問	参加	その他
小郡地区社会福祉協議会	会議参加、地域課題の聞き取り		3回	
小郡地区民生委員児童委員協議会	会議参加、アンケート実施		3回	
おごおり地域づくり協議会 (地域福祉部会)	会議参加、地域課題の共有		7回	
地域支え合い活動委員会(きららシニア小郡)	会議参加、地域課題の共有		12回	
自立支援型地域ケア会議	会議参加		17回	

■地域資源の把握に関する実績

実態把握を行った対象事業所・地域団体・企業等	内訳		
	訪問	参加	その他
地域住民等			15回
いきいき百歳体操グループ		54回	

実態把握を行った対象事業所・地域団体・企業等	内訳		
	訪問	参加	その他
趣味サークル活動	12回		
商店等(地域の企業等)			8回
認知症カフェ	8回		
地域の情報等(サロングループ)		2回	
ボランティア団体			4回
介護保険施設	11回		

■不足する生活支援サービス等の把握や創出に関する実績

実態把握を行った対象事業所・地域団体・企業等	内訳		
	協議	訪問・参加	その他
地域住民団体(小郡地区社会福祉協議会)	1回	3回	
地域住民団体(きららシニア小郡)		3回	
地域住民団体(おごおり地域づくり協議会)	1回	1回	
ふれあいいきいきサロン		4回	

■生活支援の立ち上げ支援に関する実績

地域	支援した相手	訪問回数
小郡	百寿会(柏崎・新開)	16回
小郡	しんしも道草サロン(新町東下)	3回
小郡	いきいき山手会(山手下)	8回
小郡	矢足	4回

■協議体設置及び運営に関する活動実績

協議体名	回数
地域支え合い活動委員会(きららシニア小郡)	3回
小郡地区全体協議体	1回

広報活動(生活支援コーディネーターに関するPR)	27回
--------------------------	-----

個別ケースの同行訪問:53件

個別ニーズと取り組みのマッチング:13件

《成果と課題》

令和4年度から小郡地区のみの担当となり、地域の関係機関や関係団体等とより一層の連携を図ることができたといえる。

具体的には、川西圏域の介護支援専門員と地域包括支援センターと一緒に、要支援認定者の困難事例について意見交換を行った。さらに、高齢者世帯の複合化、複雑化した支援ニーズに対応するため、今年度から併設された、やまぐち「まちの福祉相談室」と連携を図りながら、包括的支援体制を整えることができた。

また、リハビリ分野を含めた複数の専門職による同行訪問等を通して、高齢者が元気を取り戻すため(自立支援)のアドバイスや、生活支援コーディネーターが集めた地域の社会資源情報などの紹介を行った。

認知症施策については、アルツハイマー月間に合わせて小郡図書館等、複数の公共機関で認知症関連の展示を行った。さらに、この度初めて若年層向けの認知症サポーター養成講座を、山口県立農業高

等学校で実施した。また、オレンジサポーターとの情報交換会への参加や、小郡地区にある認知症カフェの関係者との話し合いを通じて、小郡地域の認知症の人とその家族の支え合いについて、一緒に考え理解することができた。

令和4年度から、きららシニア小郡(市老人クラブ連合会小郡支部)が取り組んでいる地域の支え合い活動については、高齢者の困りごとの解決や地域の活動につながった事例があった。きららシニア小郡の助言をいただきながら、自治会連合会、地区社協、おごおり地域づくり協議会、地区民生委員児童委員協議会等の関係機関と、今後の新しい仕組みづくりについて、一緒に検討、協議する場を持つことができた。また、各圏域の地域包括支援センターと協力して、市内にある介護保険の通所系サービス事業所をまとめた冊子を作成し、市内の居宅介護支援事業所との情報共有を図ることができた。

今年度は、数年コロナ禍で薄れていた集う場が徐々に再開できた。今後は、高齢者等の個別事例や、小郡地区社協が策定する小郡地区第3次地域福祉活動計画の実行委員会に参加することで、地域の課題解決に向けて一緒に考え取り組んでいきたい。

5) 山口市川西第2地域包括支援センターの運営

* 受託事業

1 ネットワークの構築

① 包括ケア会議出席状況

出席数

個別ケア会議	5回	
地域別ケア会議	14回	
住民主体会議	1回	
地域包括支援センター連絡会議	12回	
ネットワーク構築のための会議	90回	
内訳	(1)民生委員・児童委員協議会	44回
	(2)福祉員会	15回
	(3)地域密着型サービス運営推進会議	9回
	(4)居宅部会等介護支援専門員関係	6回
	(5)地区社会福祉協議会理事会等	16回

2 総合相談・支援業務

総合相談への対応状況(業務区分のその他を除く)

(件数)

電話	実件数	201件
	延件数	784件
来所	実件数	56件
	延件数	120件
訪問	実件数	60件
	延件数	235件
文書・Eメール	実件数	0件
	延件数	13件
その他	実件数	4件
	延件数	28件
合計	実件数	321件
	延件数	1,180件
夜間・土・日・休日		112件

-相談内容

(延件数)

介護予防	116件
生活支援	493件
虐待	11件
認知症	166件
介護保険	455件
閉じこもり	7件
緩和ケア	2件
総合事業	5件
障害者自立支援	11件
その他	92件
合計	1,358件

3 権利擁護業務

・権利擁護への対応 (延件数)

地域福祉権利擁護事業に向けての支援	0件
成年後見制度利用に向けての支援	7件
消費者被害に対する支援	0件
措置入所に対する支援	0件

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 (延件数)

介護支援専門員への個別相談	21件
---------------	-----

5 介護予防業務実施状況 (実件数)

介護予防出張講座	2件
----------	----

6 指定介護予防支援業務

介護予防支援業務

予防給付プラン作成件数

(件数)

(開催数)

年間給付管理件数	3,005件
新規作成件数	73件

サービス担当者会議	184回
-----------	------

* 介護予防支援業務に関する研修会への協力

7 その他 (実施回数)

広報活動(地域包括支援センターに関するPR等)	11回
-------------------------	-----

8 認知症地域支援推進員

■ 認知症対応力向上のための支援

介護支援専門員からの相談、支援	4回
認知症カフェとの連携	5回
地域団体との連携(認知症啓発等)	7回
キャラバンメイトとの連携	1回
オレンジサポーターとの連携	1回

■ 認知症予防・普及啓発 (実施回数)

認知症サポーター養成講座	1回
図書館等公共施設との連携	8回
福祉用具事業所との連携	1回

■ 相談支援・支援体制構築

相談への対応状況(業務区分のその他を除く)		(件数)
電話	実件数	40件
	延件数	215件
来所	実件数	9件
	延件数	28件
訪問	実件数	10件
	延件数	61件

その他	実件数	1件
	延件数	13件

7 その他 (実施回数)

広報活動(認知症地域支援推進員に関するPR)	7回
------------------------	----

9 生活支援コーディネーター(第2層)

■地域組織からのニーズ把握の実績

主催者団体名	内容 (聞き取り方法・参加会議名等)	内訳		
		訪問	参加	その他
嘉川地区社会福祉協議会	地域課題の聞き取り(巡回訪問)	1回		
嘉川地区社会福祉協議会理事会	会議参加・課題の聞き取り等		6回	
嘉川地区民生委員児童委員協議会	会議参加		10回	
嘉川地区福祉員協議会	会議参加		4回	
佐山地区社会福祉協議会	地域課題の聞き取り訪問同行	1回		
佐山地区民生委員児童委員協議会	会議参加・課題の聞き取り等		11回	
佐山地区福祉員協議会	会議参加		4回	
阿知須地区民生委員児童委員協議会	会議参加・課題の聞き取り等		12回	
阿知須地区社会福祉協議会	個別情報交換会		5回	
自立支援型地域ケア会議	会議参加		15回	

■地域資源の把握に関する実績

実態把握を行った対象事業所・地域団体・企業等	内訳		
	訪問	参加	その他
地域住民等		28回	
いきいき百歳体操グループ		43回	
趣味サークル活動	2回		
商店等	4回		1回
地域の企業等	2回		
認知症カフェ	5回		
介護支援専門員			1回
地域の情報等			2回

■不足する生活支援サービス等の把握や創出に関する実績

実態把握等を行った対象事業所・地域団体・企業等	内訳		
	協議	訪問・参加	その他
自治会関係者	1回		
ふれあいきいきサロン		1回	
一般社団法人	2回	2回	
地域住民団体	4回		

■生活支援サービスの立ち上げ支援に関する実績

地域	支援した相手	訪問回数
阿知須	小古郷いきいきサロン	3回

■協議体設置及び運営に関する活動実績

協議体名	回数
阿知須地区個別情報交換会	5回

嘉川地区社協三役会	1回
-----------	----

広報活動(生活支援コーディネーターに関するPR)	17回
--------------------------	-----

《成果と課題》

令和4年4月に、山口市川西第2地域包括支援センター(担当地区:嘉川、佐山、阿知須)が、阿知須地区の元気ハウスに開設され2年が経過した。山口市川西第2地域包括支援センターの周知が広がりつつあるが、場所の分かりにくさがあり、分かりやすいチラシの作成等で、引き続き、積極的にPRを行い啓発活動に取り組んだ。

また、地域のイベントである阿知須のひなもんまつりに参加し介護予防に取り組んだり、山口市川西第2地域包括支援センターの近くにあるNPO法人ヘルスプロモーションが開設されている百十カフェと連携して、地域との交流を積極的に行った。

認知症関係については、昨年度に引き続き、9月のアルツハイマー月間に合わせて、阿知須図書館や地域交流センターなどで認知症に関する書籍やチラシ等を展示し、山口市川西第2地域包括支援センター周辺で、オレンジガーデンを造り、認知症のシンボルカラーで知識の普及啓発を行った。認知症サポーター養成講座は川西中学校で実施した。また、4月に佐山地区に認知症カフェが開設され支援を行い、未設置の嘉川地区には、引き続き開設に向けての働きかけを行った。

令和5年4月に、やまぐち「まちの福祉相談室」が併設で開設され、地区行事や会議に参加しPRを行い、啓発活動に取り組んだ。年齢や属性を問わず、気軽に相談してもらえる総合相談窓口としてまた、多種多様な相談対応ができるように、研修参加を積極的に行い、職員のスキルアップに努めた。今後も引き続き、様々な多機関との連携や相談支援体制をより一層強化していきたい。

(2) 障がい者福祉の推進

1) 社会福祉センターしらさぎ会館の運営

障がい者及び福祉団体の活動の拠点であるしらさぎ会館は、障がい者団体、関係機関等と連携しながら、障がい者が気軽に集うことができる開かれた施設を目指して運営を行っている。

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、感染対策(マスク着用及び手指消毒の実施、体温計測等)は個々の判断に委ねることとし、館内での飲食についても事前申請により可能とした。コロナ前の行事が再開するにつれ、利用件数・人数もコロナ前までとはいかないものの増加した。

また、感染対策として行っていたWi-Fiの貸出が、5類移行後も増加している。

会館施設の老朽化に伴い、今年度は山口市からの補助を受けてエレベーターリニューアル工事を行った。

障がい者が自立した社会生活の実現のため、地域活動支援センターⅡ型事業、手話通訳者設置事業、手話通訳者等派遣事業、要約筆記者派遣事業を実施するとともに、各事業担当者が連携して支援できるよう情報共有につとめた。

【しらさぎ会館利用状況】

種 別	件 数	人数(名)
会館事業	699	3,558
障がい者団体	48	578
福祉団体	631	6,255

種 別	件 数	人数(名)
その他	24	255
合 計	1,402	10,646

【しらすぎ会館事業及び活動状況】

事 業 名	開設日数・延べ人数	年間合計
地域活動支援センターⅡ型事業	開設日数	198日
	利用者延べ人数	2,411名
手話通訳者設置事業	延べ通訳・支援者数	889名
手話通訳者等派遣事業	延べ派遣者数	929名
要約筆記者派遣事業	派遣延べ人数	547名

【全館事業】

《地域生活支援事業》

① 地域活動支援センターⅡ型事業

事業内容は、創作的活動及び生産活動の機会の提供、社会との交流に関する基礎的事業と、地域において雇用・就労が困難な在宅障がい者に対する機能訓練・社会適応訓練・送迎支援等のサービスを実施する機能強化事業がある。

基礎的事業では、絵画、絵手紙、ものづくり、編み物、工作、書道、陶芸、縫い物の講座及び誕生日会・季節行事、音楽レク、屋外訓練、美化活動、特別講座を実施した。

機能強化事業では、健康体操、太極ストレッチ、百歳体操、ボウリング、ヨガ、卓球バレー、シャッフルボード、ひも体操、体力測定、脳トレ、オセロ・トランプ、手話、点字、パソコン、難聴者サロン、盲サロン、デフサロン、しらすぎサロン等の講座を実施した。

○利用者延べ人数 2,411名

【障がい別利用状況】

身体障がい	肢体不自由	3名
	視覚障がい	25名
	聴覚障がい	24名
	内部障がい	1名
知的障がい		1名
精神障がい		6名
重複障がい		6名

・新規契約 5名(肢体不自由 1名、視覚障がい 3名、精神障がい 1名)

・利用終了 7名(死亡 3名、転居 2名、本人希望 2名)

《成果と課題》

休止していた点字講座や飲食を伴う講座も再開となり、コロナ禍では利用を休止されていた方の参加が多くなり、実利用者数は昨年の58名から66名と増加している。

しかし、利用者の高齢化並びに、基礎疾患のある利用者が年々増えていること、利用頻度が多かった利用者の利用終了などにより、今年度の延べ利用者数は昨年度に比べると約100名減少した。

講座の内容では、運動系や外出の講座が人気となっている。

運動系講座では椅子に座ってできる運動を増やすことで、障害の種類に関わらず、誰でも参加できるよう工夫した。

また、「盲サロン」・「デフサロン」・「難聴者サロン」でも外出の機会を増やすとともに、視覚、聴覚障がい以外の利用者を対象とした「しらさぎサロン」を新たに実施した。

「しらさぎ美化活動」では、昨年度に続いて会館ロビーの装飾や草とりの他、近隣のゴミ拾いなどの地域に関わるボランティア活動を行う講座も取り入れ、参加者が充実感を持つことができるように工夫した。

実利用者数の増加により、送迎対象者も前年度の32名から、今年度44名に増加しているが、利用者一人ひとりの利用頻度は少なく、限られた講座のみ参加する利用者が多い。

今後も利用者の声に耳を傾け一人ひとりの障がいにあわせた支援を行い、利用者が安心して安全に集える講座・居場所作りを目指したい。

② 手話通訳者設置事業

手話通訳士、手話通訳者の資格を持つ設置手話通訳者により、ろう者が日常生活において他者と意思疎通する際の手話通訳の支援を行っている。

聞こえないことから生じる情報不足等による生活上の困難を抱えるろう者への相談支援を行う中で、抱える生活課題の内容に応じて、親族並びに専門機関と連携を取りながら、継続的な通訳と相談支援を行っている。

【 設置手話通訳者対応内訳 】

	【分類】	【担当地域別実績】		【総件数】
		(北部) しらさぎ会館	(南部) 南部支所	全域合計
設置手話通訳者 常勤 4名 (手話通訳士 3名) (手話通訳者 1名)	行政	15件	18件	33件
	福祉	88件	36件	124件
	医療	123件	72件	195件
	労働	8件	5件	13件
	文化	8件	0件	8件
	教育	9件	0件	9件
	警察	1件	2件	3件
	生活	69件	15件	84件
	その他	0件	0件	0件
	団体	2件	0件	2件
	遠隔手話通訳	0件	0件	0件
	通訳対応合計	323件	148件	471件
	支援(窓口)	117件	83件	200件
	支援(訪問)	13件	17件	30件
	支援(調整)	7件	4件	11件
	支援(電話)	96件	60件	156件
	支援(遠隔)	21件	0件	21件
	支援対応合計	254件	163件	418件
	総合計	577件	312件	889件

《成果と課題》

意思疎通支援事業での通訳者派遣申請に対して、設置手話通訳者の通訳件数は471件、相談等の支援件数は、418件、合計889件であった。昨年度の903件と比べると14件の減少となった。

通訳対応においては、病院受診等の「医療」が195件、介護保険サービスの利用や日常生活自立支援事業などの「福祉」が124件と多く、専門機関と連携しての専門的な内容を含む通訳を行った。入院、手術、施設入所、財産管理などに関する事例が増加しており、設置手話通訳者が継続して通訳対応を行う必要がある。

山口市消防本部との連携業務として、救急要請時の通訳対応を行っているが、本年度は該当事案が無かった。救急搬送時の通訳については、消防本部や関係機関との間で業務の位置づけや連携手順の再確認が必要である。

支援対応においては、窓口での日常生活に関するさまざまな相談や、申請相談が200件と最も多い。文章理解が苦手なろう者に対して、持参した書類の内容を手話で説明することも多々ある。次に、対面で相談した後の電話通訳の依頼が多く、156件であった。相談支援に関しては、相談内容は複雑・専門化してきており、ろう者それぞれの生活歴をふまえた対人支援が重要である。

その他、登録手話通訳者の現場対応に同行し、円滑な通訳派遣のための調整を行った。

「遠隔手話通訳」の実績となる申請はなかった。しかし、ビデオ通話による手話での問い合わせや申請内容の確認などの「テレビ電話サービス」は21件であった。また、南部支所の設置手話通訳者が不在の場合に備え、南部支所窓口にタブレット端末を設置することにより、しらさぎ会館で勤務している設置手話通訳者と、手話による相談対応が可能になった。

登録手話通訳者(山口市意思疎通支援者)増員を目的として、山口市手話奉仕員養成委員会と連携することができた。昨年度開催した手話奉仕員対象「ステップアップ講座」を、本年度は山口市手話奉仕員養成委員会が開催した。ステップアップ講座修了者の受け皿として、市内のろう者の協力も得て『登録試験対策講座』を開催した。ステップアップ講座修了者を含め9名が受講。全員が登録試験を受験し、3名が合格した。

また、登録手話通訳者となった手話奉仕員11名を対象に『フォローアップ講座』を今年度新たに開催した。この講座では、手話通訳者資格取得を目標とし、山口県手話通訳者登録(全国統一)試験に3名が合格した。合格した3名は、手話奉仕員では担えなかった分野への通訳派遣が次年度より可能となる。

山口市手話奉仕員養成委員会との連携や、「登録試験対策講座」、「フォローアップ講座」を開催が、手話通訳者登録試験合格者3名という成果につながった。引き続き、人材育成に努める。

高齢の一人暮らしの生活で様々な場面に困難を抱えるろう者、また、聴覚だけでなく精神の障がいを抱えるろう者には、相談支援や訪問支援を通じて、ろう者自身の自己決定をサポートするとともに、関係機関と連携し、適切な支援を行っていく。また、地域で生活するうえで、「聞こえない」がゆえに生じる不安や心配事を軽減できるよう、手話通訳者として、また、支援者として、関係機関等を含めた、ろう者が地域で暮らしていくためのネットワーク構築も図っていく。

③ 手話通訳者等派遣事業

ろう者の日常生活における他者との意思疎通の支援として、登録手話通訳者(33名)を派遣している派遣事業において、通訳申請に対する登録手話通訳者の派遣調整及び関連事務を行っている。

【登録手話通訳者派遣内訳】

	【分類】	【地域担当別実績】		【総件数】 全域合計
		(北部) しらさぎ会館	(南部) 南部支所	
登録手話通訳者33名 (手話通訳士 1名) (手話通訳者 21名) (手話奉仕員 11名)	行政	21件	2件	23件
	福祉	149件	6件	155件
	医療	54件	276件	330件
	労働	2件	4件	6件
	文化	263件	0件	263件
	教育	11件	3件	14件
	警察	2件	5件	7件
	生活	19件	25件	44件
	その他	2件	0件	2件
	団体	13件	0件	13件
	派遣合計	536件	321件	857件

※主催者負担 298件(設置手話通訳者対応案件含む)

《成果と課題》

本年度の派遣件数は857件。昨年度の1,183件から326件減少した。

〈減少の要因〉

「福祉」 高齢ろう者の施設入所に伴い、訪問介護利用時の通訳申請がなくなったこと等により97件減少した。

「医療」 入所や入院に伴い、受診時の通訳申請の減少、受診終了などにより、100件減少した。

「主催者負担」 新型コロナウイルス感染症ワクチン集団接種の終了による影響が大きい。

「山口市みんなの手話言語条例」に関する申請は継続しているが、昨年度と比較して行政からの申請が45件減少した。

しかし、山口情報芸術センターの舞台や映画トークイベントでの通訳申請があった。

合理的配慮の理解が進み、社会参加の場に通訳が配置される機会が増え、ろう者も安心して参加し、楽しむことができた。

「教育」「生活」「その他」 継続して申請された案件(自動車学校等)の終了により、75件減少した。

本年度の派遣内容は、病院受診などの「医療」が330件、介護保険サービスでの定期的な訪問介護や訪問看護などの「福祉」が155件と多かった。医療に次いで件数が多かった「文化」263件は、主催者負担である、しらすぎ会館地域活動支援センター講座が多い。

なお、地域活動支援センター講座については、手話通訳者だけでなく、手話奉仕員の派遣も行った。

ろう者が構成員となっている「団体」申請は、13件であった。

山口県聴覚障害者福祉協会へ広域派遣を2件、他市との複数派遣を1件依頼した。

〈登録者のスキルアップ〉

登録手話通訳者に対する研修会を3回実施し、資質向上を図った。

1回目)派遣事業(意思疎通支援事業)の説明/『派遣依頼から通訳まで』の再確認。

実技研修/ロールプレイ『運動教室 百歳体操』 現場対応や通訳方法の共有を行った。

2回目)実技研修/ろう者と合同学習を行い、『医療用語』の理解と、伝える手話表現を考えた。

グループワーク/登録手話通訳者で通訳派遣における疑問・悩みについて、検証した。

3回目)県外(大阪府堺市)よりろう講師を招き、講義並びに実技の研修を行った。

講義研修/『意思疎通支援事業の全国的現状と課題・ろう者の求める通訳者像』

実技研修/『聞き取り通訳・読み取り通訳』

実技研修においては、県外ろう者講師の手話を、各自が読み取って進めた。実技と検証を繰り返して行い、講師からの助言を受けた。読み取りの難しさもあったが、貴重な実践となった。

〈新規人材の確保〉

山口市意思疎通支援者(手話通訳)登録試験では、3名の手話奉仕員が合格した。

令和6年度から登録手話通訳者として活動する。大きな課題である登録手話通訳者全体の高齢化は変わらない。引き続き、次世代の登録手話通訳者を確保するための人材育成を行っていく。

今後も、適正で円滑なコーディネートを行うとともに、登録手話通訳者並びにろう者と連携し、より良い意思疎通支援ができるように努める。

④ 要約筆記者派遣事業

年度末の登録通訳者は21名。登録者の多くは仕事を持っている。しかし、登録者自身やその職場の理解・協力を得て、平日の派遣にも対応できた。

年間派遣件数は347件、延べ派遣人数は549人。上半期は前年度を上回る依頼があったが、下半期はしらすぎ会館エレベーター改修に伴う地域活動支援センターの休講や、利用者の入院等があり、前年並みとなった。

登録者研修は、3回実施。1回目は要約筆記事業の全国の状況をオンラインで、2回目は山口市での要約筆記の変遷を、対面で学んだ。3回目は、補聴器をテーマに、認定補聴器技能者から話を聞いた。現在の補聴器事情やメンテナンスの難しさ、助成制度等を知ることができた。

【派遣内訳】

【派遣内訳】	【件数】
行政	4件
医療	82件
労働	7件
文化	248件
教育	0件
その他	6件
合計	347件

《成果と課題》

主催者負担は、昨年度の28件から31件。件数に大きな変化はないが、当事者の申し出により申請に至ったものがあり、主催者の難聴者理解に繋がった。

要約筆記者派遣事業の認知度向上並びに利用者獲得を目的にこれまで、年1～2回開催としていた「聞こえのサロン」を、10回(6月～3月/月1回)開催した。

〈聞こえのサロン 開催状況〉

	テーマ	講師	参加者数
第1回	「聞こえなくて困ること」	山口県中途失聴者・難聴者協会 重村 智子氏(難聴者)	8名
第2回	「目で聞こう」「目で話そう」 コミュニケーションボード作成	山口市要約筆記サークルやまびこ	16名
第3回 *	「難聴・補聴器知ってるつもり!？」	言語聴覚士 緒方 啓一 氏(難聴者)	22名
第4回	「聞こえづらい方との コミュニケーション」	全国要約筆記問題研究会山口県支部 支部長 二岡敬子氏	6名
第5回 *	要約筆記 使ってみたら	元宮野地区社協会長 柴田朗氏 川西地域包括支援センター 八木計磨氏 難聴者(要約筆記者派遣事業利用者)	9名
第6回 *	「聞こえにくい」に役立つ 制度・機器	山口市障がい福祉課 職員 ※山口市お気軽講座	13名
第7回	要約筆記を使ってみませんか	主任介護支援専門員 山本 誠氏 難聴者(要約筆記者派遣事業利用者)家族	3名
第8回 *	「補聴器 知ってるつもり」	言語聴覚士 緒方 啓一 氏(難聴者) ※オンラインで実施	13名
第9回	「働く」と「聞こえづらさ」	山口県中途失聴者・難聴者協会 重村 智子氏(難聴者)	10名
第10回*	「補聴器と なが～くつきあうために」	認定補聴器技能者 石田 肇 氏	12名

*・・・地域活動支援センタープログラムの公開講座として実施した。

補聴器をテーマにした回では、補聴器への関心の高さと相談先に悩む実情が明らかになった。

聞こえのサロン参加者から、新規に要約筆記利用に至った方が、1名。要約筆記利用までの当事者の心理面を考えると、聞こえのサロンで複数回顔を合わせ、信頼を得られたことが、申請に至ったと考えられる。支援

センターやサロンの利用が、障害受容並びに社会参加の一助になるよう継続して支援していきたい。

団体依頼は、4件。昨年度の9件は、手話言語条例に関連したもので、難聴者・中途失聴者の組織の弱さが数字となった。ピアサポートの場として機能していないのは残念に感じる。

遠隔要約筆記は12件の実績があった。遠隔での支援は利便性とともに、利用者の精神的負担を軽減することもできる。利用者に対しての情報発信とともに、依頼に対応できるよう登録者のスキルも高めていきたい。

2) 障害者福祉作業所の運営

① かがやき

1) 運営

昨年度末で利用者1名が退所し、登録者数は8名となった。退所理由は家庭の事情等により、他の就労支援事業所に移行されたためである。就労継続支援B型の事業所として、利用者の意向、適性、障がいの特性を踏まえて作成した個別支援計画に基づきサービス提供に努めた。今後とも適正かつ健全な運営に努め、日々の作業活動において一人ひとりの特性能力を活かし、自分らしく働けるよう支援する。

2) 作業内容

作業科目	受注先	内容
瓦留めクリップ等の組立て	オノダネイル	瓦留め耐風クリップ、ラク枠、デッキロック等の組立て、箱詰め(毎日)
紙製品の封入	石見紙工業	ルーズリーフ、クリアブック等の封入、封緘、梱包(毎日)
印刷物の封入	介護労働安定センター	チラシ、案内状等の封入、封緘、タックシール貼り、仕分け(年12回程度)
シール貼り	田辺海苔店	海苔袋のシール貼り(年10回程度)
しらさぎ会館の清掃	山口市社協	しらさぎ会館の清掃(毎日)
ポスティング	地域情報新聞	地域情報誌「ほっぷ」のポスティング(週1回)
アーユスの清掃	老人保健施設アーユス	老人保健施設アーユスの清掃(毎週火・水曜日)
柴田病院の清掃	柴田病院	柴田病院管理棟の清掃(毎週火・水曜日)
史跡大内氏遺跡見学者用駐車場トイレの清掃	山口市文化財保護課	史跡大内氏遺跡見学者用駐車場トイレの清掃(毎週月・金曜日)
福祉医療費受給者証等の封入・封緘	山口市保険年金課	福祉医療費受給者証等の封入・封緘(年1回程度)

3) 行事等

開催日	内容
4月20日(木)	春のお出掛け企画(いちご狩りとサンリオ展)
5月12日(金)	かがやき・希望の館合同会議(第1回)
6月9日(金)	AED講習会(児童館・福祉センター合同)
6月28日(水)	保健講座(熱中症予防のために)
6月28日(水)	かがやき・希望の館合同会議(第2回)
7月20日(木)	夏のお出掛け(ジブリ展)
11月2日(木)	避難訓練(地震)
11月16日(木)	秋のお出掛け企画(三田尻塩田記念公園とみかん狩り)
12月19日(火)	かがやき・希望の館合同会議(第3回)

開催日	内 容
12月22日(金)	クリスマス会(忘年会)
令和6年2月7日(水)～16日(金)	感染症対策についての研修(厚生労働省動画視聴)
令和6年3月8日(金)	避難訓練(火災)(児童館・福祉センター合同)

4) 研修等

主 催	内 容	会 場	開催日
学校法人 YIC 学院	サービス管理責任者等更新研修	YIC スタジオ	11月8日(水)
山口県障害福祉サービス協議会	第4回研修会「どうなる!?これからの障害福祉サービス」	かめ福オンライン	11月21日(火)・22日(水)
山口県障害者権利擁護センター	山口県障害者虐待防止・権利擁護研修会	オンデマンド講義	12月11日(月)

5) 利用状況

年間開所日数	240日(月平均20日)
延べ通所者数	1,678名(月平均140名)
1日平均利用者数	6.9名
年間工賃支払総額	3,221,366円
平均工賃(月額)	33,556円(時給376円)

《成果と課題》

本年度は昨年度よりも50万円近くの増収となった。主軸であるオノダネイルと石見紙工業の作業が低迷する中、清掃作業の請負先やポストイングの担当地区が増え、安定した収入が得られるようになったことが要因のひとつである。また、利用者が1名退所した分、年間平均工賃が8,000円程度上がった。

採算ベースである利用者9名の確保が緊急の課題ではあるが、建物の狭さや老朽化、送迎の有無、地域の作業所としての需要などを含め、事業自体の今後の方向性を決定していくことが必要である。

②希望の館

1) 運営

利用者は昨年と変わらず6名であった。就労継続支援B型の事業所として、利用者の意向、適正、障がい特性を踏まえて作成した個別支援計画に基づいたサービス提供に努め、利用者一人ひとりの人格を尊重しながら、利用者の立場に立って支援を行う。

2) 作業内容

作業科目	受注先	内 容
山口市阿知須体育センター清掃	山口市	清掃作業(週3回)
山口市川西第2地域包括支援センタートイレ清掃	山口市	トイレの清掃作業(週1回)
山口市阿知須健康福祉センター「おげんきかん」清掃	山口市社協	清掃作業(週2回)
山口市阿知須健康福祉センター「おげんきかん」周辺の除草	山口市社協	除草作業(6月、10月)
山口市川西第2地域包括支援センタートイレ清掃	山口市社協	トイレの清掃作業(週2回)

作業科目	受注先	内 容
山口市川西第2地域包括支援センター 駐車場の除草	山口市社協	除草作業(7月)
自動車部品等の成形	モルテン大津	ゴム製部品のバリ取り作業
ゴム製品の検品・梱包	王子ゴム化成	資材の検品作業・製品の梱包

3) 行事等

開催日	内 容
4月3日(月)	花見(阿知須築地公園、道の駅きらあじす)
5月12日(金)	かがやき・希望の館合同会議(第1回)
6月15日(木)	避難訓練(火災) 阿知須出張所と合同
6月28日(水)	かがやき・希望の館合同会議(第2回)
9月21日(木)	避難訓練(風水害)
12月19日(火)	かがやき・希望の館合同会議(第3回)
12月21日(木)	大掃除・忘年会
令和6年2月20日(火)	避難訓練(地震)
令和6年3月21日(木)	保護者会

4) 研修等

主 催	内 容	会 場	開催日
山口県障害福祉サービス協議会	自閉症児・者の学習特性を活かした効果的なスキル指導法	山口県社会福祉会館	9月12日(火)
山口県障害者権利擁護センター	山口県障害者虐待防止・権利擁護研修会	オンデマンド講義	令和6年1月31日(水)

5) 利用状況

年間開所日数	240日(月平均20日)
年間利用者延べ人数	1,306名(月平均109名)
1日平均利用者数	5.5名
年間工賃支払総額	1,778,208円
平均月額工賃(一人)	24,697円(時給293円)

《成果と課題》

本年度は昨年度よりも減収となった。その要因として、山口市阿知須地域交流センター、阿知須駅駐輪場、小郡幡部邸の除草作業がなくなったこと、王子ゴム化成からの受注が令和5年度は一度しかなかったこと等があげられる。

新たな利用者の確保のために、令和4年11月から週3日(月・火・木曜日)、1ルートの試験的な送迎を行っていたが、令和5年度も継続した。利用者の家族から帰りの送迎日を増やしてほしいとの希望があり、4月からは週4日(月・火・木・金曜日)、12月からは週5日(月～金曜日)行うこととなった。令和6年度からは朝も週5日の送迎が行えるように、送迎のできる職員の募集を行ったが、応募者がなかったため、令和6年度も従来通りの送迎を継続することとなった。

新たな利用者の確保と同時に職員の確保、継続的かつ安定的な収入が得られるような受注の確保、そして作業の効率化を図っていくことが今後の課題である。

③地域活動支援センターⅢ型「山口市アカシア工房」 * 受託事業

- 1) 事業内容: 身体・精神・知的障がいをお持ちの方を対象に、主に就労の場や手芸品等の作製、レクリエーションを通じて社会参加を促す。
- 2) 開設日: 延べ 240日
- 3) 利用者: 延べ 1, 632名
- 4) 実利用者: 11名【登録者: 11名】(令和6年3月31日現在)
- 5) 作業内容: 基礎的事業は、手芸品等の作製による創作的活動及び石見紙工業からの作業の受注による生産活動と山口市からの阿東保健センター清掃作業である。
施設外就労として、三谷ふれあいセンターの清掃作業、敬老会の会場準備、りんご園のもぎ取り作業、枝木拾い作業、お菓子の袋詰め作業、お米の袋詰め作業クリスマスナイトフェスティバル会場準備などを行った。

6) 作業以外の行事

月	日	曜日	行事内容
5	10	水	アカシア工房家族会総会
6	7	水	第1回オープンデー開催
	21	水	ひまわり花咲くプロジェクト
7	12	水	三谷ふれあいセンターにてカラオケ
8	3	木	中学生講師によるマリオカートゲームに挑戦
	18	金	ワイワイ交流会ママバンドコンサート鑑賞
	30	水	第2回オープンデー開催
10	2	月	敬老会用卓上花瓶作り
11	15	水	講師によるデコパージュ製作
	20	月	りんご狩り
12	13	水	第3回オープンデー開催(クリスマスリース作り)
	20	水	童謡唱歌コンサートおよびクリスマス会(デイケア主催)
令和6年3	1	金	徳佐婦人会とのポッチャ交流会
	15	金	避難訓練(火災想定)保健センター合同

《成果と課題》

運営面では、職員にコロナウイルス感染者が発生したため、やむを得ず開所できない日が3日間あった。事業継続計画(BCP)の整備を早急に行う必要があった。

活動内容は、昨年度に引き続き地域に外出することや、新しいことに積極的に取り組んだ。手芸品の製作には、ご家族にも呼びかけ一緒に製作した。敬老会の会場作りやイベントの会場作り補助など地域の方と一緒に活動することができた。

今年度は、地域内の周知を図るため、オープンデーを3回開催した。1回目は民生委員に呼びかけ地域のパイプ役にアカシアの活動を知ってもらうこと、2回目は地域の近隣開催のサロン参加者に呼びかけた。3回目は講師にてレクリエーションでクリスマスリース作りを地域の方と一緒に行った。今後も体験の場を設けて、主体性を支援すること。また、地域の方々とのコミュニケーションを図ることで、地域生活上の自立につながるよう支援をしていく。

3)障がい者の居宅介護事業の実施

	サービス内容					
	延べ利用者数	身体介護	家事援助	通院介助	同行援護	重度訪問介護
阿東	64人	138.5時間	665.5時間	11時間	150時間	0時間
南部	91人	0時間	596.5時間	23.5時間	91時間	0時間
合計	155人	138.5時間	1,262時間	34.5時間	241時間	0時間

《成果と課題》

昨年度と比較し、全体的に延べ利用者数・訪問時間とともに、減少であった。

南部訪問介護では登録訪問介護員の定年による退職や高齢化により、重度訪問介護や身体介護の支援が出来なくなっている。同行援護の支援については有資格保持者が限られており、依頼に対応ができていないのが現状である。通院介助の時間は増となったが、介護保険利用との併用型で、利用者は1名である。

あとう訪問介護では、令和5年度中に利用者が1件増加したが、継続的な利用には繋がらなかった。また、県からの実地指導を受け、1件の口頭指導があり、改善を図った。今後も利用者から選ばれる事業所として努力する。

重点事業Ⅱ

「第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画」の推進(令和5年度～令和9年度)

◇基盤強化計画推進室の設置による計画の推進及び進行管理

1 推進会議体による計画の推進

本会は「地域共生社会(ともに生きる豊かな地域社会)」の実現に向けて、令和4年度に社協事業の戦略やビジョン、組織、経営基盤の強化を目的とした令和5年度～令和9年度の中長期計画である「第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画(以下「第3次計画」という。)を策定した。「第3次計画」は、「組織強化と効率的な組織運営」、「人材の確保・運営」、「安定的な財政運営」の3部門を柱とし、10の基本目標、22の実施目標、35の取組目標を定め、具体的対策を計画化した。

「第3次計画」の進行管理は、新設の「基盤強化計画推進室」が担い、その推進母体に下記12の推進会議体を位置づけ、それぞれに割り当てられた取組目標の対応策について協議した。

(1) 事務局長・課長会議

本会議は、常務理事・事務局長・事務局次長・課長・推進室長で構成し、毎月1～2回定期的に開催した。月2回開催する場合は、前半の会議を基盤強化計画主体の会議に位置づけた。各推進会議体から上がってきた取組目標の決定事項や事務局長・課長会議として諮るべき取組目標の対応策について協議し、事務局としての最終決定を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回	4月18日(火)	1. 基盤強化計画体系図の説明 2. 会議体ごとの年間開催計画作成の提案 3. 基盤強化計画関連会議への出席職員及び推進室職員の役割 4. 事務事業評価シートの提案
第2回	4月28日(金)	1. 会議体ごとの会議録及び年間計画書の提出の概要説明 2. 評価シートの作成及び提出の概要説明 3. 改正労働基準法【60時間を超える時間外勤務の割増賃金率の引上げ】に伴う給与規程(案)及び就業規程(案)の協議
第3回	5月24日(水)	1. 事務事業評価シートの追加
第4回	6月13日(火)	1. 各会議体の年間開催計画の確認 2. 事務事業評価の進め方 3. 事務事業評価シートに基づくヒアリング日程の確認
第5回	6月23日(火)	1. 各会議体の年間開催計画の確認 2. 事務事業評価の進め方 3. 事務事業評価シートに基づくヒアリング日程の確認
第6回	7月20日(木)	1. 各会議体の年間開催計画の作成状況 2. 事務事業評価の進め方 3. 事務事業評価シートに基づくヒアリング日程の確認 4. ヒアリングの実施報告
第7回	8月25日(金)	1. 各会議体の年間開催計画の作成状況 2. ヒアリング結果に基づく事務事業の方向性[総務課18事務事業] 3. 第1回 南部介護保険事業コア会議[報告]

回	開催期日	取組内容
第8回	9月12日(火)	1. ヒアリング結果に基づく事務事業の方向性[地域福祉課47事務事業①]
第9回	9月22日(金)	1. ヒアリング結果に基づく事務事業の方向性[地域福祉課47事務事業②]
第10回	9月28日(木)	1. ヒアリング結果に基づく事務事業の方向性[生活相談課12事務事業①]
第11回	10月3日(火)	1. ヒアリング結果に基づく事務事業の方向性[総務課18事務事業・地域福祉課47事務事業③・介護・障がいサービス課22事務事業①]
第12回	10月12日(木)	1. ヒアリング結果に基づく事務事業の方向性[介護・障がいサービス課22事務事業②]
第13回	10月30日(月)	1. アカシア工場の電子決裁のモデル導入の検討① 2. 南部訪問介護事業・南部居宅介護支援事業終了・事業所廃止に向けて① 3. 第3回理事会に上程する規程の制定(案)及び一部改正(案)の協議 申請書等の押印の特例に関する規程(案)、情報公開規程(案)、「高齢者虐待防止の推進」の義務化による介護保険関連運営規程(案)、 4. 法人事業継続計画(BCP)[自然災害対応編]・[感染症対応編]の再点検①
第14回	11月14日(火)	1. アカシア工場の電子決裁のモデル導入の検討② 2. 南部訪問介護事業・南部居宅介護支援事業終了・事業所廃止に向けて② 3. 第3回理事会に上程する規程の制定(案)及び一部改正(案)の協議② 申請書等の押印の特例に関する規程(案)、情報公開規程(案)、「高齢者虐待防止の推進」の義務化による介護保険関連運営規程(案)、 4. 法人事業継続計画(BCP)[自然災害対応編]・[感染症対応編]の再点検② 5. 職員研修会の課題解決プログラム(報告)
第15回	11月27日(月)	1. 評価シートに基づく事務事業の方向性の概要版[理事会提出用]の確認 2. 主力事業の決定 3. 電子決裁導入の検討 4. 南部訪問介護事業・南部居宅介護支援事業終了・事業所廃止に向けて③ 5. 第3回理事会に上程する規程の制定(案)及び一部改正(案)の協議③ 6. 法人事業継続計画(BCP)[自然災害対応編]・[感染症対応編]の再点検③
第16回	12月12日(火)	1. 南部訪問介護事業・南部居宅介護支援事業終了・事業所廃止に向けて④ 2. 高額介護サービスつなぎ資金貸付事業の受託終了決定(令和5年度末)
第17回	12月27日(水)	1. 評価シートに基づく事務事業の方向性の概要版[法人内配付用]の確認 2. 法人事業継続計画(BCP)[自然災害対応編]・[感染症対応編]の更新版の確認 3. 南部訪問介護事業・南部居宅介護支援事業終了・事業所廃止に向けて⑤ 4. 基盤強化計画推進会議体の取組み内容[中間報告]
第18回	令和6年 1月22日(月)	1. 南部訪問介護事業・南部居宅介護支援事業終了・事業所廃止に向けて⑥ 2. 第4回理事会・第2回評議員会に提出する規程の制定(案)及び一部改正(案)の協議 3. 広報紙「こちら社協です」読者アンケートの実施[広報委員会取組事業]
第19回	2月13日(火)	1. 南部訪問介護事業・南部居宅介護支援事業終了・事業所廃止に向けて⑦ 2. あとう訪問看護及びあとう訪問介護に従事する臨時職員の賃金等の改正の協議 3. 第4回理事会・第2回評議員会に提出する規程の制定(案)及び一部改正(案)の確認 4. 山口市共同募金委員会会則及び山口市共同募金委員会審査委員会設置運営要綱の一部改正(案)の協議 5. 福祉サービス事業所BCP計画の作成完了(報告)
第20回	2月27日(火)	1. 南部訪問介護事業・南部居宅介護支援事業終了・事業所廃止に向けて⑧ 2. 生活安定対策資金貸付事業に対する山口市社協の意向確認(報告)及び事業の受付終了(令和5年度末)決定

回	開催期日	取組内容
		3. 事務事業評価で決定した11終了事業の決定(理事会・評議員会へ報告) 4. 法令等遵守規程(案)・法令等遵守方針(案)の協議①
第21回	3月25日(月)	1. 南部訪問介護事業及び南部居宅介護支援事業終了・事業所廃止の決定 2. 法令等遵守規程(案)・法令等遵守方針(案)の協議② 3. OJT推進マニュアルの作成(案)の協議 4. 令和6年度 基盤強化計画推進会議体と担当職員(案)の確認 5. 基盤強化計画 推進会議体の令和5年度取組内容の報告
令和5年度の主な取組実績		令和6年度の主な取組計画
①事務事業の評価の決定 ②主力事業の決定 ③法人全体事業継続計画(BCP)の再点検と更新 ④事務事業の評価に基づき11事務事業の終了を決定(理事会・評議員会へ報告) ⑤法令等遵守規程及び方針の作成[規程は令和6年6月理事会へ上程]		①事務事業の評価に基づく進行管理 ②人材育成方針の作成 ③同一労働同一賃金への対応 ④法令等遵守規程及び方針の職員への周知

(2)基盤強化計画会議〔進捗状況説明会議〕

本会議は、各所属長に計画の進捗状況を説明する会議に位置づけ、年2回開催した。

回	開催期日	取組内容
第1回	6月2日(金)	1. 基盤強化計画体系図の説明 2. 事務事業評価の進め方及び評価シートに基づくヒアリング日程の説明
第2回	令和6年 1月4日(木)	1. 令和5年度評価シートに基づく事務事業の方向性の概要版の説明 2. 法人の事業継続計画(BCP)の更新箇所の説明
令和5年度の取組実績		令和6年度の取組計画
①計画の進捗状況報告(令和5年度6月・1月月例会) ②事務事業の評価の伝達(各部署に出向いて説明)		①計画の進捗状況報告(令和6年度4月・1月月例会) ②事務事業課題の取組み状況の報告

(3)総務課会議

本会議は、課長以下課内の正規職員及び推進室長で構成し、総務課会議で諮る取組目標の対応策について月1回の頻度で協議した。

回	開催期日	取組内容
第1回	5月24日(水)	1. 年間計画の作成 2. 事務事業評価シート作成の説明と担当決め 3. 表彰規程(基準)の見直し(上位表彰との整合性)
第2回	6月23日(金)	1. 年間計画のスケジュールの確認 2. 事務事業評価シート作成の進捗状況の確認
第3回	7月24日(月)	1. 事務事業評価シートのヒアリング 2. 電子決裁の必要性の検討①(県社協・岩国市社協へのアンケートの実施)
第4回	9月19日(火)	1. ヒアリング結果に基づく事務事業の方向性の協議① 2. 電子決裁の必要性の検討②(2業者からのプレゼンの報告)
第5回	11月9日(木)	1. ヒアリング結果に基づく事務事業の方向性の協議② 2. 電子決裁の必要性の検討③

回	開催期日	取組内容
視察 研修	11月21日(火)	岩国市社協視察研修 1. 電子決裁の必要性の検討④
第6回	11月24日(金)	1. ヒアリング結果に基づく事務事業の方向性の協議③ 2. 電子決裁の必要性の検討⑤(岩国市社協視察研修の報告) 3. 経理体制の見直し①(令和6年度総務課チーム編成案の検討)
第7回	12月25日(月)	1. 電子決裁の必要性の検討⑥(令和6年度導入は見送り) 2. 経理体制の見直し②(令和6年度総務課チーム編成案の検討) 3. 新たな財源の確保(他縣市町社協の取組み事業の紹介) 4. 職員プロフィールブックの提案
第8回	令和6年 1月22日(月)	1. 経理体制の見直し③(令和6年度総務課チーム編成案の検討) 2. 共同募金会3委員会の会則(案)及び要綱(案)の協議 3. 共同募金配分金事業の見直しと提案
第9回	2月22日(木)	1. 法令等遵守規程(案)・法令等遵守方針(案)の協議① 2. 給与明細の電子化の本格導入の決定
第10回	3月11日(月)	1. 電子決裁の自社開発のイメージ(ワークフロー説明会の報告) 2. 法令等遵守規程(案)・法令等遵守方針(案)の協議② 3. 経理体制の見直し④(令和6年度総務課チーム編成案の検討) 4. 職員プロフィールブックの作成(案)の協議
第11回	3月25日(月)	1. 電子決裁の自社開発の検討 2. 法令等遵守規程(案)・法令等遵守方針(案)の協議③ 3. 経理体制の見直し⑤(令和6年度総務課チーム編成案の検討) 4. 職員プロフィールブックの作成(案)の決定
令和5年度の取組実績		令和6年度の取組計画
①表彰規程(基準)の見直し(上位表彰との整合性)と一部改正 ②電子決裁の導入の研究(導入は次年度以降) ③給与明細の電子化の本格導入の決定 ④「自家用車の公用使用に関する要綱」の一部改正と「自家用車公用許可申請簿兼使用報告簿」の作成 ⑤総務課(経理・労務・事業)専任チームの研究 ⑥共同募金会3委員会の会則・要綱の見直しと一部改正 ⑦職員プロフィールブックの実施決定 ⑧夢工房継承団体への事務所貸与の条件提示		①経理体制の見直し ②総務課(経理・労務・事業)専任チームの研究 ③本会独自の電子決裁システムの構築 ④三井倉庫の貸与解消 ⑤堀コミュニティサロンの備品の撤去・整理

(4) 予算編成会議

本会議は、4課長及び4課の予算管理責任者並びに推進室長で構成し、予算編成会議で諮る取組目標の対応策について年5回に亘り協議した。

回	開催日	協議内容
第1回	6月28日(水)	1. 基盤強化計画(年間計画)の確認 2. 令和6年度サマーレビュー作成上の注意点 3. 物品購入伺いのルール of 徹底

回	開催日	協議内容
第2回	7月27日(木)	1. 共同募金委員会(運営・推進・審査)組織の再検討 2. 自家用車の公用使用に関する要綱の改正 3. 物品購入の起案のルール化 4. 謝金交通費の支払いのルール化
第3回	9月26日(火)	1. 遺贈による寄付報告 2. 共同募金予算の圧縮、積立金の再構築(寄附活用検討委員会へ打診) 3. 委託・補助・指定管理事業の予算要望(サマーレビューとの変更箇所)の確認 4. 自主財源事業の新年度予算の作成 5. 車両配置の確認
第4回	11月22日(木)	1. 共同募金配分事業及び歳末たすけあい配分事業の見直し 2. 基金積立金の効果的な事業配分への仕組みづくり 3. 主力事業の決定(第3回理事会へ報告) 4. 委託・指定管理・補助事業の精査及び契約年度を把握しての見直し 5. 予算編成(スケジュール及び経費按分)の確認及び圧縮の提示 6. インターネットバンキングの振込手数料の予算化
第5回	令和6年 1月11日(木)	1. 共同募金配分事業及び歳末たすけあい配分事業の見直し 2. 基金積立金の効果的な事業配分への仕組みづくり 3. 主力事業の決定(第3回理事会へ報告) 4. 委託・指定管理・補助事業の精査及び契約年度を把握しての見直し 5. 会費・寄付金充当事業の洗い出し(事業精査の提案) 6. 自主財源事業の予算編成
第6回	3月7日(木)	1. 会費・寄付金充当事業の洗い出し(事業精査の提案) 2. 令和6年度予算(案)の確認 3. 令和5年度決算作成に向けて
令和5年度の取組実績		令和6年度の取組計画
①共同募金会3委員会(審査・運営・推進)の役割及び運用方法の明確化 ②共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直し ③委託事業、指定管理事業、補助事業、自主事業の精査(事務事業評価に基づいて) ④主力事業の選定		①遺贈の活用方法について協議(寄付活用検討委員会で協議) ②持続可能な会費及び寄付金の確保と効率的運用 ③共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直し ④新たな財源の確保の研究 ⑤車両管理計画の策定及び実施 ⑥OA機器等の配置計画の策定及び実施

(5) 研修委員会

本会議は、各課から選任された研修委員及び推進室長で構成し、研修委員会で諮る取組目標について年5回に亘り協議した。

回	開催期日	取組内容
第1回	5月31日(水)	1. 年間計画の作成
第2回	7月31日(月)	1. リモート会議などネット環境に対応した環境の整備① 2. 資格取得のための支援する資格、支援内容を研究・検討①
第3回	9月25日(月)	1. リモート会議などネット環境に対応した環境の整備② 2. 資格取得のための支援する資格、支援内容を研究・検討②
第4回	11月27日(月)	1. リモート会議などネット環境に対応した環境の整備③

回	開催期日	取組内容
		2. 資格取得のための支援する資格、支援内容を研究・検討③ 3. OJT マニュアルの研究・検討①(マニュアル案の提示) 4. ハラスメント研修の実施①(実施に向けての協議) 5. 職位別職員研修会の成果物の活用→職員プロフィールブックの提案
第5回	令和6年 3月6日(水)	1. リモート会議などネット環境に対応した環境の整備④ (月例会議をハイブリット形式に移行) 2. 資格取得のための支援する資格、支援内容を研究・検討④(絞込み) 3. OJT マニュアルの研究・検討②(マニュアル案の協議) 4. ハラスメント研修の実施②(振り返り)
令和5年度の実績		令和6年度の実績
①リモートに移行できる会議・研修の提案(月例会議は令和6年5月からハイブリットで開催) ②ハラスメントに関する職員研修の企画に基づく開催		①資格取得のための支援制度の構築[4職種(社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・手話通訳士)の受験合格者に受験料の補助等を検討] ②OJT(職場内訓練)の推進マニュアルの作成

(6) 広報委員会

本会議は、各課から選任された広報委員及び推進室長で構成し、広報委員会で諮る取組目標の対応策について隔月奇数月に協議した。

回	開催期日	取組内容
第1回	7月14日(金)	1. 年間計画の作成
第2回	9月14日(木)	1. ホームページ以外のSNSの活用の検討 2. イメージキャラクターの活用 3. 広報関連の3事務事業評価の確認
第3回	11月13日(月)	1. 本会広報紙に対する読者アンケート(案)の協議①
第4回	令和6年 1月16日(火)	1. 本会広報紙に対する読者アンケート(案)の協議② 2. ホームページに掲載する寄付金受付募集記事(案)の協議①
第5回	3月13日(水)	1. 本会広報紙に対する読者アンケート(案)の協議③ 2. ホームページに掲載する寄付金受付募集記事(案)の協議②
令和5年度の実績		令和6年度の実績
①キャラクターの活用(再点検) ②広報紙「こちら社協です」読者アンケート(案)の作成 ③本会ホームページに寄付金受付募集の検討		①広報紙「こちら社協です」読者アンケートの実施 ②本会ホームページに寄付金受付募集の開設

(7) 事業調整会議

地域福祉課長以下課内職員で構成し、地域福祉課事務事業の情報伝達、課題共有の場として位置づけ、月1回の頻度で開催した。(取組内容は90頁～91頁に掲載)

(8) 衛生推進者会議

法人内に配置している衛生管理者及び衛生推進者で構成し、「働きやすい職場環境づくり」を実施目標として8月に開催する予定であったが、開催せずに終わっている。

(9) 南部介護保険事業コア会議

事務局長、事務局次長、介護障がいサービス課長及び主幹並びに事業所管理者、推進室長で構成し、事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回コア会議	8月22日(火)	1. 事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議①
第2回コア会議	11月1日(水)	2. 事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議②
会長・副会長会議	12月7日(木)	1. 事業所廃止の提案
第3回理事会	12月20日(水)	1. 事業所廃止の告知
健康福祉部訪問	12月21日(木)	1. 山口市へ事業所廃止の打診
事業廃止説明会	12月22日(金)	1. 当該職員対象の事業所廃止の説明会
当該職員面談	令和6年 1月中旬	1. 当該職員対象の面談の実施
第3回コア会議	2月7日(水)	1. 事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議③
第4回理事会	3月12日(火)	2. 事業所廃止の同意
第2回評議員会	3月21日(木)	1. 事業所廃止の決議 ※令和7年3月31日付けで事業所廃止決定
令和5年度の実績		令和6年度の実績
①南部介護保険事業所(居宅介護支援事業所・訪問介護事業所)廃止(令和7年3月31日)に向けての目標設定に基づいた取組		①南部介護保険事業所(居宅介護支援事業所・訪問介護事業所)廃止(令和7年3月31日)に向けての目標設定に基づいた取組

(10) 北部介護保険事業コア会議

事務局長、事務局次長、介護障がいサービス課長及び主幹、推進室長で構成し、当該臨時職員の期末手当廃止と賃金の引上げに向けての協議を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回コア会議	令和6年 2月7日(水)	1. 当該臨時職員の賃金等の引上げの協議①
令和5年度の実績		令和6年度の実績
①北部介護保険事業所の臨時職員の賃金等引上げの検討		①北部介護保険事業所臨時職員の賃金等引上げの検討

(11) 事業継続計画(BCP)作成会議

福祉サービス事業所の所属長又は職員で構成し、事業継続計画(BCP)作成に向けて協議を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回	10月18日()	1. 事業所単位の事業継続計画(BCP)に盛り込む内容(確認)

回	開催期日	取組内容
第2回	12月12日(火)	1. 法人全体の事業継続計画(BCP)の修正版の提示 2. 事業所単位の事業継続計画(BCP)(案)の協議
令和5年度の取組実績		令和6年度の取組計画
①介護・障がい関連の事業所単位の事業継続計画(BCP)作成(令和6年2月1日付)		①事業所単位の事業継続計画(BCP)の検証

(12)共同募金担当者会議

本会議は、各課から選任された共同募金担当者及び推進室長で構成し、共同募金担当者会議で諮る取組目標対応策について年4回に亘り協議した。

回	開催期日	取組内容
第1回	6月8日(木)	1. 年間計画の作成
第2回	8月30日(水)	1. 委員会(運営・審査・推進)の運用方法の再構築① 2. 新しい用途活用の仕組みづくりと事業推進方法の明確化① みんなに優しいまちづくり支援事業実施要綱(案)の作成
第3回	11月10日(金)	1. 委員会(運営・推進・審査)の運用方法の再構築②(中央共募の報告) 2. 新しい用途活用の仕組みづくりと事業推進方法を明確化② みんなに優しいまちづくり支援事業実施要綱(案)の作成 3. 歳末たすけあい募金の再検討①
第4回	令和6年 1月25日(木)	1. 委員会(運営・審査・推進)の運用方法の再構築③ 共同募金委員会会則(案)・審査委員会設置運営要綱要綱(案)の協議 2. 新しい用途活用の仕組みづくりと事業推進方法を明確化③ みんなに優しいまちづくり支援事業実施要綱(案)の協議 3. 災害支援事業の見直し[災害見舞金支給規程(案)の協議]
令和5年度の取組実績		令和6年度の取組計画
①共同募金会3委員会(審査・運営・推進)の役割及び運用方法の明確化 ②共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直し		①共同募金会3委員会(審査・運営・推進)の役割及び運用方法に基づいた組織改編 ②共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直し

《成果と課題》

本年度は、第3次計画の初年度で、計画の10の基本目標、22の実施目標、35の取組目標を12の推進会議体に振り分け、それぞれの会議体を主体に責任をもって対応策について協議していただいた。取組目標には、取り組みやすい目標と直ぐに明確な方向性が出せない目標があるが、それぞれの会議体で協議し、現状把握と課題整理、そして成果物ができたことは評価できる。

近年の会費、寄付金、共同募金等自主財源の大幅な減収は、歯止めがきかず、積立金を取り崩して均衡を保つ財政運営となっている。これまでも自主財源の事務事業については、見直して支出削減を行ってきたが、少々の見直しでは追い付かず、抜本的な事務事業の精査、見直しが喫緊の課題である。「安定的な財政運営の仕組みづくり」については、懸案事項として次年度につなげ、将来的にも財政負担の増大が見込まれる事業については、持続可能な委託事業への転換を山口市と協議する等、5年間かけて収支のバランスが取れた健全な財政運営を具現化し、体系化する。

2 令和5年度 評価シートに基づく事務事業の方向性

(1) 目的

本会は、数多くの委託事業、補助事業、自主事業を抱えており、近年、地域共生社会の実現を目指すための「地域づくり」に焦点をあてた新事業の委託が増えている。本会が地域共生社会の実現に向けて時代に即した効率的な事業運営を進めていくには、各事業を精査分析し、利用者の満足度が高い事業は、主力事業に位置づけ力を入れるとともに、利用者の満足度が低い事業や採算や効率の低い事業は廃止に向けて整理する等、組織も含めて法人としての方向性を明確に打ち出していく必要がある。

評価シートは、各事務事業の過去5年間の実績、成果と課題及び改善点、費用対効果を明確化し、事務事業を5段階評価(必要度や将来度のランク付け)するもので、その評価に基づき明確化した課題を計画的に取り組むことで、①主力事業の構築や②組織の再編成、③適正な人員配置の参考とする。

(2) 第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画の事務事業評価の位置づけ

部 門	1 組織強化と効率的な組織運営
基本目標	2 業務の効率化
実施目標	2 事務事業の評価と業務改善・事務の効率化

(3) 事務事業の範囲

- ・将来にわたって方向性を示す必要がある99事務事業〔推進室で提示〕
〔地域福祉課47 生活相談課12 介護・障がいサービス課22 総務課18〕

(4) 事務事業評価の進め方

- ・事務事業評価シート(案)の修正受付 令和5年4月25日(火)

第1段階 事務事業評価シート作成の説明 令和5年5月11日(木)～6月22日(木)

第2段階 事務事業評価シートの作成 令和5年5月12日(金)～7月10日(月)

担当職員が評価シートの上部分(予算額)までを記入し、成果と課題以降は所管課内で協議の上、所属長(課長含む)及び主幹が作成し、基盤強化計画推進室に提出する。〔※予算額・決算額・収支差額は、各課予算管理責任者へ照会〕

第3段階 ヒアリングの実施 令和5年7月14日(金)～8月10日(木)

事務局長及び推進室(室長・4課長)が所属長(課長含む)及び主幹の作成した評価シートに基づいてヒアリングを実施する。

第4段階 各事務事業の方向性の決定 令和5年8月～10月(計6回)の「事務局長・課長会議」で決定
推進室(室長・4課長)でヒアリング結果を分析後、各事務事業の方向性(案)を「事務局長・課長会議」に提示し、協議の上、法人としての方向性を決定する。

第5段階 各事務事業の評価(必要度・方向性)の伝達 令和5年10月4日(水)～12月19日(火)

期 日	事 業 所 名
10月 4日(水)	徳地出張所
10月12日(木)	秋穂出張所(秋穂コミュニティセンター含む)

期 日	事 業 所 名
10月12日(木)	山口市福祉センター
10月13日(金)	地域福祉課
10月16日(月)	生活相談課
10月17日(火)	放課後児童クラブ(児童クラブ運営会議)
10月17日(火)	阿知須出張所
10月17日(火)	阿東出張所
10月24日(火)	総務課
11月14日(火)	北部介護保険事業所
11月14日(火)	アカシア工房
11月15日(水)	しらすぎ会館
11月22日(水)	川西及び川西第2地域包括支援センター
12月19日(火)	障害者福祉作業所

第6段階 第3回理事会〔令和5年12月20日(水)〕において事務事業の方向性の報告

課名	主力事業	事務事業の方向性				事務事業 合計
		1 事業拡大	2 現状維持	3 事業縮小	4 受託終了 事業廃止	
1 地域福祉課	6	4	29	7	7	47
2 生活相談課	2	2	7	1	2	12
3 介護・障がいサービス課	0	0	18	2	2	22
4 総務課	2	1	12	4	1	18
合 計	10	7	66	14	12	99

(5) 進行管理 基盤強化計画推進室

(6) 10の主力事業の決定

- ①地域福祉課(6事業) (1) 地区社協支援事業 (2) 福祉員活動事業
(3) 民生委員児童委員協議会事業
(4) 地域福祉推進に係る事業 (5) 友愛訪問活動促進事業
(6) ボランティアセンター管理運営事業
- ②生活相談課(2事業) (1) 日常生活自立支援事業 (2) 法人成年後見事業
- ③総務課(2事業) (1) 法人運営事業 (2) 共同募金事業

(7) 事務事業評価で決定した11の終了事業

- ①地域福祉課(5事業) (1) 移送サービス支援事業(小郡) (2) 移送サービス支援事業(阿知須) 福
(3) 阿東区域外出支援サービス事業
(4) 小郡高齢者生きがいセンターさるびあ館
(5) 祭壇等備品貸出事業(地域活性化事業)
- ②生活相談課(2事業) (1) 高額介護サービスつなぎ資金貸付事業 (2) 生活安定対策資金貸付事業

- ③介護・障がいサービス課(2事業) (1) 南部居宅介護支援事業 (2) 南部訪問介護事業
- ④総務課(2事業) (1) 夢工房 共同作業所(秋穂出張所事務費管理事業)
- (2) 堀コミュニティサロン管理(徳地出張所維持管理事業)

《成果と課題》

本年度の最初の取組みとして「事務事業の評価」を位置づけ、将来にわたって方向性を示す必要がある99事務事業〔推進室で提示〕の評価を、評価シート(各事務事業の過去5年間の実績、成果と課題及び改善点、費用対効果等)に基づいて、5段階(必要度や将来度のランク付け A事業拡大、B事業現状維持、C事業内容を見直して現状維持又は縮小、D事業縮小又は終了を検討、E事業終了)で評価することで、各事務事業の方向性を整理することができた。

これまでは、所属長と事業担当者を中心に共有していた課題もあり、今回の事務事業評価により法人全体の課題として共有することで、課題解決に向けての目標設定や着地点(ゴール)を打ち出すことができた。

今回の事務事業の精査と評価を通して、法人として力を入れるべき「10の主力事業」と利用度が低い「11の終了事業」を決定し、理事会において報告することで、法人としての事務事業の方向付けや将来の展望を伝達することができた。

主要事業

1 自律した法人運営と「働き方改革」の推進

(1) 就業関連規程に基づいた「働き方改革」の推進

- ① 雇用形態別(正規・継続・嘱託・臨時)に責任の重さを周知し実行
- ② ノー残業デー及びMYノー残業デーの設定による時間外勤務の抑制
- ③ 事務事業評価による業務の効率化、省力化
- ④ 給与水準の引き上げ
- ⑤ 就業管理システムによる勤怠管理の導入、運用
- ⑥ 季節性インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症に伴う病気休暇の整備 など

(2) 組織基盤の整備

1) 住民会員(一般会員)会費の周知の徹底

会費項目 (一口金額)	山口地域 (500円)	小郡地域 (500円)	秋穂地域 (500円)	阿知須地域 (500円)	徳地地域 (500円)	阿東地域 (500円)
会員数	45,946	4,775	2,082	2,548	1,978	2,001
金額(円)	22,973,000	2,387,950	1,041,000	1,274,000	989,000	1,000,700
合 計(円)						29,665,650

※前年度比 617,110円減

2) 住民会員(一般会員)会費以外[市内統一]の周知の徹底

会費項目 (一口金額)	特別会員会費 (1,000円)	組織会員 (団体会員)会費 (3,000円)	組織会員 (施設会員)会費 (7,000円)	賛助会員会費 (5,000円)
件数	81	85	48	193
金額(円)	928,500	264,000	343,000	1,215,000
合 計(円)				2,750,500

※前年度比 133,500円減

○新たな事業所等に対する賛助会員会費の増強・拡大

本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を鑑み、訪問による新規事業所開拓を積極的には行わなかった。例年どおり、本会職員が関わりのある事業所に対して、賛助会員への加入をお願いした。

3) 善意銀行の周知と適正な配分実施

寄附項目	一般寄附	香典返し	資産積立	合 計
件数(件)	89	214	3	306
金額(円)	495,566,280	13,265,000	8,800	508,840,080 (遺贈による寄附金を含む)

※前年度比 492,082,503円増

(3) 法人の運営

1) 理事会及び評議員会の開催

開催日(会議名)	内 容
<p>6月9日(金) (第1回理事会)</p>	<p>報告第1号 「文書取扱い規程(規程第10号)の一部改正について 報告第2号 「介護保険関係事業」及び「障害者総合支援関係事業」運営規程の一部改正について 報告第3号 会長、常務理事の職務執行状況について (提出議案) 議案第1号 令和4年度 事業報告について 議案第2号 令和4年度 収支決算報告について 議案第3号 令和5年度 資金収支第一次補正予算(案)について 議案第4号 第1回評議員選任・解任委員会の開催(案)について 議案第5号 第1回評議員選任・解任委員会に提出する評議員の選任候補者の推薦(案)について 議案第6号 残任期間に伴う評議員選任・解任委員会委員の選任(案)について 議案第7号 定時評議員会の開催(案)について 議案第8号 役員(理事・監事)候補者の提案について 議案第9号 給与規程(規程第18号)の一部改正(案)について 議案第10号 就業関連3規程「嘱託職員就業規程(規程第14号)」「臨時職員就業規程(規程第15号)」「放課後児童クラブ支援員及び補助員就業規程(規程第97号)」の一部改正[時間外勤務手当及び休日勤務手当](案)について 議案第11号 就業関連3規程「登録訪問介護員就業規程(規程第56号)」「登録生活支援員就業規程(規程第95号)」「放課後児童クラブ支援員及び補助員就業規程(規程第97号)」の一部改正[夏季休暇](案)について 議案第12号 就業関連6規程「就業規程(規程第13号)」「嘱託職員就業規程(規程第14号)」「臨時職員就業規程(規程第15号)」「登録訪問介護員就業規程(規程第56号)」「登録生活支援員就業規程(規程第95号)」「放課後児童クラブ支援員及び補助員就業規程(規程第97号)」の一部改正[病気休暇<季節性インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症>](案)について 議案第13号 就業関連6規程「就業規程(規程第13号)」「嘱託職員就業規程(規程第14号)」「臨時職員就業規程(規程第15号)」「登録訪問介護員就業規程(規程第56号)」「登録生活支援員就業規程(規程第95号)」「放課後児童クラブ支援員及び補助員就業規程(規程第97号)」の一部改正[労働保険<労働災害による病気休業>](案)について</p>
<p>6月26日(月) (定時評議員会)</p>	<p>(提出議案) 議案第1号 令和4年度 事業報告について 議案第2号 令和4年度 収支決算報告について 議案第3号 令和5年度 資金収支第一次補正予算(案)について 議案第4号 一斉改選に伴う役員(理事・監事)の選任(案)について</p>

開催日(会議名)	内 容
6月27日(火) (第2回理事会)	(提出議案) 議案第1号 会長、副会長及び常務理事の選定について 議案第2号 会長が欠けたとき等の理事会を招集する副会長の選任について 議案第3号 残任期間に伴う評議員選任・解任委員の選任(案)について 議案第4号 第2回評議員選任・解任委員会に提出する評議員の選任候補者の推薦(案)について
12月20日(水) (第3回理事会)	報告第1号 会長、常務理事の職務執行状況について 報告第2号 文書取扱い規程(規程第10号)の一部改正について (提出議案) 議案第1号 申請書等の押印の特例に関する規程の制定(案)について 議案第2号 情報公開規程(規程第107号)の制定(案)について 議案第3号 議案第4号 「高齢者虐待防止の推進」の義務化による介護保険関連規程の一部改正(案)について 議案第4号 表彰規程(規程第11号)の一部改正(案)について 議案第5号 給与規程(規程第18号)の一部改正(案)について
令和6年 3月12日(火) (第4回理事会)	報告第1号 山口市川西地域包括支援センター指定介護予防支援事業関連運営規程の一部改正について 報告第2号 文書取扱い規程(規程第10号)の一部改正について 報告第3号 申請書等の押印の特例に関する規程(規程第106号)に基づく関連規程の一部改正について 報告第4号 会長、常務理事の職務執行状況について (提出議案) 議案第1号 令和5年度 資金収支第二次補正予算(案)について 議案第2号 令和6年度 事業計画(案)について 議案第3号 令和6年度 資金収支予算(案)について 議案第4号 「役員等損害賠償責任保険」契約締結の提案について 議案第5号 南部介護保険事業所廃止に伴う関連運営規程を廃止する規程の制定(案)について 議案第6号 公印規程(規程第7号)の一部改正(案)について 議案第7号 嘱託職員就業規程(規程第14号)の一部改正(案)について 議案第8号 給与規程(規程第18号)の一部改正(案)について 議案第9号 役員等の報酬に関する規程(規程第19号)の一部改正の提案について 議案第10号 災害見舞金支給規程(規程第32号)の一部改正(案)について 議案第11号 残任期間に伴う評議員選任・解任委員会の委員の選任(案)について 議案第12号 第2回評議員選任・解任委員会の開催(案)について 議案第13号 第2回評議員会の開催(案)について
令和6年 3月21日(木) (第2回評議員会)	(提出議案) 議案第1号 令和5年度 資金収支第二次補正予算(案)について 議案第2号 令和6年度 事業計画(案)について 議案第3号 令和6年度 資金収支予算(案)について 議案第4号 南部介護保険事業所廃止に伴う関連運営規程を廃止する規程の制定(案)について 議案第5号 表彰規程(規程第11号)の一部改正(案)について 議案第6号 役員等の報酬に関する規程(規程第19号)の一部改正(案)について

開催日(会議名)	内 容
	議案第6号 役員等の報酬に関する規程(規程第19号)の一部改正(案)について 議案第7号 災害見舞金支給規程(規程第32号)の一部改正(案)について 議案第8号 「高齢者虐待防止の推進」の義務化による介護保険関連運営規程の一部改正(案)について 議案第9号 情報公開規程(規程第107号)の制定(案)について

2) 監査の実施

開催日	内 容
5月23日(火)	令和4年度 監査(財務監査・事業監査)

3) 評議員選任・解任委員会の開催

開催日	内 容
6月12日(月) (第1回評議員選任・解任委員会)	議案第1号 残任期間に伴う評議員の選任(案)について
令和6年 3月14日(木) (第2回評議員選任・解任委員会)	議案第1号 委員長の選任について 議案第2号 残任期間に伴う評議員の選任(案)について

(4) 運営体制の強化

1) 月例会議の開催

本会事務事業の円滑な推進に向けた調整・協議・連絡事項を内容とした会議を開催した。

○年間開催回数 11回(月1回開催 8月を除く。)

※4月及び1月は全所属長を招集

2) 事業調整会議の開催

各事業について市内全域を対象に推進するため、下表のとおり事業調整会議を開催した。

なお、毎回、地区福祉員協議会、地区民児協定例会に出席する際の情報提供資料の確認を行った。また、毎回生活支援コーディネーターに関する報告も行った。昨年度同様に本会議とは別に小グループで課題を協議する場(コア会議)を設け、山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画の取り組みとリンクさせて協議した。

○年間開催回数 12回(月1回)

開催日	協 議 内 容
4月26日(水)	・事務分掌等について ・各事業の伝達と依頼等
5月29日(月)	・歳末助け合い配分事業の見直し等について ・各事業の伝達と依頼等
6月30日(金)	・見守り訪問活動研修会・災害ボランティアセンター役割等について ・各事業の伝達と依頼等
7月27日(木)	・災害ボランティアセンター立ち上げ等について ・各事業の伝達と依頼等

開催日	協議内容
8月28日(月)	・子育てサロン支援事業・ふれあい型給食サービス等について ・各事業の伝達と依頼等
9月29日(金)	・福祉機器リサイクル事業・福祉教育等について ・各事業の伝達と依頼等
10月23日(月)	・生活支援コーディネーター・捺印省略が可能な申請書等について ・各事業の伝達と依頼等
11月28日(火)	・福祉員関係等について ・各事業の伝達と依頼等
12月25日(月)	・公益協「ひきこもり一般講座」等について ・各事業の伝達と依頼等
令和6年 1月30日(火)	・サロン活動実態調査の実施・チャェアキャブ等について ・各事業の伝達と依頼等
2月28日(水)	・福祉員関係・マイクロバス等運行事業等について ・各事業の伝達と依頼等
3月19日(水)	・来年度の事業調整会議等について ・各事業の伝達と依頼等

《成果と課題》

事業の内容確認や調整の他、情報の共有や職員の意識統一が図れたが、本会議はお知らせ事項が多いため、別でコア会議行うことが多かった。次年度以降は、お知らせ事項は、書面等で知らせ、本会議はコア会議を中心に行うことで、多々ある事業の様々な調整を図っていきたい。

(5) 共同募金運動への協力

1) 一般募金(目標額:32,020,000円)

(単位:円)

募金種別	令和5年度実績	令和4年度実績	前年度比
戸別募金	21,938,913	22,628,521	△689,608
法人募金	2,450,292	2,603,688	△153,396
募金百貨店	403,536	352,227	51,309
職域募金	1,520,497	1,593,374	△72,877
街頭募金	166,548	181,506	△14,958
興行募金	713,933	356,165	357,768
その他	1,712,403	1,987,162	△274,759
合計	28,906,122	29,702,643	△796,521

2) 歳末たすけあい募金(目標額:12,000,000円)

(単位:円)

募金種別	令和5年度実績	令和4年度実績	前年度比
戸別募金	10,103,761	10,282,337	△178,576
学校募金	159,304	229,477	△70,173
その他の募金	602,252	591,974	10,278
合計	10,865,317	11,103,788	△238,471

3) 災害義援金

○実績額: 827,903円

4) 行事の内容

開催日	内容	備考
4月12日(水)	山口市共同募金委員会監事会	監事3名 事務局
6月1日(木) ~7月15日(金)	募金箱イラストコンテスト作品募集 応募作品 44点	赤い羽根賞 1点 アピール賞 3点 アイデア賞 3点
6月14日(水)	山口市共同募金委員会運営委員会	運営委員13名 監事1名 事務局
7月12日(水)	山口市共同募金委員会審査委員会	共同募金及び歳末たすけあい募金配分決定
8月8日(火)	山口市共同募金委員会推進委員会	推進委員31名 事務局
10月1日(日)	共同募金開始行事、街頭募金	山口井筒屋前
10月7・21日(土)	街頭募金、街頭宣伝	中市、米屋町、道場門前商店街
10月~12月	法人、職域募金	山口市内全域
11月11日(土)	チャリティーゴルフ大会	湯田カントリークラブ 参加者59名
令和6年 2月19日(月)	山口市共同募金委員会審査委員会	令和5年度歳末たすけあい配分報告 令和6年度共同募金配分計画
令和6年 2月26日(月)	山口市共同募金委員会運営委員会	会則、要綱の改正 令和5年度歳末たすけあい配分報告 令和6年度共同募金配分計画

《成果と課題》

昨今の社会情勢の不安に合わせ、共同募金は年々募金実績が減少しており、一般募金及び歳末たすけあい募金共に昨年度の実績を下回った。内訳としては、戸別募金や窓口募金の減少が著しい半面、新型コロナウイルス感染症でのイベントの自粛が解除された結果、イベント募金は増額であった。

また、今年度もイラストコンテストを実施し、小学生から高校生を対象に呼びかけ、44点の応募があった。

配分事業においては、共同募金の目的に沿った用途となるよう本会内で担当者会議を開催し、事業の再考を図った。募金額が減少している中において、早急に配分事業の見直しを行い、併せて目的に沿った分かりやすい形での募金活動すすめる必要がある。

(6) 福祉サービス事業に関する苦情解決の取り組み

○苦情の受付状況

内容	苦情申出者	件数
会費の納入方法の回答	地区社協	1
善意寄附の受取時の対応	寄附来訪者	1
生活福祉資金貸付相談時の対応	貸付来訪者	1
日常生活自立支援事業の説明	利用者の入所施設の職員	2

内 容	苦情申出者	件数
居宅介護支援事業職員(ケアマネ)の言動	民間の福祉施設	2
訪問介護事業職員(ヘルパー)の対応	利用者の家族	6
あったか相談会での対応	来所者	1
ふれあい給食の電話対応	電話での問合せ者	1
サロン活動書類の受け渡し対応	サロン関係者	1
放課後児童クラブ相談者の対応	入所希望相談者	3
他団体のボランティア活動	住民	1
元職員の言動	元職員	1
合 計		21

○令和5年度 苦情解決関係者研修会

開催日 令和6年1月23日(火) 午後2時～4時

会 場 山口市社会福祉協議会 本所 会議室

内 容 「苦情対応に求められる視点と苦情解決関係者の役割について」

講 師 山口県福祉サービス運営適正化委員会 事務局長 岡村 昌一郎 氏

参加者 9名

(第三者委員4名、苦情解決責任者兼苦情受付担当者1名、苦情受付担当者3名、事務局次長1名)

《成果と課題》

本年度の苦情等の申し出は21件であった。その原因の多くは、職員の対応(態度・言動)であった。

接遇やマナーについては、職員研修等でも取り上げているが、まだまだその大切さが十分浸透していない。職員一人一人の態度・言動が法人を代表するものだという認識を再度徹底させたい。

なお、福祉サービス事業に関する苦情解決体制は、苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員の委嘱により体制を整えており、苦情解決関係者の研修会を年1回実施している。

住民からの要望・指摘・苦情といった意見を職員が先ずは受け止め、傾聴する姿勢の大切さを、改めて職員教育で徹底する必要がある。

(7)関係機関等との渉外・その他調整等

1) 中国・四国都市社会福祉協議会連絡協議会第61期(令和5年度)定期総会及び研修会

今年度から2年間、岡山県総社市社会福祉協議会が事務局の引き受け市となり、令和5年度は、以下の事業が執行された。

第1回 運営委員会・企画委員会

○開催日 9月20日(水)

○方 法 オンライン会議

○参加者 会長1名、運営委員2名、監事2名、企画委員3名、事務局4名

※山口市社会福祉協議会は事務局長が運営委員として、地域福祉課長が企画委員として参加

定期総会

○方 法 書面決議で実施

研修会

○開催日 令和6年3月1日(金)

- 会 場 国民宿舎サンロード吉備路 コンベンションホール
- 内 容 【講演会】 地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業
 【講 師】 同志社大学 社会学部 教授 永田 祐 氏
 【トークセッション】 社協における重層的支援体制整備事業の準備と本実施の取り組み
 【パネリスト】大田氏社会福祉協議会 地域福祉課 課長補佐 飯田 啓介 氏
 岡山市社会福祉協議会 生活支援課 課長補佐 酒井 和歌子氏

○本会参加者 2名(事務局長・地域福祉課長)

《成果と課題》

中国・四国都市社会福祉協議会連絡協議会は、昭和38年に中国・四国地域に結成されて、今日に至っている。

結成当初には、多くの都市社協が加入し、研修会や情報交換会を開催し、存在意義は大きかったが、近年は、インターネットの普及もあり、脱退する社協が多く、減少の一途である。更に、ここ数年のコロナ禍で集合研修や情報交換会が出来なかったことも脱退に拍車がかかった。

本会も、継続して加入する意義が見いだせないため、県内の加入社協に今後の意向を確認するとともに今年度で本会が脱退する意向を伝え、令和5年度を以て脱退となった。

2) ソーシャルワーク実習等の引受

福祉現場の実習等については、山口県内の大学(福祉学部)及び福祉職をめざす山口市出身者、福祉事務所等からの相談・依頼を受けて、本会としてソーシャルワーク実習Ⅱ等を積極的に引受け、人材育成に努めた。

学 校 名	実習人員	実 習 期 間	実習受入部署
YIC 看護福祉専門学校	1名	7月5日(水)～7月28日(金)	山口市社会福祉協議会 本所兼北部支所
山口県立大学 社会福祉学部 社会福祉学科	3名	8月16日(水)～9月15日(金)	
山口県立大学 社会福祉学部 社会福祉学科	1名	8月16日(水)～9月15日(金)	山口市川西第2地域 包括支援センター

2 財源の新規開拓と効果的な法人及び事業運営による経営基盤の強化

(1) 予算編成会議の開催

回	開催日	協議内容
第1回	6月28日(水)	1. 基盤強化計画(年間計画)について 2. 令和6年度サマーレビューについて 3. 物品購入伺いのルールについて
第2回	7月27日(木)	1. 基盤強化計画(共同募金委員会(運営・推進・審査)の運用方法について 2. 自家用車の公用使用について 3. 物品購入の手順について 4. 謝金交通費の支払いについて
第3回	9月26日(火)	1. 遺贈による寄附報告について 2. 基盤強化計画(共同募金、基金・積立金)について 3. 委託・補助・指定管理事業の予算要望について 4. 自主財源の伴う各事業の新年度予算について 5. 車両配置について
第4回	11月22日(木)	1. 基盤強化計画(共同募金配分金の見直し、基金積立金効果的な事業配分への仕組みづくり、主力事業の構築、委託・指定管理・補助事業の精査及び契約年度を把握しての見直し)について 2. 予算編成スケジュールについて 3. 経費按分について 4. 予算の圧縮について
第5回	令和6年 1月11日(木)	1. 基盤強化計画(民間財源の確保と効果的運用)について 2. 予算編成について
第6回	3月7日(木)	1. 基盤強化計画(安定的な財政運営のための仕組みづくり)について 2. 令和6年度予算について 3. 令和5年度決算について

《成果と課題》

山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画の中の財源確保部門の一環として、予算削減に努め、適切な事業配分を行うため、6回にわたり管理職及び予算管理責任者で年間を通じ、予算編成会議を行った。

年度当初に、遺贈による多額の寄附があり、寄附者の意思に沿った活用を行うため、元後見人である弁護士を交えた寄附活用検討委員会の意見を踏まえ、本予算編成会議においても効果的な活用方法を協議した。

また、共同募金の活用について、事業の見直しを行うとともに、維持管理費の圧縮のため、車両の配置についてなどの協議を行った。

会費や寄附金、共同募金は年々減少しており、自主財源を活用している事業の精査や車両維持管理経費及び事務経費の削減策については、毎回議題に挙げ協議を行った。

3 社協の経営理念に基づいた計画的な人材の育成・確保の仕組みづくり

(1) 職員研修会の開催

回数	開催日	内 容	講 師	対象者及び実施方法
第1回	9月1日～ 10月31日	動画視聴 山口市地域福祉計画及 び山口市地域福祉活動計画	地域福祉課	動画視聴
第2回	10月1日～ 11月30日	本社協の状況分析と強化案につい て(職位ごとのグループワーク)	-----	正規職員 (集合形式)
第3回	2月13日(火)	ハラスメント防止	宇佐美理世 社会 保険労務士	全職員 (ハイブリッド)

《成果と課題》

研修委員会で内容を協議し、毎年定例で職員研修会を実施している。

全職員を対象として、集合研修と動画視聴研修と工夫をしているが、業務が多忙なため実際の受講状況が把握できていない。今年度は、外部講師による研修を実施したが、講師からも職員からも全体の研修の場合は、概要しか話せず、ポイントを付くには管理職向け、一般職員向けに分けて実施する方が良いのではないかとアドバイスいただいております。今後活かしたい。第2回の職員研修からの提案で令和6年度「職員プロフィールブック」を作成することとなり、職員からの提案を具現化できたことは成果である。

関連事業

1 広報・啓発活動の充実・強化

(1) 社会福祉功労者等表彰状・感謝状贈呈式の開催

- 開催日 10月20日(金)午後1時30分～2時30分
- 会場 山口県総合保健会館 多目的ホール
- 参加者 27名(内被表彰者24名・感謝状贈呈者3名)
- 内容

表彰 本会表彰規程に基づき、社会福祉事業関係功労者等の表彰を行い、その功績を讃えた。

部門	個人	団体
被表彰者	49名	8団体
感謝状贈呈者	8名	1団体

《成果と課題》

今年度も記念講演は行わず、被表彰者・感謝状贈呈者を対象に「社会福祉功労者等表彰状・感謝状贈呈式」を開催しその功績を讃えた。今年度は、昨年度より受賞者が少なく、表彰者件数は57件(個人・団体)、感謝状贈呈者は9件(活動者・寄付者)であった。

なお、上位団体の表彰資格基準に準じる形に表彰規程及び推薦要領の見直しを行ったので、今後は、更に多くの応募を期待する。

また、令和2年度から実施している「社会福祉功労者等表彰状・感謝状贈呈式」のみの形も定着してきており、次年度以降も同様の形で、受賞者をお祝いしたい。

(2) 機関紙「山口市社協だより(こちら社協です)」の発行

○事業内容: 年6回「山口市社協だより(こちら社協です)」を発行し、各戸及び関係機関へ配付した。

本会事業や福祉団体の活動紹介、福祉サービスの情報を掲載し、市民から親しまれる紙面づくりに努力した。また、表紙・裏表紙はカラー刷りとなっている。

発行月	発行部数	発行回数(頁)	配布先
4・6・8・10・12・2月	各74,700部	6回(8頁)	各戸、関係機関

《成果と課題》

今年度も年6回「山口市社協だより(こちら社協です)」を発行した。

掲載記事を広報委員会でしっかりと厳選し、掲載しきれない内容については、ホームページで紹介するなど、広報活動を工夫した。

また、本会のイメージキャラクターの「タスくん、ふれっぴー」を積極的に活用し、キャラクターの周知と親しみやすい紙面づくり及び記事の質の向上に取り組んだ。

次年度に社協だよりについての読者アンケートの実施を予定している。

2 福祉団体への支援・協力

(1) 山口市ボランティア連絡協議会の運営

本年度も、役員会とボランティア相互の連携を深めるため視察研修や交流会を行った。

開催日	内 容	会 場	参加者数
4月17日(月)	令和5年度 山口市ボランティア連絡協議会総会	山口県総合保健会館 第1研修室	73団体 個人14名
5月15日(月)	第1回 山口市ボランティア連絡協議会役員会	徳地地域複合型 拠点施設	15名
7月3日(月)	第2回 山口市ボランティア連絡協議会役員会	山口市社会福祉協議会 南部支所	12名
7月15日(土)	視察研修(下関市ボランティア連絡協 議会と交流)	下関市	27名
10月1日(日)	赤い羽根共同募金オープニング行事	井筒屋前	1名
10月7日(土)	赤い羽根共同募金 街頭募金活動①	山口市中市商店街	5団体 個人15名
10月16日(土)	第3回 山口市ボランティア連絡協議会役員会	山口市社会福祉協議会 南部支所	14名
10月21日(土)	赤い羽根共同募金 街頭募金活動②	山口市中市商店街	7団体 個人19名
10月21日(土)	ふれあいレク大会(式典参加)	山口県身体障害者福祉 センター	2名 (事務局含む)
11月16日(木)	山口市ボランティア連絡協議会交流会	山口県総合保健会館 多目的ホール	81名 (一般含む)
12月11日(月)	第5回山口県ボランティア交流大会	山口県総合保健会館 多目的ホール	山口市43名
令和6年 1月22日(月)	第4回 山口市ボランティア連絡協議会役員会	山口市社会福祉協議会 南部支所	15名
3月25日(月)	第5回山口市ボランティア連絡協議会 役員会	山口市社会福祉協議会 南部支所	16名
随時	山口市ボランティア連絡協議会 支援事業(メニュー事業)	1件	—

《成果と課題》

一本化した山口市ボランティア連絡協議会の運営は9年目に入った。

昨年度に引き続き、視察研修を開催し、県ボランティア連絡協議会加入市町である下関市ボランティア連絡協議会との交流を行い、加入団体が活動発表を行った。

11月に開催した交流会では加入グループである「山口市ガールスカウト育成協議会」と「とくぢ母親クラブ」が活動発表を行った。パネルの展示では、加入グループ以外に山口県警察・さぼらんて等の外部団体からの出展があった。また法界寺住職 辻田氏から「いのちを唄う」と題した講演が好評だった。今回も参加制限を設けず、一般市民に参加の呼びかけを行い数名の参加者があった。

会員の高齢化や後継者問題等で解散・退会する団体・個人が相次いだ中、新しい団体が6つ、個人が1名加入された。

独自事業である支援事業（補助金）の利用が近年1団体となっている。今後も周知と利用を増やすことが課題である。

今後も山口市ボランティア連絡協議会への加入促進、発展、交流につながる取り組みを考え、役員の方と協議し活動の支援を行う。

(2) 山口市民生委員児童委員協議会の運営 * 受託事業

期 日	内 容	会 場 等
4月6日(木)	監事会	山口市社会福祉協議会本所
4月13日(木)	会長・副会長会議(第1回)	山口市社会福祉協議会本所
4月18日(火)	山口市民生委員児童委員協議会総会	山口県健康づくりセンター
5月5日(金)~11日(木)	児童福祉週間	
5月11日(木)~20日(土)	春の全国交通安全運動	9地区
5月12日(金)~18日(木)	民生委員・児童委員の日 活動強化週間	
5月14日(日)	民生委員・児童委員の日 一斉取組み日	
5月17日(水)	児童福祉部会研修会(第1回)	山口県健康づくりセンター
5月19日(金)	地域福祉部会研修会(第1回)	山口県健康づくりセンター
5月19日(金)	高齢福祉部会研修会(第1回)	山口県健康づくりセンター
5月22日(月)	主任児童委員連絡会議(第1回)	山口県健康づくりセンター
6月6日(火)	現任民生委員・児童委員研修会(県社協主催)	山口県セミナーパーク
6月12日(月)	会長・副会長会議(第2回)	山口市社会福祉協議会本所
6月20日(火)	理事会(第1回)	セントコア山口
7月3日(月)	青少年健全育成・社会を明るくする運動式典・パレード	
7月11日(火)~20日(木)	夏の交通安全県民運動	10地区民児協実施
7月14日(金)	ブロック別研修会 北部 (仁保・小鯖・大内・宮野・徳地・阿東)	徳地文化ホール
7月20日(木)	ブロック別研修会 南部 (陶・鑄銭司・名田島・秋穂二島・嘉川・佐山・小郡・秋穂・阿知須)	山口南総合センター
7月28日(金)	ブロック別研修会 中央部 (大殿・白石・湯田・吉敷・平川・大歳)	山口県健康づくりセンター
8月23日(水)	交流研修会	かめ福オンプレイス
9月13日(水)	会長・副会長会議(第3回)	山口市社会福祉協議会本所

期 日	内 容	会 場 等
9月21日(木)	児童福祉部会研修会(第2回)	山口県健康づくりセンター
9月21日(木)~30日(土)	秋の全国交通安全運動	9地区民児協実施
9月26日(火)	高齢福祉部会研修会(第2回)	山口県健康づくりセンター
9月26日(火)	地域福祉部会研修会(第2回)	山口県健康づくりセンター
9月28日(木)	主任児童委員連絡会議(第2回)	山口県健康づくりセンター
9月28日(木)	中堅民生委員・児童委員研修会(県社協主催)	山口県健康づくりセンター
10月10日(火)	常任理事会(第1回)	湯田地域交流センター
10月10日(火)	久留米市民生委員児童委員協議会生月支部 視察研修受け入れ	湯田地域交流センター
10月20日(金)	山口市社会福祉事業功労者等表彰状並びに 感謝状贈呈式	山口県健康づくりセンター
10月25日(水)	地区民生委員児童委員協議会 会長・副会長研 修会(県社協主催)	山口県健康づくりセンター
10月27日(金)	第73回山口県総合社会福祉大会	スターピアくだまつ
10月30日(月)	理事会(第2回)	防長苑
11月2日(木)	山口市表彰式	山口市民会館小ホール
11月9日(木)~15日(水)	高齢者の交通事故防止県民運動(前期)	
11月21日(火)~22日(水)	第92回全国民生委員児童委員大会~広島大 会~	広島県広島市
11月30日(木)	地区会長会議(視察研修会)	北九州市
12月10日(日)~1月3日(水)	年末年始の交通安全県民運動	11地区民児協実施
12月18日(月)	部会活動検討会	湯田地域交流センター
12月18日(月)	会長・副会長会議(第4回)	湯田地域交流センター
12月19日(火)	民生委員・児童委員活動実践講座	山口県健康づくりセンター
令和6年1月23日(火)	高齢福祉部会役員会	山口市社会福祉協議会 本所
1月26日(金)	児童福祉部会役員会	山口市社会福祉協議会 本所
1月30日(火)	主任児童委員連絡会議役員会	山口市社会福祉協議会 本所
1月30日(火)	会長・副会長会議(第5回)	山口市社会福祉協議会 本所
2月15日(木)	地域福祉部会役員会	山口市社会福祉協議会 本所
2月22日(木)	常任理事会(第2回)	湯田地域交流センター
3月9日(土)~15日(金)	高齢者の交通事故防止県民運動(後期)	
3月14日(木)	理事会(第3回)	湯田地域交流センター
○地区民児協定例会	毎月1回各地区にて実施	

期 日	内 容	会 場 等
○県民児協活動強化方策推進事業	仁保・鑄銭司地区民児協	
○市民児協活動支援事業	白石・湯田・吉敷・名田島・徳地・阿東地区民児協	
○地区民児協だより	5月発行	

《成果と課題》

新型コロナウイルス感染症が5類となったことにより、コロナ禍以前に近い活動・研修を行った。令和5年度は交流研修会でグループワークを実施し地区民児協同士の情報交換を持つことで、委員相互の活動方法や内容を共有することができ、各委員の担当地区における活動の振り返り及び先進的な取り組みについて持ち帰ることができる内容を多く取り入れることができた。その他、様々な研修会において、基礎的な内容を取り入れることで、3年任期の1年目として、地域に根差した活動を意識できるよう働きかけを行った。

また、民生委員の周知を図るため、5月の民生委員週間に合わせ各地区単位で「民児協だより」発行した。

各地区民児協会長へ配布しているタブレットについては臨時連絡等に活用したが、十分な活用はできなかった。今後のICT化について検討をしていく必要がある。

(3) 山口市介護者の会の運営

開催日	行 事	内 容	参加人数	会 場
4月19日(水)	役員会	総会及び令和5年度事業他について	8名	山口市社協南部支所
5月18日(木)	総会	総会 介護講演会 「介護保険の上手な使い方について」	総会22名 (委任状13名) 講演会22名	山口市福祉センター
6月15日(木)	役員会	介護実践教室、施設訪問他について	10名	山口市社協南部支所
6月15日(木)	介護実践教室	「在宅介護が楽になる介護実践」	会員9名 一般7名	山口市社協南部支所
7月7日(金)	施設訪問	介護施設見学	8名	社会福祉法人ひとつの会オ・サーバ(小鯖)
8月22日(火)	役員会	介護相談会、介護実践教室、リフレッシュ旅行他について	11名	山口市社協南部支所
9月7日(木)	介護相談会	包括支援センター等関係機関との相談会(佐山地区)	医療相談者3名 福祉相談者0名	佐山地域交流センター

開催日	行事	内容	参加人数	会場
10月26日(木)	介護実践教室	「認知症サポーター養成講座」	会員7名 一般6名	大歳地域交流センター
10月26日(木)	役員会	リフレッシュ旅行、介護講演会について	7名	大歳地域交流センター
11月9日(木)	リフレッシュ旅行	岩国市方面	会員17名 一般3名	岩国国際観光ホテル
12月14日(木)	介護講演会	「在宅介護と在宅医療について」	会員16名 一般32名	山口市社協南部支所
令和6年1月 18日(木)	役員会	令和6年度事業計画(案)について	9名	山口市社協南部支所
3月7日(木)	茶話会	手軽にできる体操 認知症家族の会との交流	会員10名 やすらぎの会10名	徳地地域交流センター
3月14日(木)	役員会	令和6年度総会他について	6名	山口市社協南部支所

《成果と課題》

山口市介護者の会は平成27年度から一本化されており、山口市全体で実施される研修会の見直しや市内から参加しやすい場所を選定するなど、会員が参加しやすい方法を協議した。また、いずれの研修会も好評の意見が多数挙がっており、会員だけではなく、一般の方も参加ができる研修会を開催した。

今後の運営を支援していく上で、広域であることや会員の高齢化が進んでいることなど、在宅介護をしている会員の増強や会の運営内容などが課題となる。具体的には、介護する人が気軽に行ける場所づくりや会員同士の交流を図っていきたいと考えている。

今後も活動の充実と会員の交流を図り、会員確保と会員福祉の増強に努めていく。

3 施設の管理運営

(1) 山口市老人福祉館の運営 * 指定管理事業

開館日数 老人福祉館291日・山口児童館291日
 臨時休館 老人福祉館2日・山口児童館2日
 7月 1日(土) 豪雨のため 1日
 12月16日(土) 館内清掃のため 1日

【山口市福祉センター(老人福祉館・山口児童館)利用状況】

	利用者(名)	月平均
老人福祉館	6,479	540
山口児童館	16,547	1,379
合計	23,026	1,919

(定期利用グループ)

事業内容	回数/月	利用者(名)	事業内容	回数/月	利用者(名)
民踊等 (3グループ)	11	441	謡曲・詩吟 (2グループ)	5	228
ダンス	4	364	囲碁・将棋 (3グループ)	6	867
人形・手芸 (2グループ)	4	154	三味線	3	126
合 計					2,180

(不定期利用グループ)

事業内容	回数/月	利用者(人)	事業内容	回数/月	利用者(名)
フラダンス (3グループ)	8	320	大正琴	4	105
日本画	1	33	ケアビクス (転倒予防体操)	2	95
オカリナ	2	91	フォークダンス	2	113
華道	2	329			
合 計					1,086

(新規利用団体)

- ・楽しい朗読(朗読)(6月16日利用)
- ・ケアビクス(転倒予防体操)(6月より月2回不定期利用) 計95名(全16回)
- ・大殿フォークダンス教室(7月より月2回不定期利用) 計113名(全16回)

(大殿地区社会福祉協議会)

- ・行くっちゃ! おおどの健康教室(第1~4木曜日実施) 計600名(全32回)

【山口市福祉センター講座(12回実施)】

日付	講座名	参加者(名)	日付	講座名	参加者(名)
5月23日(火)	古代史	19	10月6日(金)	ヨガ②	15
6月27日(火)	クラフトバンド	19	10月11日(水)	パソコン②	4
7月31日(月)	絵手紙	10	10月27日(金)	ヨガ③	12
8月8日(火)	落語	24	11月28日(火)	手芸①	15
9月22日(金)	ヨガ①	14	11月29日(水)	手芸②	15
9月26日(火)	パソコン①	3	12月25日(月)	小さな門松づくり	15
合 計					165

【ボランティアセンター利用状況】

	利用者(名)	月平均
ボランティアセンター	668	56

《成果と課題》

○運営方針

引き続き、新型コロナウイルス感染症の予防に配慮しながら、高齢者の安心・安全な施設利用を重点課題にして運営を行った。また、利用者が居心地の良さを感じながら定期的に仲間づくりを行える場を提供するという方針で運営を行った。そのため、可能な限り柔軟に利用者のニーズに応えるようサービスを提供した。

建物の老朽化とともに、設備の修繕箇所も多く出てきている。利用者の年齢も高齢化し、2階への階段の上り下りが難しいことから、1階の貸館希望者が増加している状況であり、1階集会室入口の段差にスロープを設置する修繕を行った。

○山口市福祉センター講座

講師の魅力と丁寧な指導により、ものづくり講座は、参加者からの事後アンケートでも高い評価が得られた。昨年度の課題をふまえ、参加者の費用負担が少ない講座を新たに増やしたこと、また、秋吉台芸術村のご厚意により、落語家を迎えられたことで、利用者の満足度も高い評価が得られた。今後も、高齢者が楽しめる内容の情報収集に努め、館内掲示や市社協だより等広報活動により、利用者が興味を持ち参加できる講座を実施していきたい。

○駐車場

前庭の植木の剪定を工夫してもらい、公園内のもみの木が伐採されたことにより、見通しは良くなり、安全面も改善されてきている。利用者が多い場合は、同じ利用団体の縦列駐車を呼びかけ、利用者の意識も定着してきているが、高齢者の運転技術には個人差があり、ヒヤットとする場面が数回あった。児童の前庭利用もあることから、今後も駐車場内での見守りは必要と思われる。

○感染症対策

マスクの着用については個人の判断で自由となったが、貸館利用時には、引き続き、手指消毒、消毒セットの使用、換気等協力をお願いした。玄関の下足箱が経年劣化し、衛生面を含め、スリッパと下足を分けて収納できる下足箱に取り替えた。

(2) 秋穂コミュニティセンターの運営 * 受託事業

○年間来館者数

	開館日数 (日)	総来館者 人数(名)	地域別内訳(名)		
			秋穂地域	山口市内	その他
合計	340	11,053 (児童クラブ「秋穂児童にこにこ学級」通級児童6,641名含む)	9,054	1,456	543
月平均		921	755	121	45
一日平均		33	25	4	2
一日平均		30.5	24.8	3.5	2.1

(3) 山口市阿知須健康福祉センター(おげんきかん)の運営 * 指定管理事業

○事業内容:平成15年度に開館した施設(20年目)の指定管理者として、円滑な運営を行っている。

年間延利用者 14,474名 (前年度比 2,350名増) 月平均 約1,206名 の利用

	福祉関係	保健関係	各種 団体	定期 利用	社協 関係	高齢者 娯楽室	その他	合計
合計(名)	1,511	3,339	2,977	2,793	1,931	771	2,793	14,474
%	10.44	23.07	20.57	19.30	13.34	5.33	7.96	100

- * 福祉関係 (3者会議、定例民協、情報交換会、福祉相談、視察研修、各種講習会など)
- * 保健関係 (健康相談、健診事業、子育て支援事業、ブックスタート、各種健康教室など)
- * 各種団体 (コムニオの会、ほほえみの会、母子保健推進協議会、食生活改善推進協議会、ことぶき会、老人クラブ、手話友の会、シルバー人材センターなど)
- * 定期利用 (きんもくせい、3B体操、さわやかコーラス、ひまわり、民児協、山コラテン Lovers、きららヨガサークル、子育て支援センター、囲碁同好会、阿知須介入研究など)
- * 社協関係 (社協の各種事業、地区社協事業、研修会など)
- * 高齢者娯楽室 (囲碁(文化祭)・将棋)
- * その他 (おげんきかんまつり、児童クラブ、こども食堂など)
- * コロナ禍が収束後、利用者が増加傾向にある。

山口市の福祉概要

(令和6年3月31日現在)

人口	186,088 人	
	(住民基本台帳による)	
世帯数	90,687 世帯	
高齢化率	30.63 %	
65歳以上高齢者数	56,994 人	
70歳以上一人暮らし世帯数 (R5. 5. 1)	6,925 世帯	
75歳以上二人暮らし世帯数 (R5. 5. 1)	3,217 世帯	
民生委員・児童委員	398 人	
主任児童委員数	44 人	
身体障害者手帳保持者	6,927 人	
療育手帳保持者	1,713 人	
精神障害者保健福祉手帳保持者	2,190 人	
児童扶養手当受給資格者数	1,575 人	
被保護世帯数	1,201 世帯	
保健福祉施設数	養護老人ホーム	3 箇所
	特別養護老人ホーム	20 箇所
	軽費老人ホーム(ケアハウス含む)	6 箇所
	老人福祉センター	3 箇所
	老人福祉施設付設作業所	1 箇所
	老人短期入所施設	22 箇所
	デイサービスセンター(通所介護)	105 箇所
	デイケアセンター(通所リハ)	9 箇所
	地域包括支援センター	10 箇所
	在宅介護支援センター	3 箇所
	生活支援ハウス	1 箇所
	介護老人保健施設	9 箇所

保健福祉施設数	介護医療院	3 箇所
	訪問看護ステーション	30 箇所
	グループホーム(認知症)	21 箇所
	宅 老 所	0 箇所
	保 育 所	39 箇所 うち1箇所休園を含む
	地域型保育事業所	7 箇所
	へき地保育所	4 箇所 うち2箇所休園を含む
	認定こども園	7 箇所
	生活介護事業所	23 箇所
	自立訓練(生活訓練・宿泊型自立訓練)事業所	3 箇所
	就労移行支援事業所	6 箇所
	就労継続支援事業所A型	6 箇所
	就労継続支援事業所B型	29 箇所
	共同生活援助事業所	19 箇所
	相談支援事業所	13 箇所
	障害者支援施設(施設入所支援)	6 箇所
	地域活動支援センター	4 箇所
	児童養護施設	3 箇所
	児童心理治療施設	1 箇所
	児童家庭支援センター	1 箇所
	福祉障害児発達支援センター	1 箇所
	障害児通所支援事業所	61 箇所
	児童自立支援施設	1 箇所
	母子生活支援施設	1 箇所